

## 授業概要

科目名	キャリアプランニング	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	抜井 健之		
学科コース	心理カウンセラーコース	学年	1年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間

### 【授業を通じての到達目標】

- 1、「聞く、話す」ということばを使ったコミュニケーションを上手に行うための基本的な技法を知り、それを使う「習慣」を身に付ける。
  - 2、自分なりに問題をとらえ（自問自答）、他者との対話を通じて、自分も他者も納得できる解決策を見つける力（問題解決力）を育む。
  - 3、自分を良く知り（自己理解）、自分と関わる他者を良く理解する（他者理解）ことを通じて、自分を支えてくれる自己信頼を守り、強化し続けられるようになる。

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

福祉(社会福祉・介護福祉)・医療(歯科衛生・リハビリ)分野のクラス・学科運営の経験から培われた職業人教育を実践する教員が、コミュニケーションを上手に行うだけに留まらず問題解決力を育み、自己信頼を強化し続けられるように授業を行う。

【使用教科書・教材・参考図書】		【授業時間外における学習】	
なし(オリジナルPPT)			
コマ	授業計画	コマ	授業計画
1 4/15	<p>【授業単元】 キャリアプランニングの授業とは(安心安全な場の構築と1年後4年後に向けた将来像の構築) 添入研修振り返り 開講1Wの目標設定 キャリアサポートアンケート</p> <p>【到達目標】 マインドとスキルの「マインド」の重要性を認識する 円滑な学校生活を送るために自らの短期目標を設定する</p>	9 6/24	<p>【授業単元】 3つの習慣(優先事項)</p> <p>【到達目標】 今、何をすべきかを各自考える</p>
2 4/22	<p>【授業単元】 開講1Wの振り返り 翌1Wの目標設定 GWの過ごし方・宿題</p> <p>【到達目標】 GWシンドローム対策を講じ、自らがシンドロームにならない</p>	10 7/1	<p>【授業単元】 コミュニケーションゲーム①</p> <p>【到達目標】 集団としての相互支援体制を構築する</p>
3 5/13	<p>【授業単元】 グループワーク(コンセンサス確認)</p> <p>【到達目標】 安心安全な場の構築として自分の居場所を確保する</p>	11 7/8	<p>【授業単元】 コミュニケーションゲーム②</p> <p>【到達目標】 集団としての相互支援体制を構築する</p>
4 5/20	<p>【授業単元】 認知特性について</p> <p>【到達目標】 自身の勉強スタイルを確立する</p>	12 7/15	<p>【授業単元】 コミュニケーションゲーム③</p> <p>【到達目標】 集団としての相互支援体制を構築する</p>
5 5/27	<p>【授業単元】 コミュニケーションとは コミュニケーションの必然性</p> <p>【到達目標】 コミュニケーションという概念を言語化・共有化し、コミュニケーション力は、先天性のものでなく学習すれば向上することを理解する。</p>	13 7/22	<p>【授業単元】 コミュニケーションゲーム④</p> <p>【到達目標】 集団としての相互支援体制を構築する</p>
6 6/3	<p>【授業単元】 前回の復習 コミュニケーションの種類について</p> <p>【到達目標】 コミュニケーションの基本【聞く・話す】を実践し、自身のコミュニケーション能力を知る</p>	14 7/29	<p>【授業単元】 コミュニケーションゲーム⑤ 定期試験実技30点分</p> <p>【到達目標】 集団としての相互支援体制を構築する</p>
7 6/10	<p>【授業単元】 前回の復習 コミュニケーションスキルについて</p> <p>【到達目標】 コミュニケーションの基本スキルを実践し、自身のコミュニケーション能力を知る</p>	15 8/5	<p>【授業単元】 マインドスキルの総復習 マインドスキルについて(レポート試験)定期試験30点分 夏休みの過ごし方・宿題</p> <p>【到達目標】 マインドスキルを体系化し、言語化し、具体的に自身の将来像を明確化させる</p>
8 6/17	<p>【授業単元】 中テスト(コミュニケーションについてのレポート)</p> <p>【到達目標】 コミュニケーションスキルを体系化し、言語化し、具体的に自身のコミュニケーション能力をアップさせる 集団としての相互支援体制を構築する</p>		<p>【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験はレポート試験で行う。</li> <li>・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。</li> </ul>
	<p>【履修に当たっての心構え・留意点】</p>		

## 授業概要

### 【授業を通じての到達目標】

様々な情報を持ち、自分の頭で考え、整理し決断できるようになる。  
コミュニケーションの柱である、常識・マナー・社会のルールを身に着け実践できるようになる。  
自分自身を社会に出て、マーケティングができるようになる。

【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)

流通業界では様々な仕入れ販売の経営経験を持ち、一部上場企業メーカー勤務では、製造から営業経験をし、現在3社を経営するオーナーが教える、社会人としての考え方目標設定の仕方、達成の仕方・人脈の作り方を講義します。

ビジネスだけでなく、個人として必要な生きる力をわかりやすく講義します。また、カウンセラーとして精神的健康の維持・心が壊れない考え方・自分との付き合い方・1対1のコミュニケーション心理・縦の人間関係のコミュニケーションの考え方をわかりやすく講義します。

【使用教科書・教材・参考図書】		【授業時間外における学習】	
毎回授業の際、資料を配布		世の中の疑問点を探し質問する	
コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	<p>【授業単元】 オリエンテーション</p> <p>【到達目標】 後期15回の流れの説明と到達地点の確認をイメージする。 各コマの予告編</p>	9	<p>【授業単元】 中間試験</p> <p>【到達目標】 1回から8回までの復習と調整 中間テストによる理解度のチェックをします。</p>
2	<p>【授業単元】 マーケティングマネジメント基礎理論</p> <p>【到達目標】 ①パリュープロポジションとは何か学び理解する。 ②マーケティングの中核・実体・付属機能について学ぶ。 戦略戦術が立てられるようになる。</p>	10	<p>【授業単元】 お金・税金・インボイス制度</p> <p>【到達目標】 経費について学び理解する。</p>
3	<p>【授業単元】 マーケティングマネジメント基礎理論</p> <p>【到達目標】 ①イノベーター理論・キャズム理論について学ぶ。マイケルポーターの理論 ②物や人がなぜ売れたのか？様々な例を基に理解する。</p>	11	<p>【授業単元】 ライフプラン</p> <p>【到達目標】 ライフプランを実際に立て将来をイメージし書き出す。 相続・根抵当について知る。</p>
4	<p>【授業単元】 アイドルエコノミー</p> <p>【到達目標】 アイドリングビジネスを学び理解し戦術戦略が立てられる。 顧客は、お金を出して何を買っているのかを学び、戦略戦術が立てられる。 らしさを分析する。</p>	12	<p>【授業単元】 考え方 7つの習慣</p> <p>【到達目標】 ①主体性を発揮する ②目的を持って始める ③重要事項を優先する</p>
5	<p>【授業単元】 手紙・はがき・敬語・尊敬語・丁寧語・クッション言葉</p> <p>【到達目標】 挨拶文・御礼文のルールを学び、書けるようになる。敬語・尊敬語・丁寧語・クッション言葉を学び、使いこなせるようになった。 会話にオーラのある人の生き方を学び習得する。</p>	13	<p>【授業単元】 考え方 7つの習慣</p> <p>【到達目標】 7つの習慣 ④Win-Winを考える ⑤理解してから理解される ⑥相乗効果を発揮する ⑦刃を研ぐ</p>
6	<p>【授業単元】 履歴書</p> <p>【到達目標】 履歴書のルールを学ぶ 自己覚知する。自分の長所を文章にして書き出す。</p>	14	<p>【授業単元】 復習</p> <p>【到達目標】 1回から13回までの復習と調整 定期試験のポイントを開設する。</p>
7	<p>【授業単元】 履歴書</p> <p>【到達目標】 自分のセールスポイントを、原稿用紙に書き出す。</p>	15	<p>【授業単元】 定期試験 振り返り</p> <p>【到達目標】 1回～14回までの、授業理解度の確認 自分の考えを書く、答えの無い試験問題です。</p>
8	<p>【授業単元】 経営者の仕事</p> <p>【到達目標】 経営者の仕事について学ぶ。 世の中の、しきたりについて学び理解する。</p>	<p>【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。</p> <p>試験は筆記試験で行う。</p>	
<p>【履修に当たっての心構え・留意点】</p> <p>1コマ1コマの授業は、ジグソーパズルの1ピースのようなものです。休むことなく完成させてください。また、休んだ場合は友人に授業内容を確認して補ってください。</p>			

## 授業概要

## 授業概要

科目名	チャレンジプログラム指導	必修選択の別	必修	開講区分	後期	担当教員	抜井 健之		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	60 時間

### 【授業を通じての到達目標】

様々な現場での専門職員や利用者を知ることを通して、自分の将来像を明確にすることを目的とする。

この授業においては、チャレンジプログラムにおける現場体験をもとに、振り返りを実施し、自己の体験・意見と他者の体験・意見を共有する中で、自分の価値観の幅を広げるこ。また、理想の職業像と自己において乖離がみられる部分はどのようにして自己研鑽していくか計画を立てていく。

### 【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

福祉専門職育成に携わる教員が、当プログラムの目的及び実習に関する基本的なマナーについて指導をする。合わせて、各事業所における現場職員が、実習機会を提供し、利用者理解と事業所理解に資する技術・知識について指導を行う。

### 【使用教科書・教材・参考図書】

教材: 資料の配布

### 【授業時間外における学習】

自己研鑽が必要な部分は自ら調べ、体験していくこと。

コマ	授業計画	コマ	授業計画
1 9/23	【授業単元】 授業スケジュールの説明 チャレンジ前プログラム①  【到達目標】 実習の目的を理解し、自分の目標を説明することができる。 実習マナーを実践することができる	9 12/2	【授業単元】 4日体験プログラム①振り返り  【到達目標】 個人・グループにおける振り返りを実施し、気づきを得ることができる
2 9/30	【授業単元】 チャレンジ前プログラム② 実習先紹介・実習日誌・チャレンジの目標作成  【到達目標】 実習日誌に自分の目標、考察が書けるようになる	10 12/9	【授業単元】 4日体験プログラム②振り返り  【到達目標】 個人・グループにおける振り返りを実施し、気づきを得ることができる
3 10/7	【授業単元】 チャレンジ前プログラム③ 実習先調査  【到達目標】 様々な施設の働きや役割について調べ、説明することができる。	11 12/16	【授業単元】 4日体験プログラム③振り返り  【到達目標】 個人・グループにおける振り返りを実施し、気づきを得ることができる
4 10/14	【授業単元】 1日体験プログラム①振り返り 実習先調査  【到達目標】 個人・グループにおける振り返りを実施し、気づきを得ることができる	12 1/20	【授業単元】 4日体験プログラム④振り返り 講演概要調査  【到達目標】 個人・グループにおける振り返りを実施し、気づきを得ることができる 講演者が勤める施設における支援者の働きや役割について調べ、説明することができる
5 10/21	【授業単元】 1日体験プログラム②振り返り 実習先調査  【到達目標】 様々な施設において対象者と主体的にコミュニケーションをとることができ る施設の働き・役割について説明することができる	13 1/27	【授業単元】 講演概要調査  【到達目標】 講演者が勤める施設における支援者の働きや役割について調べ、説明することができる
6 10/26	【授業単元】 1日体験プログラム③振り返り 実習先調査  【到達目標】 様々な施設において対象者と主体的にコミュニケーションをとることができ る施設の働き・役割について説明することができる	14 2/3	【授業単元】 プレゼン準備 定期試験①  【到達目標】 チャレンジプログラムの内容について自分で振り返ることができる
7 11/4	【授業単元】 1日体験プログラム④振り返り 実習先調査  【到達目標】 様々な施設において対象者と主体的にコミュニケーションをとことができ る施設の働き・役割について説明することができる	15 2/10	【授業単元】 プレゼン準備 定期試験②  【到達目標】 チャレンジプログラムの内容について自分で振り返ることができる
8 11/25	【授業単元】 振り返りプレゼン 実習先調査 中テスト  【到達目標】 1回目から7回目までの学びをプレゼンすることができる	<p style="text-align: center;"><b>【成績評価の方法と基準】</b></p> <p>小テスト、中テスト、定期試験にて総合評価を行う。 合計点数 GP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆A評価 100~90点 4.0</li> <li>◆B評価 89~80点 3.0</li> <li>◆C評価 79~70点 2.0</li> <li>◆D評価 69~60点 1.0</li> <li>◆E,F評価 59点以下又は出席不良は、不合格とする。</li> </ul>	
<p><b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b></p> <p>デバイスは十分な充電を行って講義を受けてください。</p>			

## 授業概要

科目名	チャレンジプログラム	必修選択の別	必修	開講区分	後期	担当教員	抜井 健之		
学科コース	心理カウンセラーコース	学年	1年	授業の方法	演習	単位数	5 単位	総時間数	150 時間

### 【授業を通じての到達目標】

様々な現場での専門職員や利用者を知ることを通して、自分の将来像を明確にすることを目的とする。それを明確にすることによって、普段の学業や私生活において意味付けを追加し、充実した学校生活を送ることができるようになる。

### 【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

福祉専門職育成に携わる教員が、当プログラムの目的及び実習に関する基本的なマナーについて指導をする。合わせて、各事業所における現場職員が、実習機会を提供し、利用者理解と事業所理解に資する技術・知識について指導を行う。

### 【使用教科書・教材・参考図書】

教材:適宜資料を配布

### 【授業時間外における学習】

実習内容の振り返りと共に、関連する内容についての調べ学習やボランティアの参加等を要する。

コマ	授業計画	コマ	授業計画
6/20 (特別授業) 2コマ	【授業単元】 日本精神医学資料館見学  【到達目標】 精神障害者の歴史やその背景を知る	7 11/8	【授業単元】 東京都児童相談所 講演  【到達目標】
9/18 9/19 集中 4コマ	【授業単元】 チャレンジ前教育① ② 前期成績確定発表 後期スケジュール チャレンジプログラムスケジュール・要綱読み合わせ  【到達目標】 前期の学習を踏まえ、後期(チャレンジプログラム)の身構え・気構え・心構えを確立する 実習生としての基本的なマナーについて理解し、実践することができる	8 11/22	【授業単元】 4日体験プログラム①  【到達目標】 4日前の同施設体験を行い、施設の概要や職員の業務内容、利用者像を知ることができる 利用者と主体的にコミュニケーションをとることができ 自分のコミュニケーションにおける課題を発見し、取り組む計画が作れる 支援者の役割を理解することができる
1 9/26	【授業単元】 チャレンジ前教育③  【到達目標】 施設見学等を行い、施設の概要や職員の業務内容、利用者像を知ることができる 様々な施設において対象者と主体的にコミュニケーションをとることができ 自分のコミュニケーションにおける課題を発見し、取り組む計画が作れる	9 11/29	【授業単元】 4日体験プログラム②  【到達目標】 4日前の同施設体験を行い、施設の概要や職員の業務内容、利用者像を知ることができる 利用者と主体的にコミュニケーションをとることができ 自分のコミュニケーションにおける課題を発見し、取り組む計画が作れる 支援者の役割を理解することができる
2 10/4	【授業単元】 1日体験プログラム①  【到達目標】 施設見学等を行い、施設の概要や職員の業務内容、利用者像を知ることができる 様々な施設において対象者と主体的にコミュニケーションをとことができ 自分のコミュニケーションにおける課題を発見し、取り組む計画が作れる	10 12/6	【授業単元】 4日体験プログラム④  【到達目標】 4日前の同施設体験を行い、施設の概要や職員の業務内容、利用者像を知ることができる 利用者と主体的にコミュニケーションをとることができ 自分のコミュニケーションにおける課題を発見し、取り組む計画が作れる 支援者の役割を理解することができる
3 10/11	【授業単元】 1日体験プログラム②  【到達目標】 様々な施設において対象者と主体的にコミュニケーションをとることができ 施設の働き・役割について説明することができる	11 12/13	【授業単元】 4日体験プログラム③  【到達目標】 4日前の同施設体験を行い、施設の概要や職員の業務内容、利用者像を知ることができる 利用者と主体的にコミュニケーションをとることができ 自分のコミュニケーションにおける課題を発見し、取り組む計画が作れる 支援者の役割を理解することができる
4 10/18	【授業単元】 1日体験プログラム振り返り (発表)  【到達目標】 自身が実際に行った施設を、第3者に伝えることができる	12 13 14 15 1/10 1/17 1/24 1/31	【授業単元】 プレゼン発表① 定期試験  【到達目標】 これまで学んだことを復習することができる 内容をまとめ、プレゼンを行ふことができる 定期試験後に解説を行い、重点項目について理解をする
5 10/25	【授業単元】 4日体験プログラム 自己紹介書作成  【到達目標】 4日体験プログラムに対し、気構え・身構え・心構えを構築する	2/7 2/14 2/21 (集中)	【授業単元】 入学期前教育プレゼンに向けた準備  【到達目標】 これまで学んだことを伝えることができる 内容をまとめ、プレゼンを行ふことができる 定期試験後に解説を行い、重点項目について理解をする
6 11/1	【授業単元】 市原少年院見学  【到達目標】		【成績評価の方法と基準】 小テスト・中テスト・定期試験にて総合評価を行う。 合計点数 GP ◆A評価 100~90点 4.0 ◆B評価 89~80点 3.0 ◆C評価 79~70点 2.0 ◆D評価 69~60点 1.0 ◆E,F評価 59点以下又は出席不良は、不合格とする。
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>			
デバイスは十分な充電を行って講義を受けてください。 チャレンジプログラムにおいては1~4限まで要するが、1コマと表記する。			

## 授業概要

## 授業概要

科目名	情報リテラシーⅠ	必修選択の別	必修	開講区分	通年(後期)	担当教員	株式会社 ブレーンスタッフコンサルタンツ		
学科コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間

### 【授業を通じての到達目標】

- ・Excelを利用した基本的なデータ処理や、表・グラフを活用した実践的な資料作成ができる
  - ・Excelの応用的な関数や、シート間集計を学び、目的に応じたデータ処理を実践できる

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

滋慶学園グループの企業である(株)ブレーンスタッフコンサルタントのラーニングマネージャーが、卒業研究や就職後に必須となるパソコンスキルについての講義を実施。学生に必要なスキルに特化した、オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用

【使用教科書・教材・参考図書】 オリジナルのe-learningテキスト		【授業時間外における学習】 e-learningテキストで操作手順を確認し、PC操作を実践する	
コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	<p>【授業単元】 PowerPoint制作 ※全員登校</p> <p>【到達目標】 夏休みの体験をスライドにまとめることができる</p>	9	<p>【授業単元】 Excel応用A データベース</p> <p>【到達目標】 データベース機能を理解し活用できる</p>
2	<p>【授業単元】 CCT入門3</p> <p>【到達目標】 検索力を身につけ、正しい情報かどうか判断できる</p>	10	<p>【授業単元】 Excel応用B 関数応用1</p> <p>【到達目標】 応用的な関数を活用できる</p>
3	<p>【授業単元】 CCT入門4 Office基本操作</p> <p>【到達目標】 Excelの基本操作ができる</p>	11	<p>【授業単元】 Excel応用C 関数応用2</p> <p>【到達目標】 応用的な関数を活用できる</p>
4	<p>【授業単元】 Excel基礎1 基本操作</p> <p>【到達目標】 企業や施設が求める表計算ソフトの操作ができる</p>	12	<p>【授業単元】 Excel応用D グラフ応用</p> <p>【到達目標】 目的に合ったグラフを選択し、作成することができる</p>
5	<p>【授業単元】 Excel基礎2 数式と関数基礎</p> <p>【到達目標】 企業や施設が求める表計算ソフトの操作ができる</p>	13	<p>【授業単元】 Excel応用E ブックの活用</p> <p>【到達目標】 ブックを活用するさまざまな機能を理解し活用できる</p>
6	<p>【授業単元】 Excel基礎3 グラフ基礎</p> <p>【到達目標】 グラフを駆使した資料を作成できる</p>	14	<p>【授業単元】 Excel試験対策</p> <p>【到達目標】 Excel講座で学習した操作を繰り返し練習して、設問指示に従った操作を実践できる</p>
7	<p>【授業単元】 Excel実践</p> <p>【到達目標】 Excel基礎講座で学習した操作を繰り返し練習して、設問指示に従った操作を実践できる</p>	15	<p>【授業単元】 Excel定期試験、振り返り ※全員登校</p> <p>【到達目標】 設問指示に従った操作を実践して、Excel資料を作成できる</p>
8	<p>【授業単元】 Excel中テスト ※全員登校</p> <p>【到達目標】 設問指示に従った操作を実践して、Excel資料を作成できる</p>	【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験はPCを使用したExcel資料作成を行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。	
【履修に当たっての心構え・留意点】 PC操作は日々繰り返すことでタイピング速度が上がり、効率的な資料作成やデータ処理が可能になります。できるだけ日常に取り入れて活用してください			

## 授業概要

科目名	ソーシャルワーク特別演習Ⅰ	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	金松 和			
学科コース	心理カウンセラーコース	学年	1年	授業の方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間	
【授業を通じての到達目標】										
身体と心のつながりを学ぶ。 身体を動かすことがどう心に変化が生じるのかということを学ぶ。										
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)										
私は民間スポーツクラブにて10年ほど勤務し、その後、大学・高校などの部活動でトレーナー活動を行っています。健康とは体にどのような良いことがあるかを知ってもらえる授業を行っていきたいです。										
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】						
配布資料				授業時間外では普段の歩き方、立ち方に注意しましょう。猫背・反り腰を腰痛や肩凝りを起こします。						
コマ	授業計画	コマ	授業計画							
1	【授業単元】 座学: 体を動かす楽しさ・大切さとは 実技: レクリエーション	9	【授業単元】 座学・実技: ストレッチで健康な体になろう！							
	【到達目標】 座学: 体を動かす楽しさ・大切さを理解し、文章にすることができる。 実技: レクリエーションを通じて体を動かす楽しさを実感できる。		【到達目標】 ストレッチの注意点を理解でき、ストレッチの動作を3つ正しい姿勢で実践できる。							
2	【授業単元】 座学: 規則正しい生活って何が良い？ 実技: 風船パレーをやってみよう！	10	【授業単元】 座学・実技: ストレッチで健康な体になろう！							
	【到達目標】 座学: 規則正しい生活を理解し、文章にすることができる。 実技: みんなで風船パレーを楽しくできる。		【到達目標】 1日10分、ストレッチを実践して体の変化に3つ挙げることができる。							
3	【授業単元】 座学: 規則正しい生活って何が良い？～睡眠編～ 実技: 脳トレ！をやってみよう！	11	【授業単元】 座学・実技: たくさん歩いて健康な体になろう！							
	【到達目標】 座学: 規則正しい生活の為に睡眠の大切さを理解し、文章にすることができる。 実技: 脳トレ！を実践し、楽しくできる。		【到達目標】 正しい歩き方(姿勢・歩幅など)を理解でき、実践することができる。							
4	【授業単元】 座学: 規則正しい生活って何が良い？～運動編～ 実技: 筋トレをやってみよう！	12	【授業単元】 座学・実技: たくさん歩いて健康な体になろう！							
	【到達目標】 座学: 規則正しい生活の為に運動の大切さを理解し、文章にすることができる。 実技: 筋トレを実践し、2種類以上、説明が出来る。		【到達目標】 1日8,000歩、歩いて体の変化を3つ挙げることができる。							
5	【授業単元】 座学・実技: パラスポーツ(ボッチャ)をやってみよう！	13	【授業単元】 座学・実技: 正しい痩せ方(ダイエット)を知ろう！							
	【到達目標】 パラスポーツ(ボッチャ)のルールを理解し、みんなで楽しく実践できる。		【到達目標】 正しい痩せ方(ダイエット)について理解し、文章にすることができる。							
6	【授業単元】 実技: パラスポーツ(ボッチャ)をやってみよう！	14	【授業単元】 座学・実技: ○○ダイエットに挑戦！							
	【到達目標】 パラスポーツ(ボッチャ)をみんなで協力しながら、楽しく実践できる。		【到達目標】 ○○ダイエットに挑戦して体の変化を3つ挙げることができる。							
7	【授業単元】 座学・実技: ロコモ度チェックをやってみよう！	15	【授業単元】 座学: 振り返り 試験: グループワーク							
	【到達目標】 ロコモ度チェックの必要性・測定項目・実施方法・評価方法を理解し、実践できる。		【到達目標】 今までの授業を振り返り、運動がもたらす体の変化を理解し、どうしたら継続できるかをグループで話し合い、発表することができる。							
8	【授業単元】 運動を考えてみましょう！		【成績評価の方法と基準】 科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。							
	【到達目標】 みんなが楽しくできる運動を考え、発表できる。									
【履修に当たっての心構え・留意点】										
積極的に行行動しましょう。										

## 授業概要

科目名	ソーシャルワーク特別演習Ⅰ	必修選択の別	必修	開講区分	前期集中	担当教員	抜井 健之		
学科コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
新入生オリエンテーション・導入研修を通じて、クラス相互支援関係の構築、自己の将来像・学校生活を円滑に行うルールについて、振り返り、理解を深める。									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
福祉(社会福祉・介護福祉)・医療(歯科衛生・リハビリ)分野のクラス・学科運営の経験から培われた職業人教育を実践する教員が、コミュニケーションを上手に行うだけに留まらず問題解決力を育み、自己信頼を強化し続けられるように授業を行う。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
なし(オリジナルPPT)									
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1 4/1	<p>【授業単元】 新入生オリエンテーション ・職員紹介 ・担任自己紹介 ・こんなクラスにしたい担任ビジョン <b>【到達目標】</b> 東京福祉専門学校に入学して「よし頑張ろう」という意思を強く持つ</p>	9 4/8	<p>【授業単元】 導入研修④ ・マインドとスキルについて ・目的と目標の違い ・目標の考え方 ・宣言誓約作成 <b>【到達目標】</b> マインドとスキルの考え方を理解する 質の高い目標を考え、自分の言葉で宣言書に書き込む</p>						
2 4/1	<p>【授業単元】 新入生オリエンテーション ・職員紹介 ・担任自己紹介 ・こんなクラスにしたい担任ビジョン <b>【到達目標】</b> 東京福祉専門学校に入学して「よし頑張ろう」という意思を強く持つ</p>	10 4/8	<p>【授業単元】 導入研修④ ・マインドとスキルについて ・目的と目標の違い ・目標の考え方 <b>【到達目標】</b> マインドとスキルの考え方を理解する 質の高い目標を考え、自分の言葉で宣言書に書き込む</p>						
3 4/3	<p>【授業単元】 導入研修① ・導入研修の目的 ・組織とは、コミュニケーションとは? ・コミュニケーション演習 <b>【到達目標】</b> 安心安全な教室を皆で創る</p>	11 4/11	<p>【授業単元】 導入研修⑤ ・入学式振り返り ・組織におけるツールとは ・宣言誓約のルール、学則施行細則グループワーク ⇒解説 <b>【到達目標】</b> 東京福祉のルールについて理解し、実践できるようにする</p>						
4 4/3	<p>【授業単元】 導入研修① ・導入研修の目的 ・組織とは、コミュニケーションとは? ・コミュニケーション演習 <b>【到達目標】</b> 安心安全な教室を皆で創る</p>	12 4/11	<p>【授業単元】 導入研修⑤ ・入学式振り返り ・組織におけるツールとは ・宣言誓約のルール、学則施行細則グループワーク ⇒解説 <b>【到達目標】</b> 東京福祉のルールについて理解し、実践できるようにする</p>						
5 4/4	<p>【授業単元】 導入研修② ・コミュニケーション演習 <b>【到達目標】</b> 安心安全な教室を皆で創る</p>	13 4/12	<p>【授業単元】 導入研修⑤ ・入学式振り返り ・組織におけるツールとは ・宣言誓約のルール、学則施行細則グループワーク ⇒解説 <b>【到達目標】</b> 東京福祉のルールについて理解し、実践できるようにする</p>						
6 4/4	<p>【授業単元】 導入研修② ・コミュニケーション演習 <b>【到達目標】</b> 安心安全な教室を皆で創る</p>	14 4/12	<p>【授業単元】 導入研修⑥ ・学生生活の手引き 読み合わせ ・学則施行細則・学生生活の手引きまとめ ・担任面談・座席・選択科目について <b>【到達目標】</b> 東京福祉のルールについて理解し、実践できるようにする</p>						
7 4/5	<p>【授業単元】 導入研修③ ・精神保健福祉士とは? ・公認心理師とは? ・心理カウンセラー科が目指す将来像 <b>【到達目標】</b> 精神保健福祉士・公認心理師の仕事・資格再理解 それらを自分の言葉でまとめる</p>	15 8/5	<p>【授業単元】 導入研修⑥ ・全体の流れ(項目)を再確認 ・各項目の振り返りシート作成 <b>【到達目標】</b> 新入生オリエンテーション・導入研修を通じて、クラス相互支援関係の構築、自己の将来像・学校生活を円滑に行うルールについて、振り返り、理解を深める。</p>						
8 4/5	<p>【授業単元】 導入研修③ ・精神保健福祉士とは? ・公認心理師とは? <b>【到達目標】</b> 精神保健福祉士・公認心理師の仕事・資格再理解 それらを自分の言葉でまとめる</p>			<b>【成績評価の方法と基準】</b>					
				・試験はレポート試験(振り返りシート)で行う。					
				<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>					

## 授業概要

科目名	カウンセリングの基礎	必修選択の別	必修	開講区分	後期	担当教員	久保田 康文			
学科コース	心理カウンセラーコース	学年	1年	授業の方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間	
【授業を通じての到達目標】										
<ul style="list-style-type: none"> <li>●カウンセリングの見立てと方針についての考え方を理解できる。</li> <li>●様々な事例を設定したロールプレーを通して、査定、見立て、方針を立てることができる。</li> </ul>										
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)										
<p>精神科医療現場や教育現場(スクールカウンセラー教育相談)の中で、認知行動療法をベースにした関わりをもつた教員が、公認心理師を目指すために、具体的な取り組みを紹介しながら、カウンセリングの理解や支援方法を習得する授業を行う。さらに、ロールプレーを通して、今、どのような支援が必要か、自らの考えを理解を深め、心理師として多角的な視点と専門的な知識を併せ持つスペシャリストを目指して欲しい。講義は、パワーポイントを用いて、事例を設定しロールプレーを行う授業を行う。</p>										
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】					
使用図書:カウンセリングの見立てと方針 創元社					授業を通じて「理解」「考え」「体験」し、そしてそれらをより深めるための自主的な学習そして体験が、現場で役立つものとなるでしょう。自らの学びの中で疑問点などを積極的に質問してより学びを深めてください。					
コマ	授業計画	コマ	授業計画							
1	【授業単元】 オリエンテーション、この授業の目的について理解する。 カウンセリングとは何か?	【到達目標】 この授業の目的と進め方について理解する。 公認心理師が行うカウンセリングについて説明できる。	9	【授業単元】 事例8 見立てをまとめる	【到達目標】 事例を通して、どのような対応がより良いかを理解できる。 クライアントとの対話の中で、状態像、自己像、心の動きを観察し、見立てをまとめることができること。	10	【授業単元】 事例9 目標を定める	【到達目標】 事例を通して、どのような対応がより良いかを理解できる。 クライアントとの対話の中で、クライアントの今後の目標を定めることができる。	11	【授業単元】 事例10 方法を選択する
	【授業単元】 事例1 事例とタイトルとあらすじ									
2	【到達目標】 事例を通して、どのような対応がより良いかを理解できる。 事例にタイトルをつけることで、その事例の特徴を表現することができる。	【授業単元】 事例2 情報を集める	12	【授業単元】 事例11 構造を整える。	【到達目標】 事例を通して、どのような対応がより良いかを理解できる。 クライアントとの対話の中で、目標に向けた方法を選択することができる。	13	【授業単元】 事例12 途中経過において評価する	【到達目標】 事例を通して、どのような対応がより良いかを理解できる。 クライアントとの対話の中で、途中経過を評価することができる。	14	【授業単元】 事例13 終結像に評価する。
3	【到達目標】 事例を通して、どのような対応がより良いかを理解できる。 クライアントとの対話の中でどの情報が足りていないかを把握し、カウンセリングを通して必要な情報を集めることができる。	【授業単元】 事例3 曖昧な情報を明確化する	15	【授業単元】 定期試験 振り返り	【到達目標】 事例を通して、どのような対応がより良いかを理解できる。 クライアントとの対話の中で、終結時に評価することができる。		【成績評価の方法と基準】			
4	【到達目標】 事例を通して、どのような対応がより良いかを理解できる。 クライアントとの対話の中で曖昧な表現を明確にすることができます。	【授業単元】 事例4 得られた情報を整理する								
5	【到達目標】 事例を通して、どのような対応がより良いかを理解できる。 クライアントとの対話の中で、得られた情報を整理することができます。	【授業単元】 事例5 状態像を査定する								
6	【到達目標】 事例を通して、どのような対応がより良いかを理解できる。 クライアントとの対話の中で、クライアントの状態像を想像することができる。	【授業単元】 事例6 人物像を査定する								
7	【到達目標】 事例を通して、どのような対応がより良いかを理解できる。 クライアントとの対話の中で、クライアントがどういった人物かを想像することができる。	【授業単元】 中テスト(15満点)、事例7 心の働きを理解する								
8	【到達目標】 中テスト(これまでの振り返り) 事例を通して、どのような対応がより良いかを理解できる。 クライアントとの対話の中で、クライアントやカウンセラーの心の動きを観察し理解することができる。	【履修に当たっての心構え・留意点】 自分なりに知識を深め、積極的に質問をしてください。ロールプレーをたくさんしていきます。欠席や遅刻がないようにしてください。								

## 授業概要

## 授業概要

科目名	障害者福祉	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	渡邊知行		
学科コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1障害者福祉の考え方について歴史的背景や各理念などを総合的に踏まえて説明できる。 2障害者福祉に関する法制度やサービスの内容を説明できる。 3障害福祉の現場で果たす役割や支援のあり方について自身の考えを持つ。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 障害者グループホームの支援者として実務経験を積みながら、大学院で障害福祉分野の研究に取り組んできた講師が、現場事例や学術的背景を含めた授業を実施する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座8 障害者福祉』 中央法規					予習:①教科書対応ページを読む ②重要ポイントをネット検索(コマシラ参照) 復習:①授業資料を復習する ②教科書を読みなおす				
1	授業計画				コマ	授業計画			
	【授業単元】 オリエンテーション  【到達目標】 障害について考えて、自分なりの障害観を持つ。					【授業単元】 障害者福祉の主な関連法  【到達目標】 障害者福祉の主な関連法の概要を学び、それぞれの役割や意義を理解する。			
2	【授業単元】 障害に対する考え方  【到達目標】 (ICFとICIDH、医学モデルと社会モデルを学び、その違いについて理解する。				10	【授業単元】 障害者総合支援法①  【到達目標】 障害者総合支援法に基づく障害者福祉の体系について整理する。			
	【授業単元】 障害者福祉の理念  【到達目標】 ノーマライゼーションの起源を学び、その理念について歴史的背景から理解する。					【授業単元】 障害者総合支援法②  【到達目標】 障害者総合支援法に基づく障害福祉サービスの仕組みを理解する。			
4	【授業単元】 日本における障害者福祉の変遷  【到達目標】 障害者福祉の発展過程について、各時代の状況や背景を踏まえて理解する。				12	【授業単元】 障害者総合支援法③  【到達目標】 障害者総合支援法に基づく相談支援の仕組みを理解する。			
	【授業単元】 障害者福祉の行政と福祉計画  【到達目標】 基盤整備のために作成される障害福祉分野における福祉計画の機能と役割を理解する。					【授業単元】 障害者福祉に関する法律①  【到達目標】 障害者の生活や社会の環境に関する法律を学び、その必要性について理解する。			
6	【授業単元】 障害の定義  【到達目標】 障害について規定している法律を学び、障害者の定義、障害の特性や制度等を整理する。				14	【授業単元】 障害者福祉に関する法律②  【到達目標】 障害者の差別や虐待に関する法律を学び、諸問題について考えを持てる。			
	【授業単元】 障害者の生活実態  【到達目標】 障害者の生活実態について近年の傾向を把握して、支援方法について考える。					【授業単元】 定期テスト 振り返り  【到達目標】 前半授業で学んだ障害福祉の歴史・現状や理念・制度等を踏まえて、後半授業で勉強した現在施行されている障害福祉分野の諸法律による施策について説明できる。			
8	【授業単元】 中テスト  【到達目標】 前半授業で学んだこと(障害福祉の歴史と現状、理念や制度等)が総合的に理解できる。				15	【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。			
	【履修に当たっての心構え・留意点】 授業は、新しいことを知って理解する場です。理解しないと知識は定着しないので、授業では理解するように努めてください。しかし、理解するだけでは知識は定着しないので、復習してテストに応じてください。					【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。			

## 授業概要

科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	角田 友二		
学科コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間

### 【授業を通じての到達目標】

- ・社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。
  - ・ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。
  - ・ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

精神科病院においてソーシャルワーク全般とデイケアの専任としての経験から、スタッフに対して従順で勤勉なユーザーをつくりだすのではなく、ユーザー主体

【使用教科書・教材・参考図書】

【使用教科書・教材・参考図書】

【使用教材書 教材 參考圖書】  
中央社編出版 最新社會福利政策講座

中大法規出版 最新社会福祉士養成講座「精神保健福祉士養成講座」  
第11巻「ソーシャルワークの基盤と専門職」初版、ワークブック・過去問他

## 【授業時間外における学習】

- 授業回のテキストは読んでくること。
  - 精神保健に係る報道等については積極的に情報収集をすること。

コマ	授業計画	授業計画
1	<p>【授業単元】 オリエンテーション 映像資料NHK ETV特集「ルポ 死亡退院～精神医療・闇の実態」(養山病院)を視聴する。</p> <p>精神科医療の負の遺産を知ることにより、これから学びの動機づけを図る。</p>	<p>【授業単元】 第4章 ソーシャルワークの形成過程 第1節 ソーシャルワークの源流と基礎確立期 第2節 ソーシャルワークの発展期</p> <p>9 【到達目標】 ソーシャルワークが確立していく流れの中で、その前史としての社会的に弱い立場の人への支援の歴史、産業革命という背景、ソーシャルワークの萌芽、そしてソーシャルワークの発展の歴史を理解する。</p>
2	<p>【授業単元】 第1章 ソーシャルワーク専門職である社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ 第1節 ソーシャルワーク専門職である社会福祉士・精神保健福祉士 第2節 社会福祉士及び介護福祉士法</p> <p>【到達目標】 社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけとその身分法の制定の経緯や見直しの課程について理解する。</p>	<p>【授業単元】 第4章 ソーシャルワークの形成過程 第3節 ソーシャルワークの展開期と統合化 第4節 日本におけるソーシャルワークの形成過程</p> <p>10 【到達目標】 ソーシャルワークの対象となる領域の広がりと生活モデルの視点への変化、そしてジェネラリストソーシャルワーク実践への発展を理解する。また、日本における社会事業前史から、戦後の民主化への流れを経て、現代のソーシャルワークまでの流れを理解する。</p>
3	<p>【授業単元】 第1章 ソーシャルワーク専門職である社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ 第3節 精神保健福祉士法</p> <p>【到達目標】 精神保健福祉士の法的な位置づけとその身分法の制定の経緯や見直しの課程について理解する。</p>	<p>【授業単元】 第5章 ソーシャルワークの倫理 第1節 専門職倫理の概念 第2節 倫理綱領</p> <p>11 【到達目標】 ソーシャルワーカーの専門職倫理とは何かを理解する。そして実際の倫理綱領などを学ぶことで、倫理綱領を実践場面で活用していくようとする。</p>
4	<p>第1章 第4節 社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性 第5節 社会福祉士・精神保健福祉士に求められるコンピテンシー</p> <p>【到達目標】 標準事例をもとに社会福祉士・精神保健福祉士のソーシャルワーク実践のイメージを持ち、どのような知識、技術、価値を習得する必要があるか理解する。 ソーシャルワークが必要とされる社会的背景について理解する</p>	<p>第5章 ソーシャルワークの倫理 第3章 倫理的ジレンマ</p> <p>12 【到達目標】 ソーシャルワーカーが経験する倫理的ジレンマを理解して、倫理的な判断課程はどうあるべきかを学ぶ</p>
5	<p>【授業単元】 第2章 ソーシャルワークの概念 第1節 ソーシャルワークの定義</p> <p>【到達目標】 ソーシャルワークの代表的な定義である「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」を学び、その任務、諸原理、基盤となる知と実践についての内容についての理解を深めていく。</p>	<p>【授業単元】 精神保健の多様な取り組みの一つである「べてるの家」の実践を視聴して、シェアリングを行う。</p> <p>13 【達成目標】 当事者主体とはどういうことなのか、専門職の仕事の多様性を考える。「支援しない支援(ナラティブアプローチ)」ということはどういう実践なのか、専門職に従順で勤勉なユーザーを作り出すことのあやまりから抜け出ためには、専門職の仕事がどうあるべきなのかを考える。</p>
6	<p>【授業単元】 第2章 ソーシャルワークの概念 第2節 ソーシャルワークの構成要素</p> <p>【到達目標】 クライエントシステムとは何か、クライエント(ユーザー)ファーストな支援を行うために専門職の仕事はどうあるべきかを考えられる。</p>	<p>【授業単元】 総復習</p> <p>14 【到達目標】 学んできたことを他の科目とも関連付けて、将来の国試受験に向けて整理しておく。</p>
7	<p>【授業単元】 第3章 ソーシャルワークの基盤となる考え方 第1節 ソーシャルワークの原理</p> <p>【到達目標】 ソーシャルワークの原理である、社会正義、人権の尊重、無辜的責任、多様性の尊重などを理解する。</p>	<p>【授業単元】 定期テスト 振り返り</p> <p>15 【到達目標】 精神保健福祉士の実際の国試問題をイメージできるようにして、その後の長い職業人生における実践にも活かせるようにする。</p>
8	<p>【授業単元】 第3章 ソーシャルワークの基盤となる考え方 第2節 ソーシャルワークの理念</p> <p>【到達目標】 当事者主導(ユーザーファースト)、尊厳の保持、権利擁護、自立支援、エンパワメント、ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョンを臨床場面で実践することの意味を理解していく。</p>	<p>【成績評価の方法と基準】</p> <p>科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。</p>
	<p>【履修に当たっての心構え・留意点】</p> <p>講師や学生同士のエピソードには守秘義務があることを理解する。 テキスト上、「社会福祉士」との記述は必要に応じて「精神保健福祉士」と読み替える。</p>	

## 授業概要

科目名	ソーシャルワークの理論と方法	必修選択の別	必修	開講区分	通年(前期)	担当教員	山田 伸										
学科コース	心理カウンセラーコース	学年	1年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間								
【授業を通じての到達目標】																	
1. 人と環境との交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。 2. ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する。 3. ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。 4. コミュニティワークの概念とその展開について理解する。 5. ソーシャルワークにおけるスーパーバイジョンについて理解する。																	
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)																	
ソーシャルワーカー(精神保健福祉士・社会福祉士)として、精神科病院で相談援助(ソーシャルワーク)に従事している教員が、ソーシャルワーク実践の基盤となる基礎的な知識を習得する授業を行う。授業展開としては、講義を中心に、個人ワーク、グループワークも行う。																	
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】												
最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法[共通科目](日本ソーシャルワーク教育学校連盟編) 中央法規出版					他の科目で学習した知識と相互に関連付けて理解を深めるために、事前学習・事後学習を行う。また、ソーシャルワークは人々の生活課題や社会の問題等の解決に働きかけることから、普段の日常生活の中から、これら課題や問題意識を持つことが求められる。												
コマ	授業計画	コマ	授業計画														
1	【授業単元】 オリエンテーション 章 人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク 第1節 ソーシャルワーカーが学ぶ理論  【到達目標】 ・本科目の位置づけ、本講義の進め方を理解し、主体的な学びへの意識を醸成する。 ・ソーシャルワーカーが学ぶ理論のタイプを理解する ・ソーシャルワークの共通基盤とは何かを理解する ・ソーシャルワーク固有の視点とは何かを考える	第1	【授業単元】 第3章 ソーシャルワークの課程 アセスメント① 第1節 アセスメントの意義と目的 第2節 アセスメントの方法  【到達目標】 ・ソーシャルワークにおけるアセスメントの重要性について学ぶ ・「生活者」や「生活」への接点の方法としてのアセスメントについて学ぶ ・個人と社会環境への視点に基づくアセスメントについて学ぶ ・アセスメントを支える理論について学ぶ・アセスメントの方法や構成要素について学ぶ	9	【授業単元】 第3章 ソーシャルワークの課程 アセスメント② 第2節 アセスメントの方法 第3節 アセスメントの留意点  【到達目標】 ・アセスメントに有効なマッピングの技法について学ぶ ・ソーシャルワークの固有性や専門性を表すアセスメントについて学ぶ ・アセスメントにおける関係者や当事者との協働の重要性について学ぶ ・複数的で多角的な視点から個人と社会に迫るアセスメントについて学ぶ	10	【授業単元】 第4章 ソーシャルワークの課程 プランニング① 第1節 プランニングの意義と目的 第2節 プランニングのプロセスと方法  【到達目標】 ・プランニングとは何かについて理解する ・ソーシャルワークではプランニングがどのように行われるか理解する ・ソーシャルワークにおけるプランニングの意義を理解する ・目的・目標の設定について理解する	11	【授業単元】 第4章 ソーシャルワークの課程 プランニング② 第2節 プランニングのプロセスと方法 第3節 プランニングにおける留意点  【到達目標】 ・計画内容の設定について理解する ・倫理的な実践のために留意すべきことを理解する ・包括的な支援のために連携や協働の重要性を理解する	12	【授業単元】 第5章 ソーシャルワークの課程 支援の実施とモニタリング 第1節 支援の実施 第2節 モニタリング 第3節 効果測定  【到達目標】 ・支援の実際における目的と方法、留意点について学ぶ ・モニタリングの目的と内容、方法と手続き、留意点について理解する ・モニタリングから再アセスメントまでの流れを理解する ・効果測定の目的と意義、基本的な方法であるシングル・システム・デザインについて理解する	13	【授業単元】 第6章 ソーシャルワークの課程 支援の終結と結果評価、アフターケア 第1節 支援の終結 第2節 支援の結果評価 第3節 アフターケア  【到達目標】 ・支援の終結が「過程」であることを理解する ・ソーシャルワーカー・クライエント双方で行うことの意味について理解する ・支援の終結後の生活課題の再燃の可能性と、新たな課題の発生を予測する視点の重要性を理解する・結果評価の意義、視点、方法を理解する	14	【授業単元】 定期試験 解説及び前期学習内容の振り返り(まとめ)  【到達目標】 ・前期授業の学習内容から出題 ・定期試験解説、前期学習目標の達成度を振り返り、後期学習に向けた目標設定ができる。	15	【成績評価の方法と基準】 科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。
2	【授業単元】 第1章 人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク 第2節 システム理論  【到達目標】 ・システム理論の基本的な考え方を理解する ・ソーシャルワークにおけるシステム理論の有用性を理解する ・システム理論を援用したソーシャルワーク実践の全体像を理解する	10	【授業単元】 第3章 ソーシャルワークの課程 アセスメント② 第2節 アセスメントの方法 第3節 アセスメントの留意点  【到達目標】 ・アセスメントに有効なマッピングの技法について学ぶ ・ソーシャルワークの固有性や専門性を表すアセスメントについて学ぶ ・アセスメントにおける関係者や当事者との協働の重要性について学ぶ ・複数的で多角的な視点から個人と社会に迫るアセスメントについて学ぶ	11	【授業単元】 第4章 ソーシャルワークの課程 プランニング① 第1節 プランニングの意義と目的 第2節 プランニングのプロセスと方法  【到達目標】 ・プランニングとは何かについて理解する ・ソーシャルワークではプランニングがどのように行われるか理解する ・ソーシャルワークにおけるプランニングの意義を理解する ・目的・目標の設定について理解する	12	【授業単元】 第4章 ソーシャルワークの課程 プランニング② 第2節 プランニングのプロセスと方法 第3節 プランニングにおける留意点  【到達目標】 ・計画内容の設定について理解する ・倫理的な実践のために留意すべきことを理解する ・包括的な支援のために連携や協働の重要性を理解する	13	【授業単元】 第5章 ソーシャルワークの課程 支援の実施とモニタリング 第1節 支援の実施 第2節 モニタリング 第3節 効果測定  【到達目標】 ・支援の実際における目的と方法、留意点について学ぶ ・モニタリングの目的と内容、方法と手続き、留意点について理解する ・モニタリングから再アセスメントまでの流れを理解する ・効果測定の目的と意義、基本的な方法であるシングル・システム・デザインについて理解する	14	【授業単元】 第6章 ソーシャルワークの課程 支援の終結と結果評価、アフターケア 第1節 支援の終結 第2節 支援の結果評価 第3節 アフターケア  【到達目標】 ・支援の終結が「過程」であることを理解する ・ソーシャルワーカー・クライエント双方で行うことの意味について理解する ・支援の終結後の生活課題の再燃の可能性と、新たな課題の発生を予測する視点の重要性を理解する・結果評価の意義、視点、方法を理解する	15	【授業単元】 定期試験 解説及び前期学習内容の振り返り(まとめ)  【到達目標】 ・前期授業の学習内容から出題 ・定期試験解説、前期学習目標の達成度を振り返り、後期学習に向けた目標設定ができる。				
3	【授業単元】 第1章 人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク 第3節 生態学理論  【到達目標】 ・生態学の基本的な考え方を理解する ・エコシステム的視点とは何かを理解する ・ライフモデル(ジャーメインとギッターマン)の考え方を理解する	11	【授業単元】 第4章 ソーシャルワークの課程 プランニング① 第1節 プランニングの意義と目的 第2節 プランニングのプロセスと方法  【到達目標】 ・プランニングとは何かについて理解する ・ソーシャルワークではプランニングがどのように行われるか理解する ・ソーシャルワークにおけるプランニングの意義を理解する ・目的・目標の設定について理解する	12	【授業単元】 第4章 ソーシャルワークの課程 プランニング② 第2節 プランニングのプロセスと方法 第3節 プランニングにおける留意点  【到達目標】 ・計画内容の設定について理解する ・倫理的な実践のために留意すべきことを理解する ・包括的な支援のために連携や協働の重要性を理解する	13	【授業単元】 第5章 ソーシャルワークの課程 支援の実施とモニタリング 第1節 支援の実施 第2節 モニタリング 第3節 効果測定  【到達目標】 ・支援の実際における目的と方法、留意点について学ぶ ・モニタリングの目的と内容、方法と手続き、留意点について理解する ・モニタリングから再アセスメントまでの流れを理解する ・効果測定の目的と意義、基本的な方法であるシングル・システム・デザインについて理解する	14	【授業単元】 第6章 ソーシャルワークの課程 支援の終結と結果評価、アフターケア 第1節 支援の終結 第2節 支援の結果評価 第3節 アフターケア  【到達目標】 ・支援の終結が「過程」であることを理解する ・ソーシャルワーカー・クライエント双方で行うことの意味について理解する ・支援の終結後の生活課題の再燃の可能性と、新たな課題の発生を予測する視点の重要性を理解する・結果評価の意義、視点、方法を理解する	15	【授業単元】 定期試験 解説及び前期学習内容の振り返り(まとめ)  【到達目標】 ・前期授業の学習内容から出題 ・定期試験解説、前期学習目標の達成度を振り返り、後期学習に向けた目標設定ができる。						
4	【授業単元】 第1章 人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク 第4節 バイオ・サイコ・ソーシャルモデル  【到達目標】 ・バイオ・サイコ・ソーシャルモデルの基本的な内容を理解する ・ソーシャルワーク実践とバイオ・サイコ・ソーシャルモデルの関係を理解する	12	【授業単元】 第4章 ソーシャルワークの課程 プランニング① 第1節 プランニングの意義と目的 第2節 プランニングのプロセスと方法  【到達目標】 ・プランニングとは何かについて理解する ・ソーシャルワークではプランニングがどのように行われるか理解する ・ソーシャルワークにおけるプランニングの意義を理解する ・目的・目標の設定について理解する	13	【授業単元】 第4章 ソーシャルワークの課程 プランニング② 第2節 プランニングのプロセスと方法 第3節 プランニングにおける留意点  【到達目標】 ・計画内容の設定について理解する ・倫理的な実践のために留意すべきことを理解する ・包括的な支援のために連携や協働の重要性を理解する	14	【授業単元】 第5章 ソーシャルワークの課程 支援の実施とモニタリング 第1節 支援の実施 第2節 モニタリング 第3節 効果測定  【到達目標】 ・支援の実際における目的と方法、留意点について学ぶ ・モニタリングの目的と内容、方法と手続き、留意点について理解する ・モニタリングから再アセスメントまでの流れを理解する ・効果測定の目的と意義、基本的な方法であるシングル・システム・デザインについて理解する	15	【授業単元】 定期試験 解説及び前期学習内容の振り返り(まとめ)  【到達目標】 ・前期授業の学習内容から出題 ・定期試験解説、前期学習目標の達成度を振り返り、後期学習に向けた目標設定ができる。								
5	【授業単元】 第1章 人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク 第5節 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク  【到達目標】 ・人の生活に生じる課題は、「人と環境の交互作用」から生じることを理解する ・生活課題をミクロ・メゾ・マクロのそれぞれのレベルから捉える視点を養う	13	【授業単元】 第5章 ソーシャルワークの課程 支援の実施とモニタリング 第1節 支援の実施 第2節 モニタリング 第3節 効果測定  【到達目標】 ・支援の実際における目的と方法、留意点について学ぶ ・モニタリングの目的と内容、方法と手続き、留意点について理解する ・モニタリングから再アセスメントまでの流れを理解する ・効果測定の目的と意義、基本的な方法であるシングル・システム・デザインについて理解する	14	【授業単元】 第6章 ソーシャルワークの課程 支援の終結と結果評価、アフターケア 第1節 支援の終結 第2節 支援の結果評価 第3節 アフターケア  【到達目標】 ・支援の終結が「過程」であることを理解する ・ソーシャルワーカー・クライエント双方で行うことの意味について理解する ・支援の終結後の生活課題の再燃の可能性と、新たな課題の発生を予測する視点の重要性を理解する・結果評価の意義、視点、方法を理解する	15	【授業単元】 定期試験 解説及び前期学習内容の振り返り(まとめ)  【到達目標】 ・前期授業の学習内容から出題 ・定期試験解説、前期学習目標の達成度を振り返り、後期学習に向けた目標設定ができる。										
6	【授業単元】 第1章 人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク 第6節 ソーシャルワークの目標と展開過程 第2章 ソーシャルワークの課程 ケースの発見とエンゲージメント(インテーク)  【到達目標】 ・ソーシャルワークの目標について理解する ・ソーシャルワークの展開過程について、その概要を理解する ・人が他者から援助を受け入れるプロセスを学ぶ	14	【授業単元】 第5章 ソーシャルワークの課程 支援の実施とモニタリング 第1節 支援の実施 第2節 モニタリング 第3節 効果測定  【到達目標】 ・支援の終結が「過程」であることを理解する ・ソーシャルワーカー・クライエント双方で行うことの意味について理解する ・支援の終結後の生活課題の再燃の可能性と、新たな課題の発生を予測する視点の重要性を理解する・結果評価の意義、視点、方法を理解する	15	【授業単元】 定期試験 解説及び前期学習内容の振り返り(まとめ)  【到達目標】 ・前期授業の学習内容から出題 ・定期試験解説、前期学習目標の達成度を振り返り、後期学習に向けた目標設定ができる。												
7	【授業単元】 第1章 ソーシャルワークの課程 ケースの発見とエンゲージメント(インテーク) 第1節 ケースの発見 第2節 エンゲージメント(インテーク)  【到達目標】 ・ケース発見のさまざまな形について学ぶ ・インボランチー・クライアント、援助希望者への支援について学ぶ ・エンゲージメントの意味と役割を学ぶ・クライエントとの関係構築の留意点を学ぶ ・メゾ・マクロ実践におけるエンゲージメントの留意点を学ぶ	15	【授業単元】 定期試験 解説及び前期学習内容の振り返り(まとめ)  【到達目標】 ・前期授業の学習内容から出題 ・定期試験解説、前期学習目標の達成度を振り返り、後期学習に向けた目標設定ができる。														
8	【授業単元】 中テスト 解説および学習内容の振り返り  【到達目標】 ・前期第1~7回の学習内容から出題 ・中テスト解説、学習内容の振り返りから理解度を確認する ・国家試験対策(演習問題)		【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。														
	【履修に当たっての心構え・留意点】 ソーシャルワーカーとして実践に携わるには、さまざまな知識を学ぶ必要があります。まずは、ソーシャルワーカーとして考え方、語り、行動する際のよりどころとなる理論的知識を学ぶことから始まります。他の科目で学習した知識と相互に関連付けて理解を深めていきましょう。																

## 授業概要

科目名	ソーシャルワークの理論と方法	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	山田 伸		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間

## 【授業を通じての到達目標】

- 1.人と環境との交互作用に関する理論とミクロ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。
  - 2.ソーシャルワークの様々な実践モデルとリサーチについて理解する。
  - 3.ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。
  - 4.コミュニケーションの概念とその展開について理解する。
  - 5.ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。

〔学習内容〕(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

ソーシャルワーカー（精神保健福祉士・社会福祉士）として、精神科病院で相談援助（ソーシャルワーク）に従事している教員が、ソーシャルワーク実践の基盤となる基礎的な知識を習得する授業を行う。授業展開としては、講義を中心に、個人ワーク、グループワークも行う。

【使用教科書・教材・参考図書】

### 【授業時間外における学習】

他の科目で学習した知識と相互に関連付けて理解を深めるために、事前学習・事後学習を行う。また、ソーシャルワークは人々の生活課題や社会の問題等の解決に働きかけることから、普段の日常生活の中からこれら課題や問題意識を持つことが求められる。

コマ	授業計画	コマ	授業計画		
1	<p>【授業単元】 第7章 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ ① 第1節 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方 第2節 ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ 【到達目標】 ・視点、視座、モデル、アプローチ等の意味合いを理解する ・ジェネラリストが実践モデル、アプローチを学ぶべき理由を理解する ・実践モデル、アプローチの特徴、歴史的概要、流れについて理解する 生活モデル、治療モデル、ストレングスモデル</p>	9	<p>【授業単元】 第10章 ケアマネジメント(ケースマネジメント) 第1節 ケアマネジメント(ケースマネジメント)の原則 第2節 ケアマネジメント(ケースマネジメント)の意義と方法 【到達目標】 ・ケアマネジメント(ケースマネジメント)の歴史、基本的な原則を学ぶ ・ケアマネジメント(ケースマネジメント)の意義を理解する ・ケアマネジメント(ケースマネジメント)のモデルとプロセスを理解する</p>		
2	<p>【授業単元】 第7章 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ ② 第1節 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方 第2節 ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ 【到達目標】 ・ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチを理解する 心理社会的アプローチ 機能的アプローチ 問題解決アプローチ</p>	10	<p>【授業単元】 第11章 グループを活用した支援 第1節 グループワークの意義と目的 第2節 グループワークの展開過程 第3節 グループワークとセルフヘルプグループ 【到達目標】 ・グループワークが何を目的に実践されるのかを学ぶ ・グループ・プロセスを理解して、実践のポイントを把握する ・グループの発達段階に応じた介入を理解する ・グループワークとセルフヘルプグループの区別を理解する</p>		
3	<p>【授業単元】 第7章 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ ③ 第1節 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方 第2節 ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ 【到達目標】 ・ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチを理解する 課題中心アプローチ 行動変容アプローチ 認知アプローチ</p>	11	<p>【授業単元】 第12章 コミュニティワーク 第1節 コミュニティワークの意義と目的 第2節 コミュニティワークの展開 第3節 コミュニティワークの理論的系譜とモデル 【到達目標】 ・地域の課題に対するコミュニケーションの目的について理解する ・コミュニケーションの展開過程、各技法の特徴やねらい、計画や評価の視点、手法を理解する ・住民が主体となる地域福祉活動の意義を学ぶ ・コミュニケーションの歴史を学ぶ</p>		
4	<p>【授業単元】 第7章 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ ④ 第1節 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方 第2節 ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ 【到達目標】 ・ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチを理解する 危機介入アプローチ エンパワーメントアプローチ ナラティブラプローチ</p>	12	<p>【授業単元】 第13章 ソーシャルアドミニストレーション 第1節 ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義 第2節 組織介入・組織改善の実践モデル 第3節 組織運営における財源の確保 【到達目標】 ・ソーシャルアドミニストレーションの概念と定義を理解する ・組織介入・組織改善の実践モデルを理解する ・組織運営における財源の種類を理解する</p>		
5	<p>【授業単元】 第7章 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ ⑤ 第1節 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方 第2節 ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ 【到達目標】 ・ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチを理解する 解決志向アプローチ さまざまなアプローチ(アドラー心理学、ロゴセラピー、交流分析、神経言語プログラミング)</p>	13	<p>【授業単元】 第14章 ソーシャルアクション 第1節 ソーシャルアクションの概念とその意義 第2節 コミュニティ・オーガナイジング 【到達目標】 ・事例を通じて、ソーシャルアクションの基本を理解する ・ソーシャルアクションの意義を理解する ・コミュニケーション・オーガナイジングの実例を学ぶ ・ソーシャルワークにおけるコミュニケーション・オーガナイジングの系譜を理解する</p>		
6	<p>【授業単元】 第6章 ソーシャルワークの面接 第1節 面接の意義と目的 第2節 面接の方法と実践 【到達目標】 ・日常会話と面接の特徴の違いを理解する ・ソーシャルワークにおける面接の意義、目的を理解する ・ソーシャルワーク面接の形態や手段、場所の多様性、基本的留意点を理解する ・具体的な面接技法を理解する</p>	14	<p>【授業単元】 第15章 スーパービジョンとコンサルテーション 第1節 スーパービジョンの意義、目的、方法 第2節 コンサルテーションの意義、目的、方法 【到達目標】 ・スーパービジョンの意義、目的、機能について理解する ・スーパービジョンの方法について理解する ・コンサルテーションの意義と目的、方法について理解する ・コンサルテーションとスーパービジョンの違いを理解する</p>		
7	<p>【授業単元】 第9章 ソーシャルワークの記録 第1節 記録の意義と目的 第2節 記録の内容 第3節 記録のフォーマット 【到達目標】 ・専門職として記録を作成する意義と目的を理解する ・専門職の記録に求められる倫理的責任、求められる内容を理解する ・さまざまな記録のフォーマットを学ぶ ・根拠ある記録の書き方のポイントを学ぶ</p>	15	<p>【授業単元】 定期試験 解説及び後期学習内容の振り返り(まとめ) 【到達目標】 -後期授業の学習内容から出題 -定期試験解説、後期学習目標の達成度を振り返り、国家試験に向けて具体的な取り組みを考える</p>		
8	<p>【授業単元】 中テスト 解説および学習内容の振り返り 【到達目標】 -後期第1～7回の学習内容から出題 -中テスト解説、学習内容の振り返りから理解度を確認する -国家試験対策(演習問題)</p>	【成績評価の方法と基準】			
【履修に当たっての心構え・留意点】					
ソーシャルワーカーとして実践に携わるには、さまざまな知識を学ぶ必要があります。まずは、ソーシャルワーカーとして考え方、語り、行動する際のよりどころとなる理論的知識を学ぶことから始まります。他の科目で学習した知識と相互に関連付けで理解を深めていきましょう。					

## 授業概要

科目名	ソーシャルワーク演習	必修 選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	西園寺弘久 宮路雄大 秋本 拓真
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位 総時間数 30 時間

【授業を通じての到達目標】

- ①クラスメイト、講師に対して自身の意見や考察を発表できる
- ②精神保健福祉士をはじめとした対人援助職に求められる、共感、傾聴、受容といった基本姿勢をグループワークなどを通して学び、習得することができる
- ③ソーシャルワーカーに求められる視点の獲得

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

講師は、精神保健福祉士として、精神科医療機関で勤務経験のある。本授業では、グループワークを活用し、受容、傾聴、共感といった、精神保健福祉士の基本姿勢を養う。また、自分自身の将来像についても考察を深められるようなワークを随時行う。

【使用教科書・教材・参考図書】

【授業時間外における学習】

ニュースや社会の動向に目を向ける

コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	<p>【授業単元】 ①オリエンテーション ②自己紹介</p> <p>【到達目標】 本授業の内容、進め方を理解することができる。 クラスメイト、講師への想い、考えを伝えることができる</p>	9	<p>【授業単元】 ソーシャルワーカーの支援の根柢①</p> <p>【到達目標】 バイスティックの7原則について学び、自身の言葉で説明できる。</p>
2	<p>【授業単元】 ①クラスメイトと共に楽しむ ②クラスメイトと想いを共有する</p> <p>【到達目標】 アイスブレイクを通して、クラスメイトとの交流を図る。クラスメイトの新しい一面を知る。 受容する姿勢を意識させる。</p>	10	<p>【授業単元】 ソーシャルワーカーの支援の根柢②</p> <p>【到達目標】 バイスティックの7原則について学び、自身の言葉で説明できる。</p>
3	<p>【授業単元】 ①自分の取説作り</p> <p>【到達目標】 mbtiを用いて自分の強みを知る。新し一面に気が付くことができる</p>	11	<p>【授業単元】 ソーシャルワーカーの視点①</p> <p>【到達目標】 インボランタリーなクライエントに対して、どの様に関わるのか、グループで意見交換できる。</p>
4	<p>【授業単元】 ①自分の取説を周囲と共有する</p> <p>【到達目標】 自分でつかった取説を周囲に共有し、発信することができる</p>	12	<p>【授業単元】 ソーシャルワーカーの視点②</p> <p>【到達目標】 ソーシャルワーカーのかかわりにおける、適切なかかわり、不適切なかかわりについて、理解し自身の意見をグループで共有し、発表できる。</p>
5	<p>【授業単元】 ①自分の強みの発見、周囲への発信</p> <p>【到達目標】 自分の取説を基に、自身の強みをどのように今後の生活に活かしていくか、専門職として活用していくかを考え、グループで共有することができる</p>	13	<p>【授業単元】 施設コンプリクト</p> <p>【到達目標】 障害者施設の建設問題を学び、自身の想いや気づきを述べることができる。障害者をめぐる現代社会の課題について気づくことができる。その問題点を考察できる。</p>
6	<p>【授業単元】 人を支援することについて①</p> <p>【到達目標】 人が人を支援することについて考えることができる。対人援助職の在り方を考察し、自分の意見を周囲に発信できる</p>	14	<p>【授業単元】 これまでの学びの総復習</p> <p>【到達目標】 「支援者は必要か」というテーマで自身の考察を深め、グループで意見交換し発表できる</p>
7	<p>【授業単元】 人を支援することについて②</p> <p>【到達目標】 前回の授業を振り返り、自身の目指す対人援助職の姿とは何かをグループで意見交換し、発表できる</p>	15	<p>【授業単元】 期末テスト 振り返り</p> <p>【到達目標】 レポート形式のテストを実施。自身の考察、意見を論じることができる</p>
8	<p>【授業単元】 中テスト</p> <p>【到達目標】 レポート形式のテストで自部署の意見、考察を論じることができる。</p>	<p>【成績評価の方法と基準】</p> <p>科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。</p>	
<p>【履修に当たっての心構え・留意点】</p> <p>グループワークを活用します。クラスメイトの意見を尊重する姿勢が重要です。</p>			

## 授業概要

## 授業概要

## 授業概要

科目名	精神障害リハビリテーション論	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	宮路 雄大		
学科 コース	心理カウンセラ一科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間

### 【授業を通じての到達目標】

「精神障害リハビリテーション論」は、旧専門科目にあった「精神保健福祉の理論と相談援助の展開」の内容のうち、「精神障害リハビリテーション」にかかわる部分が独立分離して新しい科目となったものである。このため、精神保健ソーシャルワークと精神障害リハビリテーションの関係を整理したうえで、精神障害リハビリテーションの内容について詳しく述べる。また、従来から行われているSST(社会生活技能訓練)や認知行動療法に加え、近年の新しい取り組みとしての家族支援、TEACCHプログラム、リカバリー・カレッジ、マインドフルネス、オープンダイアローグ、当事者研究、ケアラーの支援、依存症のリハビリテーションとしてのSMARPP(スマープ)、CRAFT(クラフト)などについても取り上げている。

社会の変化に対応するために求められるようになった精神障害リハビリ テーションと、拡大する精神保健福祉士の役割についてしっかり学習してほしい。精神障害リハビリ テーションの 理念・方法を学んでほしい。

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

精神保健福祉士として精神科病院に勤務歴のある教員が精神保健福祉士が行う精神障害者に対して行う支援についての知識、技術を取得する授業を行う

【使用教科書・教材・参考図書】		【授業時間外における学習】	
中央法規出版 最新 精神保健福祉士養成講座〈3〉精神障害者リハビリテーション論		精神保健施策は日進月歩です。また、精神障害を含めた障害者の偏見も根強く残っています。NetNews等で関連項目に興味を持ってください。	
コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	<p>【授業単元】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 科目オリエンテーション</li> <li>・ 第1章 精神障害リハビリテーションとソーシャルワーク 第1節 精神障害リハビリテーションとソーシャルワークの関係</li> </ul> <p>【到達目標】</p> <p>精神科リハビリテーションと精神障害リハビリテーション、精神保健ソーシャルワークの違いが説明できる</p>	9	<p>【授業単元】</p> <p>第4章 精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関</p> <p>第1節 医学的リハビリテーション</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医学的リハビリテーションについて説明できる</li> <li>・ 精神科作業療法、行動療法、認知行動療法等の精神療法について説明できる</li> </ul>
2	<p>【授業単元】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1章 精神障害リハビリテーションとソーシャルワーク</li> <li>・ 第2節 精神障害リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割</li> <li>・ 第2章 精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則</li> </ul> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 精神障害リハビリテーションの原理と理念</li> <li>- ソーシャルワークの価値</li> <li>- 精神障害リハビリテーションの特性</li> </ul>	10	<p>【授業単元】</p> <p>第4章 精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関</p> <p>第2節 緊急リハビリテーション</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職業的リハビリテーションについて説明できる</li> <li>・ 職業リハビリテーションの援助過程、プログラムについて理解する。</li> <li>- 我が国の障害者雇用の仕組みについて説明できる</li> </ul>
3	<p>【授業単元】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第2節 医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション</li> <li>・ 第3節 精神障害リハビリテーションの基本原則</li> </ul> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 日本における精神障害リハビリテーションの歴史</li> <li>- 精神障害リハビリテーションに共通する原則</li> </ul> <p>(について説明できる)</p>	11	<p>【授業単元】</p> <p>第4章 精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関</p> <p>第3節 社会的リハビリテーション</p> <p>【到達目標】</p> <p>社会的リハビリテーションプログラム (SST, 心理教育、生活訓練、WRAP等) について説明できる。</p>
4	<p>【授業単元】</p> <p>第4節 地域およびリカバリー概念を基盤としたリハビリテーションの意義</p> <p>【到達目標】</p> <p>福祉サービスの変遷、障害者総合支援法の福祉サービスについて説明できる。</p>	12	<p>【授業単元】</p> <p>第4章 精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関</p> <p>第4節 教育的リハビリテーション</p> <p>【到達目標】</p> <p>教育的リハビリテーションを理解し、障害学生支援プログラムについて説明できる。</p>
5	<p>【授業単元】</p> <p>第3章 精神障害リハビリテーションの構成および展開</p> <p>第1節 精神障害リハビリテーションの対象</p> <p>【到達目標】</p> <p>精神障害の特性、対象を理解し「ICIDH」「ICF」を説明できる</p>	13	<p>【授業単元】</p> <p>第4章 精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関</p> <p>第5節 家族支援プログラム</p> <p>第6節 リハビリテーションに用いられるそのほかの手法。プログラム</p> <p>【到達目標】</p> <p>どのような家族支援が求められるかを理解し家族支援の方方法について説明できる。</p>
6	<p>【授業単元】</p> <p>第3章 精神障害リハビリテーションの構成および展開</p> <p>第2節 チームアプローチ</p> <p>【到達目標】</p> <p>専門職の役割を理解し、チームアプローチの概観、方法、課題について説明できる</p>	14	<p>【授業単元】</p> <p>第5章 精神障害リハビリテーションの動向と実際</p> <p>第1節 精神障害当事者や家族を主体としたリハビリテーション</p> <p>第2節 依存症のリハビリテーション</p> <p>【到達目標】</p> <p>ピアサポーターの理解</p> <p>依存症の治療プログラムを理解し依存症を抱えたクライエントに対し説明できる。</p>
7	<p>【授業単元】</p> <p>第3章 精神障害リハビリテーションの構成および展開</p> <p>第3節 精神障害リハビリテーションのプロセス</p> <p>【到達目標】</p> <p>精神障害リハビリテーションのプロセスのサイクルについて説明できる</p>	15	<p>【授業単元】</p> <p>定期試験</p> <p>振り返り</p> <p>【到達目標】</p> <p>定期試験で一定以上の点数をとる</p>
8	<p>【授業単元】</p> <p>中テスト</p> <p>中テストの振り返り</p> <p>【到達目標】</p> <p>第1回目から第7回目までの振り返りを行い、知識の定着を行う</p>	【成績評価の方法と基準】	
【履修に当たっての心構え・留意点】		講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。	
この科目はパワーポイントを使います。パワーポイント資料が見れるデバイスを用意してください。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験は筆記試験で行う。</li> <li>・ 毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト（8回目の授業で実施）は15点満点とする。その合計（80点満点）の1/2の点数（小数点以下切り上げ）を小テストの合計点とする。</li> </ul>	

# 授業概要

科目名	公認心理師の職責	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	久保田 康文		
学科コース	心理カウンセラーコース	学年	1年	授業形態	講義	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
①公認心理師の役割を理解し、法的義務、倫理に基づき、各分野の公認心理師の業務を知り、多職種連携や地域連携を視野に入れた活動として業務を捉える視点を身につける。 ②自己の課題発見、生涯学習の準備を行えるよう意識を責任感を持って取り組む姿勢を身につける。									
【学習内容】									
公認心理師・臨床心理士としてさまざまな年代の人達の、さまざまな相談に応じ、現在教育分野・福祉分野・私設カウンセリングルームにて臨床活動を行なっている講師が、これから公認心理師を目指す人たちにとって、公認心理師の土台となる考え方や倫理観を考えながらグループワークを通してさまざまな見方を知り、実践に役立つ授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
使用図書:公認心理師の職責 ミネルヴァ書房					日々の生活の中で、自分自身の考え方や行動を振り返り、心理師としての倫理観を取り入れながら生活する。				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	【授業單元】 ・オリエンテーション ・対人援助職とは?公認心理師とは?  【到達目標】 ・この科目の目標・予定・進め方について理解することができる。 ・対人援助職・公認心理師としての「職責」について説明することができる。	9	【授業單元】 司法分野における公認心理師の役割とは? (グループ発表)  【到達目標】 ・司法の分野で求められていることを説明できる。 ・司法の分野での具体的な業務を説明できる。						
2	【授業單元】 公認心理師の役割とは?  【到達目標】 ・公認心理師法について説明できる。 ・5分野の中で求められている公認心理師の役割を説明できる	10	【授業單元】 産業労働における公認心理師の役割とは? (グループ発表)  【到達目標】 ・産業の分野で求められていることを説明できる。 ・産業の分野での具体的な業務を説明できる。						
3	【授業單元】 守秘義務とは?  【到達目標】 ・職業倫理について第一原則から七原則まで説明できる。 ・第40・41・42条の意味を理解し、説明できる。	11	【授業單元】 多職種連携と地域連携  【到達目標】 ・連携による支援について説明できる。 ・チームにおける公認心理師の役割について説明できる。						
4	【授業單元】 安全確保とは?  【到達目標】 ・支援をする者等の安全を確保するための具体的な配慮を説明できる。	12	【授業單元】 支援者としての自己課題発見・解決能力  【到達目標】 ・自分自身を振り返り自分自身の課題を説明できる。 ・自分自身の課題への対処法を説明できる。						
5	【授業單元】 保健医療分野における公認心理師の役割とは? (グループ発表)  【到達目標】 ・保健医療の分野で求められていることを説明できる。 ・保健医療の分野での具体的な業務を説明できる。	13	【授業單元】 ゲストスピーカー(公認心理師指定大学院を卒業し、3年目の心理師から理想と現実について話を聞く)  【到達目標】 ・大学院の進学について学び、自分の疑問点などを説明できる。 ・自分の進路選択について説明できる。						
6	【授業單元】 福祉分野における公認心理師の役割とは? (グループ発表)  【到達目標】 ・福祉の分野で求められていることを説明できる。 ・福祉の分野での具体的な業務を説明できる。	14	【授業單元】 生涯学習への準備と公認心理師の今後の展開  【到達目標】 ・生涯にわたる自己研鑽の必要性について説明できる。 ・今後の公認心理師の役割について説明できる。						
7	【授業單元】 教育分野における公認心理師の役割とは? (グループ発表)  【到達目標】 ・教育の分野で求められていることを説明できる。 ・教育の分野での具体的な業務を説明できる。	15	【授業單元】 定期テスト 振り返り  【到達目標】 ・これまでの振り返りをし、自分の疑問点を説明できる。						
8	【授業單元】 中テスト お金と生涯設計  【到達目標】 ・これまで振り返り、疑問点などを共有し、説明できる。 ・心理師の賃金と生涯設計について説明できる。		【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。  ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。						
【履修に当たっての心構え・留意点】					公認心理師としての基本的な内容になります。自分なりに知識を深め、積極的に質問をしてください。グループ発表やロールプレーなどもしていきますので欠席や遅刻がないようにしてください。				

## 授業概要

科目名	心理学概論	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	阿相周一		
学科コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
心理学を概観し、心理学の基礎的・包括的な理解を目指す。具体的には、以下の通りである。 心理学史および心理学が扱う分野とその内容、“心”的メカニズムとその機能、各心理療法の理解を到達目標とする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
担当教員は、臨床心理士・公認心理師として医療(特に依存症／アディクションを専門)や教育、SNS相談等の分野で臨床活動に携わっている。授業では、アディクション・臨床の知見を取り入れ、将来的な臨床活動や日々の日常生活に役立つような実践的な知識を提供する。また、ディスカッションやグループワークも取り入れ、担当教員と生徒、生徒どうしといったように双方向のコミュニケーションを重視し、学習内容の理解を深める。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
使用教科書: 公認心理師の基本を学ぶテキスト 心理学概論ミネルヴァ書房 参考図書: 各授業で適宜紹介					本科目に関する図書は、使用教科書以外にも数多くあります。授業で紹介する参考図書を、ぜひ読み比べてみてください。				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	【授業単元】 科目オリエンテーション～“心”とは何か～  【到達目標】 ・心理学という学問を説明できる ・心理学が扱う分野を説明できる	9	【授業単元】 ヒトの発達  【到達目標】 ヒトの発達を説明することができる						
2	【授業単元】 心理学の歴史～古代ギリシャ・古代ローマ編～  【到達目標】 ・科学的な心理学の誕生以前の歴史を説明できる	10	【授業単元】 感覚と知覚  【到達目標】 感覚と知覚を説明することができる						
3	【授業単元】 心理学の歴史～18世紀から19世紀ヨーロッパ編～  【到達目標】 ・科学的な心理学誕生以前の歴史を説明できる	11	【授業単元】 記憶  【到達目標】 記憶を説明することができる						
4	【授業単元】 ・心理学の歴史～1879年以降～  【到達目標】 ・科学的な心理学誕生以降の歴史を説明できる	12	【授業単元】 感情  【到達目標】 感情を説明することができる						
5	【授業単元】 ・“心”と脳  【到達目標】 ・脳のメカニズムを説明することができる	13	【授業単元】 言語と思考  【到達目標】 言語と思考を説明することができる						
6	【授業単元】 “心”的起源を探る  【到達目標】 心の起源を説明することができる	14	【授業単元】 超常現象VS心理学  【到達目標】 今まで学んだ知識をもとに身の回りの不思議な現象を説明することができる						
7	【授業単元】 パーソナリティ  【到達目標】 パーソナリティを説明することができる	15	【授業単元】 これまでの授業の振り返り 定期テスト 定期テストの解答解説  【到達目標】 第1回から第14回までの学習内容を取得できている						
8	【授業単元】 これまでの授業の振り返り 中テスト 中テストの解答解説  【到達目標】 第1回から第7回までの学習内容を取得できている		【成績評価の方法と基準】 科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。						
	【履修に当たっての心構え・留意点】 ・「なぜ」という疑問、好奇心、興味関心を大切にしてください								

## 授業概要

科目名	心理学概論	必修選択の別	必修	開講区分	後期	担当教員	阿相周一		
学科コース	心理カウンセラーコース	学年	1年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
心理学を概観し、心理学の基礎的・包括的な理解を目指す。具体的には、以下の通りである。 心理学史および心理学が扱う分野とその内容、“心”的メカニズムとその機能、各心理療法の理解を到達目標とする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するかを具体的に記載する) 担当教員は、臨床心理士・公認心理師として医療(特に依存症／アディクションを専門)や教育、SNS相談等の分野で臨床活動に携わっている。授業では、アディクション臨床の知見を取り入れ、将来の臨床活動や日々の日常生活に役立つような実践的な知識を提供する。また、ディスカッションやグループワークを取り入れ、担当教員と生徒、生徒どうしといったように双方向のコミュニケーションを重視し、学習内容の理解を深める。									
【使用教科書・教材・参考図書】 使用教科書: 公認心理師の基本を学ぶテキスト 心理学概論 ミネルヴァ書房 参考図書: 各授業で適宜紹介					【授業時間外における学習】 本科目に関する図書は、使用教科書以外にも数多くあります。授業で紹介する参考図書を、ぜひ読み比べてみてください。				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	【授業単元】 ストレスと健康  【到達目標】 ・ストレスと健康について説明することができる	9	【授業単元】 人間性心理学  【到達目標】 人間性心理学を説明することができる						
2	【授業単元】 障害と治療  【到達目標】 ・障害と治療について説明することができる	10	【授業単元】 統合的心理療法  【到達目標】 統合的心理療法を説明することができる						
3	【授業単元】 知能  【到達目標】 ・知能について説明することができる	11	【授業単元】 恋愛心理学  【到達目標】 恋愛心理学を説明することができる						
4	【授業単元】 アセスメント  【到達目標】 ・アセスメントについて説明することができる	12	【授業単元】 社会行動  【到達目標】 社会における人間行動を説明することができる						
5	【授業単元】 精神分析  【到達目標】 精神分析について説明することができる	13	【授業単元】 各領域の臨床現場  【到達目標】 各領域の臨床現場を説明することができる						
6	【授業単元】 精神分析(フロイト以降)  【到達目標】 精神分析(フロイト以降)を説明することができる	14	【授業単元】 モチベーションアップの心理学  【到達目標】 動機付けについて説明することができる						
7	【授業単元】 行動主義  【到達目標】 行動主義を説明することができる	15	【授業単元】 授業の振り返り 定期テスト 定期テストの解答解説  【到達目標】 第1回から第14回までの学習内容を取得できている						
8	【授業単元】 授業の振り返り 中テスト 中テストの解答解説  【到達目標】 第1回から第7回までの学習内容を取得できている		【成績評価の方法と基準】 科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。						
【履修に当たっての心構え・留意点】					・「なぜ」という疑問、好奇心、興味関心を大切にしてください				

## 授業概要

科目名	臨床心理学概論	必修選択の別	必修	開講区分	後期	担当教員	望月勇希		
学科コース	心理カウンセラーコース	学年	1年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
臨床心理学の成り立ちや代表的理論について学び説明ができる。現代社会における心の健康にかかわる問題の多様さを理解し、心理学の視点を活用し説明できる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
臨床心理士・公認心理師として医療、福祉、教育、企業などの多領域で5年以上の経験のある講師がその実務経験を活かし、それぞれの領域特有の心理学的知識や実践的な手法を学ぶ。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
公認心理師スタンダードテキストシリーズ3 臨床心理学概論 下山晴彦・石丸怪一郎 ミネルヴァ書房					ニュースやSNSなどでは様々な出来事が発信されています。日ごろからアンテナを立て心理学の視点と結びつけて考えてみましょう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 公認心理師と臨床心理学  【到達目標】 公認心理師と臨床心理学についてそれぞれ関係性についても説明できる。				9	【授業単元】 心の奥深くを探る  【到達目標】 精神分析的アプローチについて学び説明できる。様々な学派があることを説明できる。			
2	【授業単元】 臨床心理学の基礎的な理論  【到達目標】 臨床心理学理論の基礎となる良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法について学び説明できる。				10	【授業単元】 行動で心の動きをとらえる 考え方を変えて気持ちも変える  【到達目標】 行動療法的アプローチと認知行動療法的アプローチについて学び説明できる。行動療法の流れや認知モデルについて説明できる。			
3	【授業単元】 臨床心理学の成り立ちと概観  【到達目標】 臨床心理学の成り立ちについて説明できる。				11	【授業単元】 人間関係のなかで心をとらえる  【到達目標】 システム論、家族療法について学び説明できる。事例についてシステム論を用いた説明ができる。			
4	【授業単元】 生涯発達と心理的問題  【到達目標】 生涯発達と心理的問題について学び説明できる。ライフサイクルを自身に照らして説明できる。				12	【授業単元】 地域の中で社会を支える  【到達目標】 コミュニティ・アプローチについて学び説明できる。			
5	【授業単元】 発達過程で生じる障害や問題、心の病理  【到達目標】 発達過程で生じる障害や問題、異常心理学について学び説明できる。事例を通して心の病理について自身の考えを述べることができる。				13	【授業単元】 心を構成する社会の物語を理解する  【到達目標】 ナラティブ・アプローチについて学び説明できる。社会構成主義の視点から社会問題について述べることができる。			
6	【授業単元】 アセスメントと心理検査  【到達目標】 アセスメントと心理検査について学び説明できる。アセスメントや心理検査の意義を説明できる。				14	【授業単元】 社会のなかでの臨床心理学的支援  【到達目標】 医療・保健・福祉、教育、産業、司法・矯正など様々な領域で臨床心理学的支援が行われていることを説明できる。			
7	【授業単元】 安心できる関係を大切にする  【到達目標】 来談者中心療法(パーソン・センタード・アプローチ)を説明できる。3つの条件を説明できる。				15	【授業単元】 科目まとめ・振り返り 定期試験・試験解答解説  【到達目標】 ・科目の重要なポイントが確認できる。 ・自己学習に必要な課題を把握することができる。			
8	【授業単元】 これまでの振り返り 中テストと中テストの解説  【到達目標】 総復習によって1回から7回までの臨床心理学の基礎を系統的に説明できる。中テストによってそれを確認し解説することで知識の整理と定着をはかることができる。  【履修に当たっての心構え・留意点】 グループや個人、ペアなどで体験しながら学ぶワークがあります。お互いの違いを認め尊重し合う姿勢をもって取り組みましょう。				【成績評価の方法と基準】 科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				

## 授業概要

科目名	学習・言語心理学	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	本郷 裕理		
学科コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間

### 【授業を通じての到達目標】

- 人の行動が変化するプロセスについて説明できる
  - 言語の習得におけるしくみを説明することができる

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

精神保健福祉相談、女性相談、ひきこもり相談、自殺防止相談の現場で相談支援に携わってきた経験を活かして、支援の現場における事例を交えながら、習った知識がどのような形で現場に寄与するかを提示し、現場感覚を養える授業を行います。

【使用教科書・教材・参考図書】		【授業時間外における学習】	
教科書:「学習・言語心理学(ミネルヴァ書房)」		パラレル読みを通して、知識を自分のものにし、かつ、その過程で持った疑問等を授業で提示してほしい	
コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	<p>【授業単元】 学習の定義と学習の段階 古典型的条件付け</p> <p>【到達目標】 ・「学習」の定義を説明できる ・古典型的条件付けについて説明できる</p>	9	<p>【授業単元】 学習への動機づけ</p> <p>【到達目標】 ・内発的動機づけ・外発的動機づけについて説明できる ・原因佛具の4つのパターンについて説明できる</p>
2	<p>【授業単元】 古典型的条件づけ</p> <p>【到達目標】 ・古典型的条件づけについて説明できる ・古典型的条件づけの臨床的応用について説明できる</p>	10	<p>【授業単元】 言語の発生の基盤</p> <p>【到達目標】 ・チャームスキーの生成文房理論について説明できる ・共同注意について説明できる ・プローカ野とウェルニッケ野について説明できる</p>
3	<p>【授業単元】 道具的条件づけ</p> <p>【到達目標】 ・道具的条件づけについて説明できる ・シェイピングについて説明できる</p>	11	<p>【授業単元】 話し言葉の発達 書き言葉の発達</p> <p>【到達目標】 ・IDSの特徴について説明できる。 ・心の理論について説明できる ・外言・内言について説明できる</p>
4	<p>【授業単元】 知覚・概念の獲得と変容</p> <p>【到達目標】 ・素朴概念について説明できる ・認知的範疇とは何かについて説明できる</p>	12	<p>【授業単元】 リテラシーと生涯発達</p> <p>【到達目標】 ・機能的リテラシーについて説明できる ・リテラシーの発達を支える3つの機能について説明できる。</p>
5	<p>【授業単元】 学習と問題解決</p> <p>【到達目標】 ・問題解決とはどういうことを説明できる ・アルゴリズムとヒューリスティックについて説明できる</p>	13	<p>【授業単元】 第二言語・外国語の習得</p> <p>【到達目標】 ・バイリンガルのタイプについて説明できる ・第二言語習得に影響を与える要因について説明できる</p>
6	<p>【授業単元】 社会や集団での学習</p> <p>【到達目標】 ・熟達の過程について説明できる ・協働学習を評価する方法について説明できる</p>	14	<p>【授業単元】 学習と言語の障害</p> <p>【到達目標】 ・ICFの提示する障害の概念について説明できる ・構音障害、吃音症、顎面麻痺について説明できる</p>
7	<p>【授業単元】 学習の熟達と身体化</p> <p>【到達目標】 ・熟達化とはどういうことか説明できる ・身体化とはどういうことか説明できる</p>	15	<p>【授業単元】 これまでの振り返り 定期試験(60点)</p> <p>【到達目標】 第14回までの授業内容を理解できている</p>
8	<p>【授業単元】 第7回目までの授業の振り返り 中間テストを実施する</p> <p>【到達目標】 第7回目までの授業内容を理解できている</p>	<p>【成績評価の方法と基準】</p> <p>科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。</p> <p>毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。</p>	
<p>【履修に当たっての心構え・留意点】</p> <p>授業で学んだことを通じて、自分や身近な人の言動を振り返る習慣をつけていただきたい</p>			

## 授業概要

科目名	発達心理学	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	関根 大介		
学科コース	心理カウンセラー科	学年	1年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯における心と身体の発達と各発達段階の特徴を説明することができる。</li> <li>認知機能や感情、社会性をどのようにして獲得していくのかを説明することができる。</li> <li>自己と他者と関係性の作り方を説明することができる。</li> <li>各発達段階を知ることで支援者となった際のクライエントをイメージすることができる。</li> </ul>									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
臨床現場(医療、福祉、産業等)で勤務してきた経験を活かして、ただ資格を取得するためだけでなく、その先の現場で役に立つ知識・スキルが取得できることを目指して授業を行います。授業形式は講義(映像資料、事例資料などを活用しながら展開)とグループワーク、演習を活用した学習スタイルです。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
使用教科書: 公認心理師スタンダードテキストシリーズ⑩発達心理学 教材: 配布資料					授業はあくまで学習のキッカケです。あなたがプロフェッショナルな人材になりたいのであれば、自主的予習復習はもちろん、あなたが気に入った参考図書を見つけ、豊富な知識を蓄え、他者にアウトプットすることが必要です。				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	<p>【授業単元】 科目的全体概要の説明 虐待のメカニズムを知り、なぜ発達心理学を学ぶ必要があるのかを知る</p> <p>【到達目標】 現代社会における虐待問題を知る。 虐待のメカニズムについて説明することができる。 発達心理学を学ぶことの重要性を説明することができる。</p>	9	<p>【授業単元】 青年期まで 道徳性の発達 自我同一性の発達</p> <p>【到達目標】 道徳性、自我同一性について理解し、説明することができる。 道徳性においては、外の世界を知的にとらえる力、他者の視点に立って考えることの大切さを説明することができる。</p>						
2	<p>【授業単元】 各発達段階における課題を知ろう</p> <p>【到達目標】 成熟優位説、環境優位説、環境適応説、輻輳説の違いを説明することができる。 発達段階説を理解し、これから学ぶ発達心理学の全体像を把握する。</p>	10	<p>【授業単元】 青年期以降(青年期と成人期、中年期、老年期) 青年期の恋愛、家族形成、中年期危機、死の受容プロセスについて</p> <p>【到達目標】 青年期の恋愛や成人期以降の家族形成、中年期、老年期の心理社会的課題について説明することができる。 老年期の必要な支援について説明することができる。</p>						
3	<p>【授業単元】 胎児期と乳児期</p> <p>【到達目標】 胎児期における考えるべきリスクを知る。 赤ちゃんの持つ防衛本能について説明することができる。 新生児の視力、聴力、学習力を説明することができる。</p>	11	<p>【授業単元】 知能について 知能検査と発達検査について</p> <p>【到達目標】 子どもの心身の発達の程度を調べる知能検査や発達検査の概要を説明することができる。 支援において検査がどのように活用できるかを説明することができる。</p>						
4	<p>【授業単元】 乳児期 原始反射</p> <p>【到達目標】 乳児期に見られる原始反射について説明することができる。 幼児期の心理社会的課題について説明することができる。 幼児期の必要な支援について説明することができる。</p>	12	<p>【授業単元】 発達障害の理解と支援① 非定型発達(知的障害・自閉症スペクトラム・AD/HD・学習障害、アタッチメント障害)</p> <p>【到達目標】 非定型発達(知的障害・自閉症スペクトラム・AD/HD・学習障害、アタッチメント障害)について説明することができる。 障害によりどんな困難や悩みが生じるかを想像することができる。</p>						
5	<p>【授業単元】 乳児期 愛着形成</p> <p>【到達目標】 その後の心の発達、人間関係に大きく影響を及ぼす愛着形成について、その重要性を説明することができる。</p>	13	<p>【授業単元】 発達障害の理解と支援② 発達障害者(児)の支援機関や療育方法</p> <p>【到達目標】 発達障害による二次障害について説明することができる。 発達障害者(児)について必要な支援について説明できる。</p>						
6	<p>【授業単元】 乳児期と児童期 言葉の発達</p> <p>【到達目標】 幼児期の心理社会的課題について説明することができる。 幼児期の必要な支援について説明することができる。</p>	14	<p>【授業単元】 これまでのまとめ</p> <p>【到達目標】 第13回目までの授業内容を説明することができる。 定期試験に向けて、これまでの授業のポイントを振り返る。</p>						
7	<p>【授業単元】 幼児期から児童期の社会化(遊びと認知の発達) ジェンダーとセクシュアリティ</p> <p>【到達目標】 幼児期から児童期における心理社会的課題について説明することができる。 児童期の必要な支援について説明することができる。</p>	15	<p>【授業単元】 定期試験及び解説</p> <p>【到達目標】 定期試験後に解説を行い、重点項目について説明することができる。</p>						
8	<p>【授業単元】 中テスト 各発達段階における課題をグループにおいてまとめ発表することを中間テストとして評価を行う。</p> <p>【到達目標】 第7回目までの授業内容を説明できる。</p>		<p>【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。</p> <p>・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。</p>						
【履修に当たっての心構え・留意点】					デバイスは十分な充電を行って講義を受けてください。				

## 授業概要

科目名	心理学的支援法	必修選択の別	必修	開講区分	後期	担当教員	望月勇希		
学科コース	心理カウンセラーコース	学年	1年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
代表的な心理療法並びにカウンセリングについて理解し説明できる。心理学的支援にとって重要なプライバシーの配慮、倫理について学び説明できる。心理的支援の基礎となる良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法を身につける。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
臨床心理士・公認心理師として医療、福祉、教育、企業などの多領域で経験のある講師がその実務経験を活かし、それぞれの領域特有の事例を取り入れながら									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
心理学的支援法:カウンセリングと心理療法の基礎 末武康弘 誠信書房					ニュースやSNSなどでは様々な出来事が発信されています。日ごろからアンテナを立て心理学の視点と結びつけて考えてみましょう。				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	【授業単元】 オリエンテーション 第1章心理学的支援法への誘い  【到達目標】 心理学的支援法とは何か説明できる。	9	【授業単元】 第8章心理学的支援法の主要理論(その3)——精神分析と精神力動的セラピー  【到達目標】 精神分析と精神力動的セラピーを学び説明できる。様々な学派があることを説明できる。						
2	【授業単元】 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法  【到達目標】 心理学的支援の基礎となる良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法について学び説明できる。	10	【授業単元】 第9章心理学的支援法の主要理論(その4)——認知行動療法  【到達目標】 認知行動療法を学び学び説明できる。認知モデルについて説明できる。						
3	【授業単元】 第2章心理学的支援法の特質  【到達目標】 心理学的支援法の効果と限界を説明できる。	11	【授業単元】 第10章心理学的支援法の主要理論(その5)——その他の理論と方法  【到達目標】 その他の主要な理論と方法を学び説明できる。						
4	【授業単元】 第3章心理学的支援法の対象となる問題  【到達目標】 心理学的問題の背景や成因を説明できる。	12	【授業単元】 第11章心理学的支援法のプロセスと実際 第12章心理学的支援法をさらに学ぶために  【到達目標】 心理学的支援法のプロセスや実際の進展について学び説明できる。 心理学的支援法をさらに学ぶ方法を説明できる。						
5	【授業単元】 第4章心理学的支援法はどのように発展してきたのか  【到達目標】 心理療法とカウンセリングの歴史的背景と発展を説明できる。	13	【授業単元】 危機介入と支援者への心理的支援  【到達目標】 セルフケアや心の健康、メンタルヘルス対策について説明できる。						
6	【授業単元】 第5章心理学的支援法のさまざまな理論と方法  【到達目標】 心理学的支援法のさまざまな理論と方法があることを説明できる。	14	【授業単元】 心理学的支援法における留意点  【到達目標】 心理学的支援にとって重要なコミュニケーション、プライバシーの配慮、倫理について学び説明できる。						
7	【授業単元】 第6章心理学的支援法の基礎としてのパーソンセンタードセラピー 第7章パーソンセンタードセラピーの発展的方法とヒューマニスティックセラピー  【到達目標】 心理学的支援法の主要理論であるパーソンセンタードセラピーやその発展的方法を学びパーソンセンタードセラピーやその発展的方法を説明できる。ロジャーズの3つの条件を説明できる。	15	【授業単元】 科目まとめ・振り返り 定期試験・試験解答解説  【到達目標】 ・科目の重要なポイントが確認できる。 ・自己学習に必要な課題を把握することができる。						
8	【授業単元】 これまでの振り返り 中テストと中テストの解説  【到達目標】 総復習によって1回から7回までの心理学的支援法の基礎を系統的に説明できる。中テストによってそれを確認し解説することで知識の整理と定着をはかることができる。  【履修に当たっての心構え・留意点】 グループや個人、ペアなどで体験しながら学ぶワークがあります。お互いの違いを認め尊重し合う姿勢をもって取り組みましょう。		【成績評価の方法と基準】 科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。						

## 授業概要

## 授業概要

科目名	情報リテラシーⅡ	必修選択の別	必修	開講区分	通年(後期)	担当教員	株式会社 ブレーンスタッフコンサルタント
学科コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の方法	演習	単位数	1 単位 総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・AIに関する正しい情報や知識を身につけて、適正かつ有効に活用できる</li> <li>・情報を扱うための知識や注意点を理解し、正しく活用できる</li> <li>・Excelを用いた統計処理(関数や機能)を行って研究発表に活かせる</li> </ul>							
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)							
滋慶学園グループの企業である(株)ブレーンスタッフコンサルタントのラーニングマネージャーが、卒業研究や就職後に必須となるパソコンスキルについての講義を実施。学生に必要なスキルに特化した、オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用							
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】			
オリジナルのe-learningテキスト				e-learningテキストで操作手順を確認し、PC操作を実践する			
コマ	授業計画	コマ	授業計画				
1	【授業単元】 AIリテラシー  【到達目標】 AIに関する正しい情報や知識を身につけて、適正かつ有効に活用できる	9	【授業単元】 初級データサイエンス(統計編)1  【到達目標】 データの特徴を数値化できる（平均、分散、標準偏差）				
2	【授業単元】 AI機械学習体験  【到達目標】 機械学習について実践を通してより深めることができる	10	【授業単元】 初級データサイエンス(統計編)2  【到達目標】 データの特徴を視覚化できる1（基本統計量を求める、ヒストグラムの作成）				
3	【授業単元】 プログラミング入門  【到達目標】 スクラッチを使ってプログラミングの基礎を学ぶことができる	11	【授業単元】 初級データサイエンス(統計編)3  【到達目標】 データの特徴を視覚化できる2（散布図、相関係数を求める）				
4	【授業単元】 データリテラシー  【到達目標】 データを読み解くための基本的な知識を身につけて、適正かつ有効に活用できる	12	【授業単元】 初級データサイエンス(統計編)4  【到達目標】 統計的検定を実施できる1				
5	【授業単元】 情報倫理 (モラル/セキュリティ編)  【到達目標】 情報化社会のモラルとセキュリティについて正しく理解できる	13	【授業単元】 初級データサイエンス(統計編)5  【到達目標】 統計的検定を実施できる2				
6	【授業単元】 情報倫理 (ネット編)  【到達目標】 ネット社会に潜む危険と対策について正しく理解できる	14	【授業単元】 初級データサイエンス試験対策  【到達目標】 初級データサイエンス1-5で学習した操作を繰り返し練習して、設問指示に従った操作を実践できる				
7	【授業単元】 情報倫理 (モバイル編)  【到達目標】 モバイル機器の活用と管理について正しく理解できる	15	【授業単元】 初級データサイエンス定期試験、振り返り  【到達目標】 設問指示に従った操作を実践して、統計処理できる				
8	【授業単元】 SNSセキュリティ研修+中テスト  【到達目標】 Webによるコミュニケーションについて正しく理解できる		【成績評価の方法と基準】  科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験はPCを使用しExcel統計処理を実践する。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】							
PC操作は日々繰り返すことでタイピング速度が上がり、効率的な資料作成やデータ処理が可能になります。できるだけ日常に取り入れて活用してください							

## 授業概要

科目名	地域連携プログラム指導	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年	担当 教員	関根 大介		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
地域連携プログラムを振り返りを行うとともに、そのプロセスにおいて実習内容と連関させる。									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
福祉専門職育成に携わる教員が、当プログラムの目的及び実習に関する基本的なマナーについて指導をするとともに、他授業や他実習に学生が主体的な姿勢で参加できるようにファシリテートを行う。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
適宜資料を配布するとともに、各自の取り組む内容に関連するWEBサイトや教科書を参照すること。					実習内容の振り返りとともに、関連する内容についての主体的な調べ学習やボランティアの参加を要する。				
<b>授業計画</b>									

### 【地域連携プログラムの実習内容の振り返りとシェア】

- ・実習プログラム参加に際して、日誌記入の仕方、実習先での利用者・職員との基本的な関わり方等について最低限必要なことを理解するとともに、状況に応じた行動ができるようになる。
- ・実習プログラムにおいて日々体験した内容を言語化し、クラス内シェアをするとともに、他の学生の活動や気付きにふれ、次回の行動につなげていく。

### 精神保健福祉領域に特化した施設実習プログラム

1年次授業で学んだ知識・技術を、その実習先において必要な援助に変換して実践する。(スペシフィックソーシャルワークの実践)

#### <地域連携プログラムの内容>

##### ★ねらい

- ・個別支援計画を立案する力につなげるコミュニケーション力の強化
- ・3年次の公認心理師実習、4年次のソーシャルワーク実習(精神専門)に向けた記録のトレーニング

##### ★取り組む内容

基本的なコミュニケーション／人間形成／利用者理解

##### ★プログラム内容

精神保健福祉分野等の協力施設での現場体験(実習)

##### ★実施日程

原則木曜日

※前・後期は異なる事業所

※後期は、前期内容を踏まえた上で、精神保健福祉領域や各施設の抱えている課題を自発的に発見し、その課題を解決する考え方・姿勢を持ち、限られた時間内にて最善の解決方法を模索する。

##### ★活動を通じた振り返り・活動報告会

事業所実習プログラムで取り組んだ内容については、後期終了時に活動報告会にてプレゼンテーションを行う。

#### 【履修に当たっての心構え・留意点】

グループワークやペアワーク等で、主知的な姿勢で課題解決に臨む姿勢を求める。

#### 【成績評価の方法と基準】

- ・講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。
- ・定期試験は記述試験とする。
- ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。

## 授業概要

科目名	地域連携プログラム	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年	担当 教員	関根 大介		
学科 コース	心理カウンセラーコース	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	8 単位	総時間数	240 時間

### 【授業を通じての到達目標】

地域における精神保健福祉領域の多様な対象の支援に必要な基礎を、講義・演習科目と福祉現場体験を通して身につける。  
4年次の「ソーシャルワーク実習(精神専門)」の学びを補完、強化し、卒業研究の学びにつなげるのオリジナルプログラムとして行う。

### 【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

福祉専門職育成に携わる教員が、当プログラムの目的及び実習に関する基本的なマナーについて指導をする。合わせて、各事業所における現場職員が、実習機会を提供し、利用者理解と事業所理解に資する技術・知識について指導を行う。

### 【使用教科書・教材・参考図書】

適宜資料を配布するとともに、各自の取り組む内容に関連するWEBサイトや教科書を参照すること。

### 【授業時間外における学習】

実習内容の振り返りとともに、関連する内容についての主体的な調べ学習やボランティアの参加を要する。

### 授業計画

#### 精神保健福祉領域に特化した施設実習プログラム

1年次授業で学んだ知識・技術を、その実習先において必要な援助に変換して実践する。(スペシフィックソーシャルワークの実践)

##### ★ねらい

- ・個別支援計画を立案する力につなげるコミュニケーション力の強化
- ・3年次の公認心理師実習、4年次のソーシャルワーク実習(精神専門)に向けた記録のトレーニング

##### ★取り組む内容

基本的なコミュニケーション／人間形成／利用者理解

##### ★プログラム内容

精神保健福祉分野等の協力施設での現場体験(実習)

##### ★実施日程

原則木曜日

※前・後期は異なる事業所

※後期は、前期内容を踏まえた上で、精神保健福祉領域や各施設の抱えている課題を自発的に発見し、その課題を解決する考え方・姿勢を持ち、限られた時間内にて最善の解決方法を模索する。

#### 活動を通した振り返り・活動報告会

事業所実習プログラムで取り組んだ内容については、後期終了時に活動報告会にてプレゼンテーションを行う。

### 【履修に当たっての心構え・留意点】

実習時には感染症予防等もふまえ、体調管理に留意する必要がある。  
また、主体的な姿勢で課題解決に臨む姿勢を求める。

### 【成績評価の方法と基準】

講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。

- ・評価方法としては、日誌、月報及び活動報告会のプレゼンテーション及び個人の振り返りを通して行う。
- ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。

## 授業概要

科目名	スクールソーシャルワーク論	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	角田友二		
学科コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間

### 【授業を通じての到達目標】

学校を取り巻く現在は、不登校、いじめ、若者世代の自殺、リストカット、薬物乱用、発達障害、貧困、虐待、体罰、学級崩壊、教員の過剰負担などなどたくさんの困難さがあり、「チーム学校」による枠組みで児童生徒とその保護者や教員への支援が展開されてきている学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性を理解する。

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

精神科の病院のケースワーカー（精神保健福祉士）としての経験、スクールソーシャルワーカーとしての経験、スクールカウンセラーとしての経験から、学校教育現場で働く人材はどうあるべきかを考えて展開していく。精神保健福祉士、臨床心理士、公認心理師資格を有している。

【使用教科書・教材・参考図書】

## 【授業時間外における学習】

参考文献『スクールソーシャルワークの実践方法』石川聰子編著、青弓社刊

コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	<p>【授業単元】 第1章 なぜスクールソーシャルワーカーが必要なのか (pp13~26)</p> <p>【到達目標】 学校でのソーシャルワーク実践の必要性、実践の方法、役割業務、養成の課題などが理解できる。</p>	9	<p>【授業単元】 第5章 事例別実践⑦、⑧ 崩壊していく家庭に何が出来るのか (pp89~94)</p> <p>【到達目標】 崩壊していく家庭環境のもたらす子どもたちの支援できることは何なのか。</p>
2	<p>【授業単元】 第2章 学校経営者としてスクールソーシャルワーカーに期待すること(pp27~38)</p> <p>【到達目標】 スクールソーシャルワーカーの活動の概要を知る。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの存在する意味を考える。</p>	10	<p>【授業単元】 第5章 事例別実践⑨、⑩ 負の連鎖から抜け出せない家族(pp94~100)</p> <p>DV被害者である母親の存在している家庭への闇りやアルコール依存の父親と壳巣している母親のいる家庭への闇り。</p>
3	<p>【授業単元】 第3章 アメリカでの取り組みとスクールカウンセラーとの連携 (pp39~54)</p> <p>【到達目標】 アメリカのスクールソーシャルワーカーの制度と我が国の制度くお比較してみる。そして、学校現場におけるスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの常勤化を目指していく中の現在の状況を知る。</p>	11	<p>【授業単元】 第5章 事例別実践⑪、⑫ 自己の存在に悩む子どもに対する支援 (pp100~105)</p> <p>【到達目標】 自殺にかかる対応や性別違和に関する対応について考える。</p>
4	<p>【授業単元】 第4章 ④ 特別支援教育でのスクールソーシャルワーカーの役割 (pp55~69)</p> <p>【到達目標】 特殊教育から特別支援教育への方向性になっている現在における加太のある子ども隊への支援を考える</p>	12	<p>【授業単元】 第5章 12事例から見る社会的対応の課題と学校の精神保健上の問題(pp110~124)</p> <p>【到達目標】 不登校、いじめ、校内暴力などの現状を理解できる。</p>
5	<p>【授業単元】 第5章 事例別実践 事例①、②教育・福祉・地域保健で家庭を支える。(pp70~77)</p> <p>【到達目標】 子どもや家庭の抱える背景を理解して支援を続ける必要性を理解する。</p>	13	<p>【授業単元】 第5章 児童期・思春期の精神保健上の問題と家庭の精神保健上の問題(pp125~146)</p> <p>【到達目標】 リストカット(自傷行為)、薬物乱用、発達障害、統合(場面統合)、児童虐待、両親親のDV、中高年の自殺、離婚などの現状を理解できる</p>
6	<p>【授業単元】 第5章 事例別実践 事例③、④ 親の病気や多重債務に翻弄される子どもたち。(pp77~83)</p> <p>【到達目標】 過酷な状況からの生活を支えていくことへの賛同を考える。</p>	14	<p>【授業単元】 第6章 スクールソーシャルワークの実践モデル(pp154~158) 第6章 学校の精神保健でのナラティブアプローチの提案(pp161~178)</p> <p>【到達目標】 ソーシャルワークの実践モデルを理解して、自己決定・自己選択を待てるナラティブアプローチの視点を理解する。</p>
7	<p>【授業単元】 第5章 事例別実践⑤、⑥ 家庭的要因による不登校への介入(pp83~89)</p> <p>【到達目標】 生活保護費の不正受給「福祉詐欺」や家庭内における性虐待の事例に関わるポイントや難しさを考える。</p>	15	<p>【授業単元】 定期試験</p> <p>【到達目標】</p>
8	<p>【授業単元】 中間テスト</p> <p>【到達目標】</p>		<p>【成績評価の方法と基準】 科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。</p>
【履修に当たっての心構え・留意点】			
講師や学生同士の経験についての話には、守秘義務がありますので、授業外には漏れることの無い様にしてください。			

## 授業概要

## 授業概要

科目名	社会福祉の原理と政策	必修選択の別	必修	開講区分	後期	担当教員	内藤 博幸		
学科コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間

### 【授業を通じての到達目標】

現代社会における福祉制度や意義や理念、福祉政策との関係について理解し、その概要を説明できる。福祉政策におけるニーズと資源について理解する。福祉政策の課題について理解し、解決策を模索する。福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解し、福祉国家論の基本を説明できるようにする。福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割）について理解する。福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策等）の関係について理解し、市場経済における労働・教育と福祉政策との関係を概説できるようにする。

## 【学习内容】

福祉国家及び福祉政策に関する研究経験のある教員が、現代社会における福祉政策を理解するための授業を行う。

【使用教科書・教材・参考図書】			【授業時間外における学習】		
「最新 社会福祉士養成講座4 社会福祉の原理と政策」中央法規			授業を受けたその日のうちに、今一度内容を確認することが重要です。そこで、必ず疑問点が、見えてくるはずです。		
回	授業計画		回	授業計画	
1	【授業単元】 社会福祉の思想・哲学 P48~59	福祉政策において重要な概念・理念 P134~163	9	【授業単元】 男女共同参画社会と母子家庭の現状 P200	定期試験 15回授業 60点満点 * 小テスト・中テストは合計点を ÷2とし、定期試験と合計してAからFの6段階で評価を行います。
	【到達目標】 ・福祉政策の下となった理念の変遷を説明できる ・自由主義・社会主義・保守主義などのイデオロギーを理解し簡単な説明ができる ・社会権・ノーマラーゼーション、福祉多元主義など重要な用語の解説ができる ・ウェルフェアからワークフェアへの意味を解説できる			【到達目標】 ・女性解放運動(フェミニズム運動)の簡単な歴史を解説できる ・男女共同参画社会の目的は何かを解説できる ・男女平等に関する国際指標をあげ、日本の位置を説明できる ・安倍内閣の女性政策を説明できる	
2	【授業単元】 福祉政策におけるニーズと資源(リソース) P169~177	分配の正義 P148~150	10	【授業単元】 福祉国家の類型 P67~88	P282~288
	【到達目標】 ・非貨幣ニードという発想が生まれた背景を解説できる ・ブラッドショーのニード分類を理解し、解説することができる。 ・ニーズ(必要)とデマンド(需要)を解説できる ・必要原則と貢献原則 報酬と用意の用語解説ができる			【到達目標】 ・先進各国の社会保障費の現状を解説できる ・ティトマスの福祉国家の分類を説明できる ・E・アンデルセンの福祉国家レジームを解説できる ・ウレンスキーの福祉国家収録説を説明できる	
3	【授業単元】 福祉政策と資源配分 P169~177	分配の正義 P148~150	11	【授業単元】 アメリカの社会保障制度 P289~295	
	【到達目標】 ・ロールズの格差原理を解説できる パレート効率性を理解する P254~271			【到達目標】 ・アメリカの医療制度を解説できる ・アメリカの年金制度を解説できる	
4	【授業単元】 福祉サービスの供給 P224~227	P228 ~232	12	【授業単元】 イギリスの社会保障制度 P289~295	
	【到達目標】 ・ウルフェンデン報告の福祉ミックス論を解説できる ・平行棒理論と「縁り出し様子理論」を解説できる ・PFIや指定管理者制度などNPMについて説明できる ・ベストの「福祉トライアングル」を説明できる			【到達目標】 ・イギリスの医療制度を解説できる ・イギリスの年金制度を解説できる ・イギリスの社会保障政策の流れを解説できる	
5	【授業単元】 福祉政策と保健医療政策 P202	P224~227	13	【授業単元】 フランス・ドイツ・スウェーデンの社会保障体制 P289~295	
	【到達目標】 ・後期高齢者医療制度を説明できる ・地 域完結型医療への転換を説明できる P233~238			【到達目標】 ・スウェーデンのエーデル改革を解説できる ・ドイツのハルツ改革を解説できる ・フランスの一般社会拠出金制度	
6	【授業単元】 福祉政策と住宅政策 P233~238		14	【授業単元】 今日の我が国の福祉制度の課題 P245	
	【到達目標】 ・老人保健施設、軽費老人ホーム、サ高住、特養の違いを説明できる ・住宅セーフティネット法の特徴をひとつ述べることができる。 ・住宅政策の課題をあげられる			【到達目標】 ・岸田首相の異次元の少子化対策の内容を解説できる ・岸田内閣の掲げる「新しい資本主義」とは何かを説明できる ・菅義偉内閣の子ども家庭庁の新設について解説できる ・財政の問題を踏まえてみる	
7	【授業単元】 福祉政策と災害政策 P245		15	【授業単元】 ・社会福祉政策と理念の紹復習 ・後期試験	
	【到達目標】 ・民生委員と避難行動要支援者登録制度について説明できる ・生活支援相談員の職務を解説できる ・社協のボランティアコーディネータを説明できる ・被災者生活再建支援法を解説できる			【到達目標】 ・グループ学習で、お互いの知識を確認する ・試験は60%以上の正解率	
8	【授業単元】 福祉政策と雇用政策 P239~244			【成績評価の方法と基準】 小テスト 毎回 5点満点 中テスト 第8回授業 15点満点 定期試験 15回授業 60点満点 * 小テスト・中テストは合計点を ÷2とし、定期試験と合計してAからFの6段階で評価を行います。	
	【到達目標】 ・福祉国家の福祉政策の重要性を説明できる ・フレキシキュリティ、ワークフェア、アクティベーションの違いを明確に説明できる ・求職者支援制度を説明できる ・最低賃金制				
【履修に当たっての心構え・留意点】					
配布プリントに解答を書き込むだけでなく、気が付いたことや理解に役立つことと思ったら、どんどんメモを取っていくことです。					

## 授業概要

科目名	地域福祉と包括的支援体制	必修選択の別	必修	開講区分	通年(前期)	担当教員	吉成孝夫		
学科コース	心理カウンセラーコース	学年	2年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
①地域福祉の基本的考え方、展開、動向について理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
現代社会と福祉、老人福祉論、社会理論と社会システム、福祉行政財政と福祉計画等についての教員経験、ホームレス支援とうの社会福祉領域での経験を活かし、理論的枠組みを強固にしたうえで、住民主体の原則及び地方自治の本旨にのっとり、現実に生起する地域の課題を教材として学習を進める。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 6 地域福祉と包括的支援体制』					シラバスに基づいて予習が望ましいが、小テスト等を中心に復習は絶対に必要。				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	【授業単元】 オリエンテーション「地域福祉と包括的支援体制」で何をどう学ぶか  【到達目標】 ①地域福祉と包括的支援体制という科目的学習の内容と学習の意義を理解する。 ②日本国憲法の根本原理からの位置づけを理解する。(憲法25条と地域福祉) ③地方自治及び「住民主体」原則からの位置づけの意義を理解する。	9	【授業単元】 都道府県と市町村の役割  【到達目標】 ①地方公共団体とは何か理解する。 ②福祉行政における都道府県の役割を理解する。 ③福祉行政における市町村の役割を理解する。						
2	【授業単元】 地域福祉の概念と理論  【到達目標】 ①地域福祉の概念と理論の意義を理解する。  ②地域福祉が注目されるようになった経済的・社会的・政治的背景を理解する 日本の主な地域福祉論の概要を理解する。	10	【授業単元】 福祉行政の組織及び専門職の役割  【到達目標】 ①社会福祉の実施体制を理解する。 ②社会福祉における専門機関の役割を理解する。 ③社会福祉の専門職の役割を理解する。						
3	【授業単元】 地域福祉の歴史(欧米)  【到達目標】 ①イギリス新教貧法の下での貧困者救済の実態を理解する。 ②イギリスにおける地域福祉の源流=セツルメント、COSの活動などについて理解する。	11	【授業単元】 福祉の財源  【到達目標】 ①国の財源構成を理解する。 ②地方の財源について理解する ③民間の主な財源について理解する。						
4	【授業単元】 地域福祉の歴史(日本)  【到達目標】 ①戦前の慈善事業家の活動について理解する。 ②戦前における方面委員制度や大学セツルメント等について理解する	12	【授業単元】 福祉計画の定義・目的・機能・歴史的展開  【到達目標】 ①福祉計画の定義・目的・機能について理解する。						
5	【授業単元】 地域福祉の推進主体①  【到達目標】 ①自治体の意義と役割を理解する ②社会福祉協議会の役割と意義を理解する。 ③民生委員・児童委員の役割と意義を理解する	13	【授業単元】 市町村地域福祉計画と都道府県地域福祉支援計画  【到達目標】 ①社会福祉法における地域福祉計画の位置づけを理解する。 ②市町村地域福祉計画の内容を理解する。 ③都道府県地域福祉支援計画の内容を理解する						
6	【授業単元】 地域福祉の推進主体②  【到達目標】 ①保護司の役割を理解する ②町内会の法的位置づけと現状を理解する。  ③NPO、社会的企業の意義と役割を理解する	14	【授業単元】 福祉計画  【到達目標】 ①ニーズ把握の方法・技術を理解する。						
7	【授業単元】 住民の主体形成と福祉教育  【到達目標】 ①地域における住民の主体形成の意義を理解する。 ②住民の主体形成の方法・道筋について理解する。 ③地域福祉の推進と福祉教育の意義について理解する。	15	【授業単元】 定期試験(振り返り)  【到達目標】 ①定期試験を通じてこれまでの重要なポイントを再確認する。						
	【授業単元】 国と地方の関係  【到達目標】 ①国の福祉行政体制とその役割について理解する。 ②地方分権化法について理解する。		【成績評価の方法と基準】 科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。						
【履修に当たっての心構え・留意点】									
基本概念を確実に理解すること。時系列でかつ社会全体の中で位置づけること 。現実の動向に関心を寄せること。									

## 授業概要

科目名	地域福祉と包括的支援体制	必修選択の別	必修	開講区分	通年(後期)	担当教員	吉成孝夫			
学科コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間	
【授業を通じての到達目標】										
①地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念と意義を理解する。										
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)										
現代社会と福祉、老人福祉論、社会理論と社会システム、福祉行政財政と福祉計画等についての教員経験、ホームレス支援とうの社会福祉領域での経験を活かし、理論的枠組みを強固にしたうえで、住民主体の原則及び地方自治の本旨にのっとり、現実に生起する地域の課題を教材として学習を進める。										
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】						
最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座6 『地域福祉と包括的支援体制』中央法規出版、				シラバスに基づいて予習が望ましいが、小テスト等を中心に復習は絶対に必要。						
コマ	授業計画			コマ	授業計画					
	【授業単元】 地域社会の概念と理論				【授業単元】 地域を基盤としたソーシャルワークの展開					
	①【到達目標】 ①地域社会の概念とは何かを理解する。				①【到達目標】 ①地域を基盤としたソーシャルワークの概念を理解する ②地域を基盤としたソーシャルワークが求められてきた背景を理解する ③住民の主体形成の方法を具体的な事例で理解する					
	【授業単元】 地域社会の変化				【授業単元】 多職種連携					
	②【到達目標】 ①世帯規模の縮小による家族機能の低下等を理解する。				①【到達目標】 ①保健・医療・福祉にかかる多職種連携について理解する。 ②生活支援全般に關わるネットワークについて理解する。 ③多職種連携等における個人情報保護の重要性と方法を理解する。					
	【授業単元】 多様化・複雑化した地域生活課題の現状とニーズ				【授業単元】 福祉以外の分野との協力					
	③【到達目標】 ①多様化・複雑化した地域生活課題について理解する。				①【到達目標】 ①社会的企業について理解する。					
	【授業単元】 地域包括ケアシステム				【授業単元】 非常時や災害時における法制度					
	④【到達目標】 ①地域包括ケアシステムとは何かを理解する。				②【到達目標】 ①災害対策基本法を理解する。					
	【授業単元】 生活困窮者自立支援の考え方				【授業単元】 非常時や災害時における総合的・包括的な支援					
コマ	⑤【到達目標】 ①生活困窮者自立支援制度の目的と理念を理解する。  ②制度の概要を理解する。				③【到達目標】 ①災害時要援護者支援について理解する。					
	【授業単元】 地域共生社会と実現に向けた施策				【授業単元】 地域福祉ガバナンス					
	⑥【到達目標】 ①地域共生社会とは何かその概念内容を理解する。				④【到達目標】 ①ガバナンスの考え方を理解する。					
	【授業単元】 地域福祉ガバナンス				【授業単元】 定期試験(振り返り)					
	⑦【到達目標】 ①ガバナンスの考え方を理解する。 ②多様化・複雑化した課題と多機関協働の必要性を理解する ③社会における包括的・重層的支援体制づくりを理解する。 ④住民の参加と共同、住民自治の重要性を理解する				⑤【到達目標】 定期試験を通じこれまでの学習の到達点を知り、知識を統合し重要な事項について理解を深める					
	多機関協働を促進する仕組み				【成績評価の方法と基準】					
	⑧【到達目標】 ①総合相談・各種相談機関の連携を理解する。  ②地域ケア会議、地域包括支援センター運営協議会の活動について理解する。 ③児童分野、障害者分野の協議会について理解する				科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験を行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
	【履修に当たっての心構え・留意点】									
	全ての科目について言えるが、基本概念を確実に理解すること。時系列でかつ社会全体の中で位置づけること。現実の動向に关心を寄せること。									

## 授業概要

科目名	ソーシャルワークの理論と方法(精神専門)	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	安藤 宏美		
学科コース	心理カウンセラーコース	学年	2年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間

### 【授業を通じての到達目標】

1 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスを説明できる。2 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を説明できる。3 精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について説明できる。4 精神保健福祉士と所属機関の関係をふまえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について説明できる。5 個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をミクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性をふまえて説明できる。

### 【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

精神保健福祉士として精神科医療機関でソーシャルワークを行ってきた教員が、精神保健福祉士の専門性である「価値・知識・技術」を中心に据え、精神障害者及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスや家族への支援方法、多職種連携・多機関連携の方法及び精神保健福祉士の役割、ソーシャルアドミニストレーション、個別支援からソーシャルアクションへの実践展開について、講義とそれに関連した具体的な事例検討等を実施する。

### 【使用教科書・教材・参考図書】

『最新 精神保健福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法 [精神専門]』中央法規出版

### 【授業時間外における学習】

・復習: 授業資料と教科書の該当箇所を読み直し、理解を深める。

・予習: 次回の授業資料と教科書の該当箇所を読み、不明点や疑問点を挙げておくことが望ましい。

コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	<p>【授業単元】 (1)オリエンテーション (2)ソーシャルワークとは</p> <p>【到達目標】 (1)本科目の概要、受講のルール、国家試験における位置付けを理解できる。 (2)ソーシャルワークの概要を説明できる。 (①目的 ②対象 ③活動領域)</p>	9	<p>【授業単元】 精神障害者及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセス4 アセスメント</p> <p>【到達目標】 精神障害者及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスにおけるアセスメントの内容と用いられる主な技術を説明できる。</p>
2	<p>【授業単元】 精神保健福祉領域のソーシャルワークの価値、視点</p> <p>【到達目標】 精神保健福祉士の価値に根差した3つの視点を説明できる。</p>	10	<p>【授業単元】 精神障害者及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセス5 プランニング</p> <p>【到達目標】 精神障害者及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスにおけるプランニングの内容と用いられる主な技術を説明できる。</p>
3	<p>【授業単元】 (1)精神保健福祉領域のソーシャルワークの支援対象 (2)精神障害者及び精神保健福祉の課題を持つ人の生活状況</p> <p>【到達目標】 (1)精神保健福祉領域のソーシャルワークの支援対象を説明できる。 (2)精神障害者及び精神保健福祉の課題を持つ人の生活状況及び生活のしづらさを説明できる。</p>	11	<p>【授業単元】 精神障害者及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセス6 インターベンション、モニタリング、エバリュエーション、ターミネーション</p> <p>【到達目標】 精神障害者及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスにおけるインターベンション、モニタリング、エバリュエーション、ターミネーションの内容と用いられる主な技術を説明できる。</p>
4	<p>【授業単元】 精神障害者及び精神保健福祉の課題を持つ人の人権</p> <p>【到達目標】 精神障害者及び精神保健福祉の課題を持つ人の人権をめぐる状況を説明できる。 精神障害者及び精神保健福祉の課題を持つ人の人権擁護について自分の考えを述べることができる。</p>	12	<p>【授業単元】 精神障害者及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークにおける面接技術1</p> <p>【到達目標】 精神障害者及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークにおける面接の特性及び精神保健福祉士に求められる基本姿勢を説明できる。</p>
5	<p>【授業単元】 精神障害者及び精神保健福祉の課題を持つ人の支援の理念</p> <p>【到達目標】 精神障害者支援の理念のうち、世界的に主流のものや近年注目されているものを説明できる。</p>	13	<p>【授業単元】 精神障害者及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークにおける面接技術2</p> <p>【到達目標】 精神障害者及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークにおいて用いられる面接技術を使い始められる。</p>
6	<p>【授業単元】 精神障害者及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセス1 インテーク</p> <p>【到達目標】 精神障害者及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスにおけるインテークの内容と用いられる主な技術を説明できる。</p>	14	<p>【授業単元】 前期まとめ</p> <p>【到達目標】 前期の授業内容を振り返り、定期試験に備えることができる。</p>
7	<p>【授業単元】 精神障害者及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセス2 インテーク</p> <p>【到達目標】 精神障害者及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスにおけるインテークの内容と用いられる主な技術を説明できる。</p>	15	<p>【授業単元】 定期試験、前期の要点を復習</p> <p>【到達目標】 前期の全授業の要点を理解することができる。</p>
8	<p>【授業単元】 (1)中テスト (2)精神障害者及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセス3 アセスメント</p> <p>【到達目標】 (1)学習した内容の要点を復習し、現段階での自身の理解度を確認できる。 (2)精神障害者及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスにおけるアセスメントの内容と用いられる主な技術を説明できる。</p>		<p>【成績評価の方法と基準】</p> <p>科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。</p>
	<p>【履修に当たっての心構え・留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・疑問点や不明点はまず自分で調べたり考えてから質問するのが望ましい。</li> <li>・授業内容を受け取るだけでなく「それについて自分はどう思うのか」を考えること。</li> <li>・他者とのワーク時は「ソーシャルワーカーとして必要な技術の練習」とらえて取り組むこと。</li> </ul>		

## 授業概要

科目名	ソーシャルワークの理論と方法(精神専門)	必修選択の別	必修	開講区分	後期	担当教員	安藤 宏美		
学科コース	心理カウンセラーコース	学年	2	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスを説明できる。2 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を説明できる。3 精神医療・精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について説明できる。4 精神保健福祉士と所属機関の関係をふまえ、組織運営管理・組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について説明できる。5 個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をミクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性をふまえて説明できる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
精神保健福祉士として精神科医療機関でソーシャルワークを行ってきた教員が、精神保健福祉士の専門性である「価値・知識・技術」を中心に据え、精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスや家族への支援方法、多職種連携・多機関連携の方法及び精神保健福祉士の役割、ソーシャルアドミニストレーション、個別支援からソーシャルアクションへの実践展開について、講義とそれに関連した具体的な事例検討等を実施する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
『最新 精神保健福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法 [精神専門]』 中央法規出版					・復習: 授業資料と教科書の該当箇所を読み直し、理解を深める。 ・予習: 次回の授業資料と教科書の該当箇所を読み、不明点や疑問点を挙げておくことが望ましい。				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する集団を活用した支援1  【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する集団を活用した支援(ソーシャル・グループワーク)の概要を理解し、以下について説明できる。 (1)定義 (2)基本的枠組み (3)理論的モデル (4)歴史 (5)展開過程 (6)グループワークの実際	9	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるチームアプローチ1  【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるチームアプローチの概要を説明できる。						
2	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する集団を活用した支援2  【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する集団を活用した支援(ソーシャル・グループワーク)の概要を理解し、以下について説明できる。 (1)定義 (2)基本的枠組み (3)理論的モデル (4)歴史 (5)展開過程 (6)グループワークの実際	10	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるチームアプローチ2 ピアサポート  【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるピアサポートの意義を説明できる。						
3	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するアウトリー1  【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するアウトリーの意義、方法、形態、留意点を説明できる。	11	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるチームアプローチ3 ピアサポート  【到達目標】 AA (Alcoholics Anonymous) のメンバーをゲストに迎え、精神保健福祉士とピアとの協働のあり方について自分の意見を述べることができる。						
4	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるケアマネジメント1  【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるケアマネジメントの意義、目的、展開過程、方法、チームの概要を説明できる。	12	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるソーシャルアクション  【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるソーシャルアクションの視点、歴史、展開過程、政策提言のあり方の概要を説明できる。						
5	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるケアマネジメント2  【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるケアマネジメントの意義、目的、展開過程、方法、チームの概要を説明できる。	13	【授業単元】 精神保健福祉領域のソーシャルアドミニストレーション  【到達目標】 ソーシャルアドミニストレーションの概念、意義、展開方法の概要を説明できる。						
6	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人の家族に対する支援1  【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人の家族が置かれてきた状況を説明できる。	14	【授業単元】 まとめ  【到達目標】 後期の授業内容を振り返り、定期試験に備えることができる。						
7	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人の家族に対する支援2  【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人の家族に対する支援の意義と方法を説明できる。	15	【授業単元】 定期試験、後期の要点を復習  【到達目標】 後期の全授業の要点を理解することができる。						
8	【授業単元】 (1)中テスト (2)精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するコミュニティワーク  【到達目標】 (1)学習した内容の要点を復習し、現段階での自身の理解度を確認できる。 (2)精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するコミュニティワークの概要を説明できる。		【成績評価の方法と基準】						
	【履修に当たっての心構え・留意点】		科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。						
	・疑問点や不明点はまず自分で調べたり考えてから質問するのが望ましい。 ・授業内容を受け取るだけでなく「それについて自分はどう思うのか」を考えること。 ・他者とのワーク時は「ソーシャルワーカーとして必要な技術の練習」とからえて取り組むこと。								

## 授業概要

## 授業概要

## 授業概要

## 授業概要

## 授業概要

科目名	心理学研究法	必修選択の別	必修	開講区分	通年(後期)	担当教員	丸山 亮光		
学科コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間

#### 【授業を通じての到達目標】

公認心理師及び精神保健福祉士といった対人支援職に求められる履修科目である以下の内容への理解と実践ができるることを目標とする。

- ①心理学における実証的研究法(量的研究及び質的研究)、②データを用いた実証的な思考方法、③研究における倫理

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

臨床心理士及び公認心理師である教員が、心という形のないものを実証的に研究していく上で必要になる知識・技術を解説する。また、異なる研究法を具体的に例示し、周辺分野を参照しながら体験できる内容を取り入れ、実際に研究の手続きを踏めるような講義を開設していく。

【使用教科書・教材・参考図書】

●Excelで今すぐはじめる心理統計 簡単ツールHADで基本を身につける(小宮すか他)、【参考】改訂新版:心理学論文の書き方(松井豊)

※教科書よりもスライドなどが中心となる。必要に応じて資料は配付予定。

### 【授業時間外における学習】

心理学の基本であるため、概念や専門用語は多く取り上げる。そのため、日頃から授業内容の復習や、実際の「心理学論文」や「書籍」を読んでおくことが望ましい。また、主体的に自己理解や関心分野への知識を深める行動を推奨する。

コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	<p>【授業単元】 検査法(4)描画法と研究倫理</p> <p>【到達目標】 検査法(投影法)に含まれる代表的な描画法と研究における倫理事項について説明することができる。</p>	9	<p>【授業単元】 質的研究(3)事例研究法&lt;1&gt;臨床的事例の読み取り</p> <p>【到達目標】 事例研究法の概要を理解し、臨床的事例を読み取る上で模擬事例を通して、検討する箇所を推論し、指摘できる。</p>
2	<p>【授業単元】 調査法(1)質問紙法の概要～回答形式と質問文～</p> <p>【到達目標】 調査法の代表的な質問紙法の概要を理解し、回答形式や質問文の原則などについて説明することができる。</p>	10	<p>【授業単元】 質的研究(4)事例研究法&lt;2&gt;とその他の研究法</p> <p>【到達目標】 系統的事例研究法やその他に挙げられる研究法の概要を理解し、模擬事例に対して検討を重ね、事例読解について関心を深めることができる。</p>
3	<p>【授業単元】 調査法(2)質問紙作成と実施手順</p> <p>【到達目標】 質問紙の作成や模擬調査の体験を通じて概要を理解し、実施手順を説明することができる。</p>	11	<p>【授業単元】 心理学における文献研究と研究デザイン(1)</p> <p>【到達目標】 文献の検索や論文の基本構成、文献表の作成方法を理解し、自身の関心のあるキーワードと研究テーマについて決定することができる。</p>
4	<p>【授業単元】 面接法(1)面接法の手続きと配慮事項</p> <p>【到達目標】 面接法の具体的な手続きを学び、面接場面で注意するべき配慮事項などについて説明することができる。</p>	12	<p>【授業単元】 心理学における文献研究と研究デザイン(2)</p> <p>【到達目標】 共有資料となるレジュメの作成方法を学び、文章表現や引用文献・参考文献の記載形式などについて実践することができる。</p>
5	<p>【授業単元】 面接法(2)調査面接の展開と聴く側のテクニック</p> <p>【到達目標】 調査面接の展開に伴って必要となる姿勢や聴き取る力の向上に繋がる手法について実践することができる。</p>	13	<p>【授業単元】 心理学における文献研究と研究デザイン(3)</p> <p>【到達目標】 レジュメの最終構成を行い、複数の論文から見受けられた研究分野の展望と問題点を読み取り、今後必要となる研究の方向性について説明することができる。</p>
6	<p>【授業単元】 質的研究(1)質的データの集積を要する研究について—KJ法—</p> <p>【到達目標】 質的研究に該当する文献やKJ法などの基本構成について理解し、説明することができる。</p>	14	<p>【授業単元】 心理学における文献研究と研究デザイン(4)</p> <p>【到達目標】 これまでの収集した資料に自身の展望と意見をまとめ、研究資料として完成し、他者と共に共有することができる。</p>
7	<p>【授業単元】 質的研究(2)質的研究におけるデータの活用について—GTA他—</p> <p>【到達目標】 GTA法などの得られた言語データから得られるナラティブと付随する調査者の影響について説明することができる。</p>	15	<p>【授業単元】 総復習と定期試験</p> <p>【到達目標】 学期末試験を通じて、当科目で学んだ内容の定着度を確認する。</p>
8	<p>【授業単元】 前半総復習と中間試験</p> <p>【到達目標】 前半までに学んだ内容の定着度の確認に加え、試験を通じて振り返ることができる。</p>		<p>【成績評価の方法と基準】</p> <p>科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。</p> <p>毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。</p> <p>授業内のワークは上記の成績とは別になるものも多いが、期限内の提出がなされない場合、授業の展開に支障が出るものもある。回によってはワーク提出の有無により、出席点として処理する場合があるため、注意すること。</p>
	【履修に当たっての心構え・留意点】		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容により、途中参加が厳しいものがある。欠席・遅刻に留意すること。</li> <li>・グループ体験も実施するため、協力的な姿勢を求める。</li> <li>・疑問点や分からぬ点は積極的に自分で調べることと質問すること。</li> </ul>		

## 授業概要

科目名	心理学統計法	必修選択の別	必修	開講区分	通年(前期)	担当教員	丸山 亮光		
学科コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間

### 【授業を通じての到達目標】

公認心理師及び精神保健福祉士といった対人支援職に求められる履修科目である以下の内容への理解と実践ができるることを目標とする。  
 ①心理学で用いられる統計手法、②統計に関する基礎的な知識

### 【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

臨床心理士及び公認心理師である教員が、研究で必要になる統計的概念や統計処理を解説する。実際にExcelや多変量解析用の統計ツールなどを用いて、分析の手順などを参照し、研究における統計の位置づけの説明や結果の読み取りなどを提示し、各自で取り組んでもらう講義を開いていく。

### 【使用教科書・教材・参考図書】

●心理学のための統計学入門1(川端一光・莊島宏二郎)

【参考】①Excelで今すぐ始める心理統計:簡単ツールHADで基本を身につける(小宮あすか)②心理統計学の基礎:統合的理解のために(南風原朝和)

### 【授業時間外における学習】

研究で用いる統計の習熟で必要なのは「パソコンの取扱い(特にExcel)」と「分析の実施手順と統計概念の把握」である。授業内容を振り返り、パソコンスキルの向上や分析手順の練習をすることが望ましい。

コマ	授業計画	コマ	授業計画		
1	【授業単元】 オリエンテーション:尺度水準について  【到達目標】 心理学における統計的処理の必要性について理解し、尺度水準を説明することができる。	9	【授業単元】 関係性の分析(3)擬似相関と連関  【到達目標】 相関関係を読み取る上での注意点を理解し、質的変数における関係性について説明し、計算することができる。		
2	【授業単元】 データの可視化と度数分布について  【到達目標】 データを階級るために必要なグラフなどの種類を知り、度数分布表の作成方法などを説明し、実践できる。	10	【授業単元】 推測統計(1)信頼性の検証方法とサンプリング  【到達目標】 データの信頼性を検証する方法を実施することができ、統計のサンプリングについて説明することができる。		
3	【授業単元】 代表値について  【到達目標】 代表値(平均値、中央値、最頻値)について説明し、算出方法を知ることができる。	11	【授業単元】 推測統計(2)母集団と不偏性について  【到達目標】 標本抽出から母数を推測するために必要な概念とその推定について説明することができる。		
4	【授業単元】 分散と標準偏差について  【到達目標】 データを得た場合の分散と標準偏差について理解し、説明することができる。	12	【授業単元】 統計的仮説検定(1)統計的に意味のある差について  【到達目標】 統計的仮説検定を成立させる統計論理を説明し、統計的に意味のある差の水準について説明することができる。		
5	【授業単元】 標準得点と偏差値について  【到達目標】 正規分布から得られる標準得点と偏差値の算出について理解し、実施することができる。	13	【授業単元】 統計的仮説検定(2)z検定とヒューマンエラーについて  【到達目標】 標本からうかがえる母集団の特徴を読み取るために用いるz検定の概要や、結果の読み取りで起きるヒューマンエラーについて説明することができる。		
6	【授業単元】 関係性の分析(1)散布図と共に分散①  【到達目標】 2つ以上の量的変数を扱う際の関係の程度を調べる前の、データの散らばりについて読み取り、計算することができる。	14	【授業単元】 統計的仮説検定(3)t検定の概要  【到達目標】 2つの要因からなるt検定の概要とその公式などを理解し、説明することができる。		
7	【授業単元】 関係性の分析(2)共分散と相関係数②  【到達目標】 相関関係を算出するための共分散の扱いと関係の程度を示す相関係数について説明することができ、計算することができる。	15	【授業単元】 総復習と定期試験  【到達目標】 学期末試験を通して、当科目で学んだ内容の定着度を確認する。		
8	【授業単元】 前期総復習と中間試験  【到達目標】 前半までに学んだ内容の定着度の確認に加え、試験を通じて振り返ることで復習が必要な部分を整理し、分類することができる。	【成績評価の方法と基準】			
【履修に当たっての心構え・留意点】					
<ul style="list-style-type: none"> <li>統計処理を行つたため、計算も授業内で行う。電卓などの活用を推奨する。</li> <li>統計ソフト、パソコンの使い方の習熟が必要なので練習すること。</li> <li>タブレット(ipad)では統計処理ができないため、可能であれば自身のノートパソコンを持参することが望ましい。(学校のパソコンも使用可能)</li> </ul>					

## 授業概要

科目名	心理学統計法	必修選択の別	必修	開講区分	通年(後期)	担当教員	丸山 亮光		
学科コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
公認心理師及び精神保健福祉士といった対人支援職に求められる履修科目である以下の内容への理解と実践ができるることを目標とする。									
①心理学で用いられる統計手法、②統計に関する基礎的な知識									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
臨床心理士及び公認心理師である教員が、研究で必要になる統計的概念や統計処理を解説する。実際にExcelや多変量解析用の統計ツールなどを用いて、分析の手順などを参照し、研究における統計的位置づけの説明や結果の読み取りなどを提示し、各自で取り組んでもらう講義を展開していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
●心理学のための統計学入門1(川端一光・莊島宏二郎)					研究で用いる統計の習熟で必要なのは「パソコンの取扱い(特にExcel)」と「分析の実施手順と統計概念の把握」である。授業内容を振り返り、パソコンスキルの向上や分析手順の練習をすることが望ましい。				
【参考】①Excelで今すぐ始める心理統計:簡単ツールHADで基本を身につける(小宮あすか)②心理統計学の基礎:統合的理理解のために(南風原朝和)									
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	【授業単元】 統計的仮説検定(4)信頼区間と偏相関係数  【到達目標】 散布度から導き出す四分位数と分布の形状に注目し、結果の有効性を示す信頼区間について説明し、計算することができる。	9	【授業単元】 実践体験(1)t検定とExcel  【到達目標】 Excelの操作に準じた実践体験を通じて、3種類のt検定を実施することができる。						
2	【授業単元】 カイ二乗検定について  【到達目標】 独立性の検定による連関の有無を検証する実施手順を理解し、クラメールの連関係数などの算出を実施することができる。	10	【授業単元】 実践体験(2)分散分析、基本統計量、相関分析  【到達目標】 Excelの操作に準じた実践体験を通じて、分散分析、基本統計量、相関分析の実施ができる。						
3	【授業単元】 t検定の展開(1)と分散分析(1)概要  【到達目標】 t検定の実践に伴う手順から関連する分散分析の概要について説明することができる。	11	【授業単元】 実践体験(3)因子分析(前編)と類似した分析  【到達目標】 統計ソフトを用いた因子分析の具体的な手順について実行することができる。						
4	【授業単元】 t検定の展開(2)と分散分析(2)F検定と一元配置  【到達目標】 t検定の具体的な展開と分散分析における「一元配置分散分析」について理解し、説明することができる。	12	【授業単元】 実践体験(4)因子分析(後編)と重回帰分析  【到達目標】 回帰分析のうち、重回帰分析の概要を理解し、実践することができる。						
5	【授業単元】 分散分析(3)有意の読み取りと二元配置  【到達目標】 分散分析における検定式と有意差の扱いについて理解し、結果を報告することができる。また、	13	【授業単元】 実践体験(5)重回帰分析とその他の統計分析  【到達目標】 回帰分析のうち、重回帰分析の概要を理解し、実践することができる。また、統計ソフトによるその他の統計分析を実践することができる。						
6	【授業単元】 因子分析(1)多変量解析と因子分析の概要  【到達目標】 多変量解析に含まれる因子分析の概要について説明することができる。	14	【授業単元】 発展的分析法と質的分析法  【到達目標】 共分散構造モデルをはじめとした発展的な分析手法について理解し、説明することができる。また、質的研究によって得られたデータを他の変数と処理するための手順を理解し、実施することができる。						
7	【授業単元】 因子分析(2)実施手順と解釈  【到達目標】 実際の統計ソフトから因子分析を実行するまでにどのような展開を経るか手順について説明し、実施することができる。	15	【授業単元】 総復習と定期試験  【到達目標】 学期末試験を通じて、当科目で学んだ内容の定着度を確認する。						
8	【授業単元】 前半総復習と中間試験  【到達目標】 前半までに学んだ内容の定着度の確認に加え、試験を通じて振り返ることで復習が必要な部分を整理し、分類することができる。		【成績評価の方法と基準】  科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。 授業内のワークは実践に基づくものがあるが、PCが無いなどの問題があれば、他の学生や講師の操作実演を確認することを推奨する(実践が評価基準になるわけではない)。						
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・統計処理を行うため、計算も授業内で行う。電卓などの活用を推奨する。 ・統計ソフト、パソコンの使い方の習熟が必要なので練習すること。 ・タブレット(ipad)では統計処理ができないため、可能であれば自身のノートパソコンを持参することが望ましい。(学校のパソコンも使用可能)									

## 授業概要

科目名	感情・人格心理学	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	望月勇希		
学科コース	心理カウンセラーコース	学年	2年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
感情に関する理論や感情喚起の機序、感情が判断や行動に及ぼす影響、人格の概念やその形成、人格の類型論や特性論について説明できる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
臨床心理士・公認心理師として医療・福祉・教育・企業などの多領域で臨床経験のある講師がその実務経験を活かし、心理学の知識が心理学的支援にどのようにつながるかについても交え授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
公認心理師の基礎と実践⑨[第9巻] 感情・人格心理学 杉浦義典編 遠見書房					ニュースやSNSなどでは様々な出来事が発信されています。日ごろからアンテナを立て心理学の視点と結びつけて考えてみましょう。				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	【授業単元】 オリエンテーション  序論 感情・人格心理学を学ぶと  【到達目標】 感情や人格の定義について説明できる。	9	【授業単元】 第7章 感情調整  【到達目標】 感情調整のプロセスモデルについて説明できる。感情の構成理論について説明できる。						
2	【授業単元】 第1章 動機づけ  【到達目標】 動機づけの理論やシステムと心理的問題について説明できる。	10	【授業単元】 第8章 人格の遺伝  【到達目標】 ヒトゲノムや人格の遺伝に関する論争、遺伝と環境の相互作用について説明できる。						
3	【授業単元】 第2章 基本感情  【到達目標】 感情についてやその機序、基本感情説について説明できる。	11	【授業単元】 第9章 人格の社会・進化的要因  【到達目標】 人格における遺伝と環境の影響について行動遺伝学の観点から説明できる。						
4	【授業単元】 第3章 感情と認知的評価  【到達目標】 ストレッサーとストレス反応、心理学的ストレスモデル、バイアスについて説明できる。	12	【授業単元】 第10章 特性論  【到達目標】 特性論について説明できる。ピックファイブに至るまでの歴史を説明できる。ピックファイブの問題点について説明できる。						
5	【授業単元】 第4章 ポジティブ感情の効果  【到達目標】 ポジティブ感情と精神病理について説明できる。	13	【授業単元】 第11章 類型論  【到達目標】 類型論について説明できる。代表的な諸理論を説明できる。						
6	【授業単元】 第5章 ネガティブ感情の効果  【到達目標】 ネガティブな情動や感情と情報処理について説明できる。	14	【授業単元】 第12章 人格と病理  【到達目標】 パーソナリティーと病理の定義を説明できる。パーソナリティーと精神疾患との関係を説明できる。						
7	【授業単元】 第6章 社会を支える感情  【到達目標】 競争と協力について心理学的に説明できる。	15	【授業単元】 科目まとめ・振り返り 定期試験・試験解答解説  【到達目標】 ・科目の重要なポイントが確認できる。						
8	【授業単元】 これまでの振り返り 中テストと中テストの解説  【到達目標】 総復習によって1回から7回までの臨床心理学の基礎を系統的に説明できる。中テストによってそれを確認し解説することで知識の整理と定着をはかることができる。  【履修に当たっての心構え・留意点】 グループや個人、ペアなどでの体験を通して学ぶワークがあります。お互いの違いを認め尊重し合う姿勢をもって取り組みましょう。		【成績評価の方法と基準】 科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。						

## 授業概要

科目名	心理的アセスメント	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	福井 博一		
学科コース	心理カウンセラーコース	学年	2年	授業の方法	講義	単位数	4 単位	総時間数	60 時間

### 【授業を通じての到達目標】

次の2点を目標とする。

- ①心理的アセスメントの目的と意義について理解し、説明することができる。
- ②心理的アセスメントの方法と実際について理解し、説明することができる。

### 【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

公認心理師・臨床心理士・精神保健福祉士として、あらゆる年代の人々の、さまざまな相談に応じながら心理的アセスメントを行ってきた講師が、患者や利用者とかかわるために必要とされる、心理的アセスメントに関する授業を行う。

### 【使用教科書・教材・参考図書】

教科書は特に指定しない。必要に応じて関連資料を配布する。また、適宜、参考文献を紹介する。

### 【授業時間外における学習】

配布資料をもとに授業の復習をしっかりと行うこと。参考文献を読んでさらに理解を深めること。

コマ	授業計画	コマ	授業計画
1・2	<p>【授業単元】 ・オリエンテーション ・心理的アセスメント総論～その1～ ・心理的アセスメント総論～その2～</p> <p>【到達目標】 ・本科目の目標・予定・進め方について理解し、説明することができる。 ・心理的アセスメントの目的・対象・内容・方法の概要について理解し、説明することができる。 ・心理的アセスメントのプロセスについて理解し、説明することができる。</p>	17・18	<p>【授業単元】 ・検査法の実際と事例～その7～ ・検査法の実際と事例～その8～</p> <p>【到達目標】 ・投映法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる～パウム・テスト～。 ・投映法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる～HTP他～。</p>
3・4	<p>【授業単元】 ・心理的アセスメント総論～その3～ ・心理的アセスメント総論～その4～</p> <p>【到達目標】 ・心理的アセスメントと精神医学的診断の異同について理解し、説明することができる。 ・心理的アセスメントと病理水準の関連について理解し、説明することができる。</p>	19・20	<p>【授業単元】 ・検査法の実際と事例～その9～ ・検査法の実際と事例～その10～</p> <p>【到達目標】 ・投映法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる ～ロールシャッハ・テスト①②～。</p>
5・6	<p>【授業単元】 ・心理的アセスメント総論～その5～ ・心理的アセスメント総論～その6～</p> <p>【到達目標】 ・行動観察法と面接法について理解し、説明することができる①。 ・行動観察法と面接法について理解し、説明することができる②。</p>	21・22	<p>【授業単元】 ・検査法の実際と事例～その11～ ・検査法の実際と事例～その12～</p> <p>【到達目標】 ・投映法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる ～ロールシャッハ・テスト③④～。</p>
7・8	<p>【授業単元】 ・心理的アセスメント総論～その7～ ・心理的アセスメント総論～その8～</p> <p>【到達目標】 ・認知行動療法における心理的アセスメントについて理解し、説明することができる①。 ・認知行動療法における心理的アセスメントについて理解し、説明することができる②。</p>	23・24	<p>【授業単元】 ・検査法の実際と事例～その13～ ・検査法の実際と事例～その14～</p> <p>【到達目標】 ・投映法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる～TAT・PFスタディ～。 ・投映法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる～SCT～。</p>
9・10	<p>【授業単元】 ・心理的アセスメント総論～その9～ ・心理的アセスメント総論～その10～</p> <p>【到達目標】 ・心理的アセスメントにおける検査法とその分類について理解し、説明することができる。 ・テスト・バッテリーについて理解し、説明することができる。</p>	25・26	<p>【授業単元】 ・検査法の実際と事例～その15～ ・検査法の実際と事例～その16～</p> <p>【到達目標】 ・知能検査の具体的方法と事例について理解し、説明することができる ～ウェクスラー法①②～。</p>
11・12	<p>【授業単元】 ・検査法の実際と事例～その1～ ・検査法の実際と事例～その2～</p> <p>【到達目標】 ・質問紙法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる～MMPI～。 ・質問紙法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる～CMI他～。</p>	27・28	<p>【授業単元】 ・検査法の実際と事例～その17～ ・検査法の実際と事例～その18～</p> <p>【到達目標】 ・知能検査の具体的方法と事例について理解し、説明することができる ～ウェクスラー法③④～。</p>
13・14	<p>【授業単元】 ・検査法の実際と事例～その3～ ・検査法の実際と事例～その4～</p> <p>【到達目標】 ・質問紙法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる～SDS他～。 ・質問紙法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる～MMSE他～。</p>	29・30	<p>【授業単元】 ・17回目～28回目までの振り返り ・定期試験</p> <p>【到達目標】 ・17回目～28回目までの振り返りを行い、その内容を理解し、説明することができる。 ・定期試験を実施する。</p>
15・16	<p>【授業単元】 ・検査法の実際と事例～その5～ ・前半15回の振り返り</p> <p>【到達目標】 ・作業検査法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる～内田クレベリン～。 ・前半15回の振り返りを行い、その内容を理解し、説明することができる。</p>		<p>【成績評価の方法と基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験60%、毎回授業の小テスト40%の配分で総合し、A～Fの6段階で評価する。</li> <li>・試験は筆記試験で行う。</li> <li>・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。</li> </ul>
	<p>【履修に当たっての心構え・留意点】</p> <p>授業内容を現場にどのように活かすことができるのかをつねに意識しながら臨むこと。また、随時、グループワークやロールプレイを実施するので積極的に参加すること。</p>		

## 授業概要

科目名	福祉心理学	必修選択の別	必修	開講区分	後期	担当教員	関根 大介		
学科コース	心理カウンセラーコース	学年	2年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉現場において生じる問題とその背景について、理解、説明することができる。</li> <li>・福祉現場における心理社会的課題と必要な支援方法について、理解、説明することができる。</li> <li>・虐待、認知症に関する必要な支援について、理解、説明することができる。</li> </ul>									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
<p>臨床現場(医療、福祉、産業等)で勤務してきた教員が、福祉的諸問題(高齢・障害・虐待等)について整理し、当事者、関係者への心理学的支援方法について授業を行ないます。授業を通して、ただ資格を取得するためだけでなく、その先の現場で役に立つ知識・スキルが取得できることを目指して授業を行います。授業形式は講義(映像資料、事例資料などを活用しながら展開)とグループワーク、演習を活用した学習スタイルです。</p>									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
<b>使用教科書:</b> 公認心理師の基礎と実践① 福祉心理学 <b>教材:</b> 配布資料teamsにアップします。資料を確認できるデバイスをご持参ください。					授業はあくまで学習のキッカケです。あなたがプロフェッショナルな人材になりたいのであれば、自主的な予習復習はもちろん、あなたが気に入った参考図書を見つけ、豊富な知識を蓄え、他者にアウトプットすることが必要です。				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	<p>【授業単元】 社会福祉の展開と心理的支援、生活を抱える心理的支援についての概略を学ぶ</p> <p>【到達目標】 社会福祉の歴史的展開と現代の福祉政策の概要について説明することができる。 福祉心理学の考え方について説明することができる。 福祉制度と心理職の役割について説明することができる。</p>	9	<p>【授業単元】 認知症高齢者の心理支援について学ぶ</p> <p>【到達目標】 認知症による症状と心理問題について説明することができる。 認知症高齢者への心理支援について説明することができる。</p>						
2	<p>【授業単元】 暴力被害者への心理支援について学ぶ</p> <p>【到達目標】 DVの実態・構造、被害・加害者の心理について説明することができる。 支援方法・留意点について説明することができる。 DVによる子どもへの影響について説明することができる。</p>	10	<p>【授業単元】 ひきこもりの現状と心理支援について学ぶ</p> <p>【到達目標】 ひきこもりの実態や支援施策について説明することができる。 ひきこもりの方への支援方法について自分の考えを踏まえて説明することができる。</p>						
3	<p>【授業単元】 高齢者への心理支援について学ぶ</p> <p>【到達目標】 高齢者福祉関連の法律とその概要について説明することができる。 認知症の実態、診断基準、症状、支援について説明することができる。 高齢者領域における心理支援について説明することができる。</p>	11	<p>【授業単元】 自殺予防の心理支援について学ぶ</p> <p>【到達目標】 自殺者の実態(どの性別や年齢が多いのか、その理由等)について説明することができる。 自殺対策の取り組みについて説明することができる。 自殺を考えている人や遺族、未遂者へのかかわり方について例を挙げながら説明できる。</p>						
4	<p>【授業単元】 障害・疾病のある人への心理支援について学ぶ 発達障害児に対する現状と問題、心理支援について学ぶ</p> <p>【到達目標】 障害・疾病のある人への心理支援について理解できる。 発達障害の特徴、二次障害について説明することができる。 発達障害児への支援方法について説明することができる。</p>	12	<p>【授業単元】 精神障害者への心理支援について学ぶ</p> <p>【到達目標】 精神障害者が支える制度とサービスについて説明することができる。 精神障害者が抱える困難さについて説明することができる。 公認心理師が精神障害者を支援するときに必要な基本姿勢について説明できる。</p>						
5	<p>【授業単元】 生活困窮・貧困への心理支援について学ぶ</p> <p>【到達目標】 生活困窮・貧困の実態と心理支援について理解できる(オームレス・生活保護・貧困女性等)。 公認心理師の役割について説明することができる。</p>	13	<p>【授業単元】 家族・職員への心理支援について学ぶ</p> <p>【到達目標】 福祉対象者の家族への心理支援の在り方について説明することができる。 福祉施設職員への心理支援の在り方について説明することができる。</p>						
6	<p>【授業単元】 児童虐待への心理支援について学ぶ</p> <p>【到達目標】 児童虐待のけんじょうについて説明することができる。 虐待問題における関係機関の対応や役割について説明することができる。 施設や里親、ファミリーホームへの委託における心理職の役割について説明することができる。</p>	14	<p>【授業単元】 福祉分野での多職種協働と心理職に位置づけについて学ぶ</p> <p>【到達目標】 各専門職の役割と多職種協働、チームアプローチについて説明することができる。 医療福祉現場における公認心理師の役割について説明することができる。 多職種が協働する際の留意点について説明することができる。</p>						
7	<p>【授業単元】 子どもと親への心理支援について学ぶ</p> <p>【到達目標】 現在の子育て環境の現状や支援事業について説明することができる。 ひとり親家庭への支援について説明することができる。 要保護・要支援ケースや社会的養護における子どもと親への支援について説明することができる。</p>	15	<p>【授業単元】 これまでのまとめ 定期試験及び解説</p> <p>【到達目標】 第14回目までの授業内容を理解できている。 定期試験後に解説を行い、重点項目について説明することができる。</p>						
8	<p>【授業単元】 第7回目までの授業の振り返り 中テスト</p> <p>【到達目標】 第7回目までの授業内容を説明することができる。</p>		<p>【成績評価の方法と基準】</p> <p>講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験は筆記試験で行う。</li> <li>・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。</li> </ul>						
【履修に当たっての心構え・留意点】									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・デバイスは十分な充電を行って講義を受けて下さい。</li> <li>・グループワークでの討議等に積極的に参加して下さい。</li> </ul>									

## 授業概要

科目名	教育・学校心理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	角田 友二		
学科 コース	心理カウンセラーコース	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
教育現場において生じる問題とその背景を理解して、心理社会的課題を把握したうえで必要な支援を行えるようにしていく。「教育に関する心理学分野」は出題割合は9%と比率が高く、事例問題としての出題もあり、将来の公認心理師国家試験において点数を稼げる科目にして、実際に学校臨床場面での仕事に役立つものにしていく。									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
精神科病院でのケースワーカーとしての経験をもとに、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとしても学校場面で仕事をしてきており、他・多職種協働しての仕事を理解する。また、公認心理師の出題基準(ブループリント)に基づいて過去問にもふれていく。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
「公認心理師の基礎と実践18 教育・学校心理学」第2版 石隈利紀編 遠見書房 参考文献・「教育分野」創元社、過去問他、時間があれば映像資料も視聴します。					教育現場における法令、実情を理解するように求めます。 授業回のテキスト部分は必ず読んで下さい。読んでいるものとして進めます。				
回	授業計画	回	授業計画						
1	【授業単元】 オリエンテーション 授業の展開について テキスト11ページ～26ページ 第1章「教育学校心理学の意義」  【到達目標】 教育・学校心理学の概要を把握して、教育分野において、教師ではない対人援助職(スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー)が求められている意義を概観していく。	9	【授業単元】 テキスト130ページ～143ページ 第10章「非行の理解と非行をする子どもの援助」  【到達目標】 非行についての定義や、非行の3段階の対応モデル、学校外の関係機関などとの連携について理解する。						
2	【授業単元】 テキスト27ページ～41ページ 第2章「子どもの発達課題への取り組みの理解と援助」  【到達目標】 ピアジェ、フロイト、エリクソン他の発達理論を知ることが、学校現場での仕事にどのようにつなげて いかをイメージできるようにしていく。	10	【授業単元】 テキスト144ページ～158ページ 第11章「学校における危機対応」  【到達目標】 学校における危機の概要を理解して、危機状態の学校、生徒、教員、保護者の姿をイメージして、緊急支援のありかたを学んでいく。						
3	【授業単元】 テキスト42ページ～54ページ 第3章「子どもの教育課題への取り組みの援助」  【到達目標】 教育現場におけるいじめ、不登校、家庭の貧困、虐待、体罰、学習面の課題、教員の過剰労働などについての現状を理解する。	11	【授業単元】 テキスト159ページ～170ページ 12章「学級づくりの援助」  【到達目標】 学級づくりにチーム学校の一員としてどのような関わりが可能であるかを考え、またブラック職場と言われる学校のありかたについて考える。						
4	【授業単元】 テキスト55ページ～78ページ 第4章「スクールカウンセリングの枠組み」 第5章「子どもの多様な援助者によるチーム援助」  【到達目標】 スクールカウンセラーとしての援助の視点を学び、チーム学校で援助を進めていくことについて学ぶ。	12	【授業単元】 テキスト171ページ～181ページ 第13章「学校づくりの援助」  【到達目標】 学校の望ましい姿はどのようなことなのかを考えながら、チーム学校の一員としてできることを考える。						
5	【授業単元】 テキスト79ページ～88ページ 第6章「3段階の心理教育的援助サービス」  【到達目標】 学校現場で行われる3段階の心理教育的援助サービスとはどういうことなのかを、実際の例を取り入れながら学んでいく。	13	【授業単元】 テキスト182ページ～204ページ 第14章「地域ネットワークづくりの援助」 第15章「教育・学校心理学と公認心理師の実践」  【到達目標】 地域の関係機関との連携のありかたを学び、新たな資源を創出することもイメージできるようになる。 第15章では全体的なまとめを展開する。						
6	【授業単元】 テキスト91ページ～104ページ 第7章「発達障害の理解と援助」  【到達目標】 発達障害の基本的な理解と、対応するときの視点を学びながら、ラベリングされることで特別な支援に 拒否的な当事者、保護者もいること、服薬治療による問題なども最近注目され始めて、栄養の偏りを	14	【授業単元】 過去問を解いていく。  【到達目標】 過去問を解くことで、将来の公認心理師国家試験のイメージをもつ。						
7	【授業単元】 テキスト105ページ～115ページ 第8章「不登校の理解と援助」  【到達目標】 不登校の状況を理解して、その支援のありかたについて幅広い視点が持てるように学んでいく。	15	【授業単元】 定期試験 国家試験の過去問を参考にして出題します。国家試験問題をイメージしながら学びをまとめていきましょう。  【到達目標】 国家試験問題をイメージしながら学びをまとめていきましょう。						
8	【授業単元】 テキスト116ページ～129ページ 第9章「いじめの理解と援助」  【到達目標】 いじめの基本的な理解といじめの実態についての学びを深めて、いじめ防止対策推進法を概観して、学校現場でいじめ予防教育、いじめの事後の対応などについて実践力を身につける。		【成績評価の方法と基準】 学則に準ずる 各回の小テスト、中テスト 40点 定期テスト 60点						
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>					講師や学生同士の経験からのエピソードには守秘義務のあることを理解する。 他の分野の学びも含めて、各自で高度な学びを継続していくこと。 指定テキストに沿って展開し、また学校の臨床をイメージして展開する。				

## 授業概要

科目名	司法・犯罪心理学	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	阿相周一		
学科コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
司法・犯罪心理学を概観し、基礎的・包括的な知識、理解を目指す。具体的には、以下の通りである。 罪と罰、司法制度、再犯防止活動を理解し、説明することができることを到達目標とする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
担当教員は、臨床心理士・公認心理師として医療(特に盗撮や痴漢、窃盗、違法薬物などの再犯防止プログラムの実施)や教育、SNS相談等の分野で臨床活動に携わっている。授業では、再犯防止プログラムの見取り入れ、将来的な臨床活動や日常生活に役立つような実践的な知識を提供する。また、ディスカッションやグループワークも取り入れ、担当教員と学生、学生同士というように双方向のコミュニケーションを重視し、学習内容の理解を深める。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
使用教科書: 公認心理師の基礎と実践 司法・犯罪心理学第2版 遠見書房 参考図書: 各授業で適宜紹介					本科目に関する図書は、使用教科書以外にも数多くあります。授業で紹介する参考図書を、ぜひ読み比べてみてください。				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	【授業単元】 科目オリエンテーション	9	【授業単元】 犯罪プロファイリング						
	【到達目標】 犯罪心理学を学ぶ意義を説明することができる		【到達目標】 犯罪プロファイリングを説明することができる						
2	【授業単元】 罪と罰、そして正義	10	【授業単元】 犯罪に関する法律と制度 桃太郎事件1						
	【到達目標】 罪と罰、正義を説明することができる		【到達目標】 犯罪に関する法律と制度を説明することができる						
3	【授業単元】 日本社会の犯罪動向	11	【授業単元】 犯罪に関する法律と制度 桃太郎事件2						
	【到達目標】 犯罪の動向を説明することができる		【到達目標】 犯罪に関する法律と制度を説明することができる						
4	【授業単元】 なぜ人は、罪を犯すのか ~映画からみる犯罪心理~	12	【授業単元】 犯罪被害者への心理支援						
	【到達目標】 罪を犯すメカニズムを説明することができる		【到達目標】 犯罪被害者への心理支援を説明することができる						
5	【授業単元】 なぜ人は、罪を犯すのか ~アニメからみる犯罪心理~	13	【授業単元】 犯罪加害者への再犯防止活動						
	【到達目標】 罪を犯すメカニズムを説明することができる		【到達目標】 犯罪加害者への再犯防止活動を説明することができる						
6	【授業単元】 サイコパスの正体を探る	14	【授業単元】 なぜ人は、罪を犯すのか ~そして真犯人は?~						
	【到達目標】 ダークトライアドを説明することができる		【到達目標】 これまで学習した知識をもとに、事例における犯人を推理し その犯行メカニズムを説明することができる						
7	【授業単元】 犯罪・非行の心理アセスメント	15	【授業単元】 これまでの授業の振り返り 定期テスト 定期テストの解答解説						
	【到達目標】 犯罪・非行の心理アセスメントを説明することができる		【到達目標】 第1回から第14回までの学習内容を取得できている						
8	【授業単元】 これまでの授業の振り返り 中テスト 中テストの解答解説		【成績評価の方法と基準】 科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。						
	【到達目標】 第1回から第7回までの学習内容を取得できている		【履修に当たっての心構え・留意点】 ・「なぜ」という疑問、好奇心、興味関心を大切にしてください						

## 授業概要

科目名	卒業研究Ⅰ	必修選択の別	必修	開講区分	通年(前期)	担当教員	丸山 亮光・宮路 雄大
学科コース	心理カウンセラーコース	学年	3年	授業の方法	講義・演習	単位数	4 単位 総時間数 120 時間
【授業を通じての到達目標】							
公認心理師及び精神保健福祉士における研究の実践として、以下の内容への理解と取り組みができるこことを目標とする。							
①心理学における実証的研究法(量的研究及び質的研究)の計画並びに実施ができる。②データを収集して実証的に結果を集積し、発表できる。							
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)							
臨床心理士及び公認心理師・精神保健福祉士である複数の教員が、研究の達成に向けて、研究テーマ策定、調査や実践、分析手順、資料の作成、執筆手法などの教授を踏まえ、受講者が各自で研究を進める。また、それぞれの研究や発表などについて助言を行い、個々に応じた研究が進むように授業を展開していく。							
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】			
●Excelで今すぐはじめる心理統計 簡単ツールHADで基本を身につける(小宮あすか他)、(参考)改訂新版:心理学論文の書き方(松井豊) ※教科書よりもスライドなどが中心となる。必要に応じて資料は配付予定。				本授業は自発的な「研究」が主軸となるため、授業時間外に取り組むべきことが非常に多い。研究完成に向けた各々の作業が中心となるため、技術習得が必要な授業課題や調査に向けた達成ができるように率先して進めていくこと。			
コマ	授業計画	コマ	授業計画				
1	【授業単元】 オリエンテーションと研究スケジュール  【到達目標】 本研究の進行形式を理解し、研究の手順を説明できる。	9	【授業単元】 研究立案(1)研究計画書(企画書)の作成  【到達目標】 模擬研究で挙げられた課題を振り返り、自身の研究に必要となる研究計画書(企画書)とレジュメの草案を想定し、作成することができる。				
2	【授業単元】 研究導入(1)資料の収集・整理と文献読み取り  【到達目標】 研究テーマ策定で必要になる資料の収集とその読み取りについて実践できる。	10	【授業単元】 研究立案(2)実践可能性に基づく研究テーマ策定  【到達目標】 実際に使う卒業研究に向けて研究スケジュールを策定し、それに向けた手順を整えることができる。また、研究テーマで必要となる各種資料をそろえることができる。				
3	【授業単元】 研究導入(2)研究テーマと研究進行で用いる資料について  【到達目標】 ・研究で設定すべき「目的(仮説など)」と研究発表で必要となる「レジュメ」の構成を理解し、説明及び作成できる。 ・自身の研究形態に向けて必要な資料を想定し、説明することができる。	11	【授業単元】 研究立案(3)要因計画と使用尺度の選択  【到達目標】 ・自身の研究における目的(仮説)の説明に必要な研究手法を立案することができる。 ・必要なプログラムや質問紙の作成手順について実践できる。				
4	【授業単元】 研究導入(3)プレゼンテーションとレビュー、討論について  【到達目標】 研究におけるプレゼンテーションとディスカッションの意義について理解し、実践できる。	12	【授業単元】 研究立案(4)研究対象者選定と倫理条項を踏まえた倫理関連書類の作成について  【到達目標】 ・研究実施に必要な倫理面での重要事項について説明することができる。 ・実施の際、留意すべき倫理申請書、承諾書などの作成を実施できる。				
5	【授業単元】 模擬研究(1)仮説立てとディスカッション  【到達目標】 模擬研究として研究テーマの策定を個人やグループなどで実施し、ディスカッションを行うことができる。	13	【授業単元】 研究立案(5)レジュメに基づくプレゼンテーション  【到達目標】 目的(仮説)に則った研究デザインを元に、プレゼンテーションで研究概要を表現することができる。				
6	【授業単元】 模擬研究(2)研究史の提示と展望  【到達目標】 レジュメで主にまとめることになる「問題」と「目的」の基盤となる研究史のまとめ方と展望について理解し、実践できる。	14	【授業単元】 研究立案(6)質疑応答と校正作業  【到達目標】 発表に向けた研究への作業を進め、質疑応答に備えることができる。 また、調査や実践に向けた本番向けの資料作成を並行して実施することができる。				
7	【授業単元】 模擬研究(3)プレゼンテーションと発表資料  【到達目標】 研究発表で必要になるスライドやプレゼンテーションにおけるポイントについて理解し、説明できる。	15	【授業単元】 期末発表 振り返り  【到達目標】 これまでに策定した卒業研究について、その概要を一定の基準に沿って発表することができる。				
8	【授業単元】 中間向け最終作業と中間発表  【到達目標】 模擬調査研究でまとめた調査研究草案について発表し、質疑応答をすることができる。		【成績評価の方法と基準】 科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。  小テストの代わりに課題を提示する。これらは各回5点満点とし、中テスト課題(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り捨て)を小テスト・中テストの課題合計点とする。  本授業は卒業研究であるため、研究が達成されない場合は単位取得が不可となりかねない。再試験においても提示された条件まで達成できた研究が前提となるため、確実に期限内で研究が終了できるよう、計画的に進めること。				
	【履修に当たっての心構え・留意点】 ・「目的達成に向けた主体性、計画性、協調性」が本授業の要となる。 ・分からぬ部分は積極的に自分で調べることや質問をすることを推奨する。 ・心理学研究法、心理学統計法が前提であり、PC操作の習熟が必要である。						

## 授業概要

科目名	卒業研究Ⅰ	必修選択の別	必修	開講区分	通年(後期)	担当教員	丸山 亮光・宮路 雄大		
学科コース	心理カウンセラー科	学年	3年	授業の方法	演習	単位数	4 単位	総時間数	120 時間

### 【授業を通じての到達目標】

公認心理師及び精神保健福祉士における研究の実践として、以下の内容への理解と取り組みができるることを目標とする。

- ①心理学における実証的研究法(量的研究及び質的研究)の計画並びに実施ができる。②データを収集して実証的に結果を集積し、発表できる。

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

臨床心理士及び公認心理師、精神保健福祉士である複数の教員が、研究の達成に向けて、研究テーマ策定・調査や実践・分析手順・資料の作成・執筆手法などの教授を踏まえ、受講者が各自で研究を進める。また、それぞれの研究や発表などについて助言を行い、個々に応じた研究が進むように授業を展開して

「施田教科書・教材・参考図書」

【使用教科書・教材・参考書】

- Excelで今すぐはじめる心理統計 簡単ツールHADで基本を身につける(小宮あすか他)、【参考】改訂新版: 心理学論文の書き方(松井豊)  
※教科書よりもスライドなどが中心となる。必要に応じて資料は配付予定。

### 【授業時間外における学習】

後期は時間が無いため、授業時間外に取り組む作業を各自確実に進めていく必要がある。研究完成に必要な技術習得を念頭に、必要な課題や調査などの達成ができるように時間を意識して進めていくこと。

コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	<p>【授業単元】 研究実践(1)研究スケジュールとデータ収集のポイント</p> <p>【到達目標】 ・調査や分析が達成できるようスケジュールの修正を行うことができる。 ・現時点の進捗を踏まえて必要な作業を整理することができる。</p>	9	<p>【授業単元】 結果読解と要点振り返り</p> <p>【到達目標】 ・中間課題を通じて、自身の発表までに必要な準備について整理することができる。 ・結果の読み取りを文としてまとめることができる。</p>
2	<p>【授業単元】 研究実践(2)分析用データ入力シートと実施後に伴う方法の修正</p> <p>【到達目標】 ・収集したデータを分析用シートにまとめる(コーディングなど)ことができる。 ・実際の展開に応じた方法の修正について説明し、実践できる。</p>	10	<p>【授業単元】 資料構成(1)レジュメのレイアウトについて</p> <p>【到達目標】 それぞれの結果を載せるレジュメのレイアウト構成や図表の配置について実践できる。</p>
3	<p>【授業単元】 分析方法(1)データの得点化と基本統計量、研究調整</p> <p>【到達目標】 収集データを結果で記載する場合に必要な得点化と基本統計量の算出、及び基本統計量表の作成ができる。研究の進捗について見通しをつけて報告ができる。</p>	11	<p>【授業単元】 資料構成(2)考察の構成について</p> <p>【到達目標】 研究結果をまとめる上で必要な考察の構成と、その中に含むべき内容についてまとめて、執筆することができる。</p>
4	<p>【授業単元】 分析方法(2)データの読み取りについて(因子分析表など)</p> <p>【到達目標】 収集データに必要な分析(因子分析など)を選び、結果を読み取ることができる。</p>	12	<p>【授業単元】 資料構成(3)全体構成と質疑応答のポイント</p> <p>【到達目標】 質疑応答で必要な観点や不備がないように、どのような面を確認するべきかに気づいて、修正することができる。</p>
5	<p>【授業単元】 分析方法(3)データの読み取りについて(相関分析表など)</p> <p>【到達目標】 収集データに必要な分析(相関分析など)を選び、結果を読み取ることができる。</p>	13	<p>【授業単元】 最終校正とリハーサル</p> <p>【到達目標】 期末発表に向けた資料の最終校正とプレゼンテーションのリハーサルを通じて備えることができる。</p>
6	<p>【授業単元】 分析方法(4)データの読み取りについて(t検定など)</p> <p>【到達目標】 収集データに必要な分析(t検定など)を選び、結果を読み取ることができる。</p>	14	<p>【授業単元】 期末研究発表(1)前半組と質疑応答</p> <p>【到達目標】 聴衆に向けて実践してきた研究内容を発表し、質疑応答を行うことができる。</p>
7	<p>【授業単元】 分析方法(5)分析結果の記述方法について</p> <p>【到達目標】 結果の記載する上でのポイントについて実践することができる。</p>	15	<p>【授業単元】 期末研究発表(2)後半組と質疑応答</p> <p>【到達目標】 聴衆に向けて実践してきた研究内容を発表し、質疑応答を行うことができる。</p>
8	<p>【授業単元】 結果まとめと中間報告</p> <p>【到達目標】 現時点での研究進捗状況を報告することができる。</p>	<p>【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。</p> <p>小テストの代わりに毎回の課題を提示する。これらは各回5点満点とし、中テスト課題(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り捨て)を小テスト・中テストの課題合計点とする。</p> <p>本授業は卒業研究であるため、研究が達成されない場合は進行不可となりかねない。再試験などにおいても研究発表が前提となるため、確実に期限内で研究が終了できるよう、計画的に進めること。</p>	
<p>【履修に当たっての心構え・留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「目的達成に向けた主体性、計画性、協調性」が本授業の要となる。</li> <li>分からぬ部分は積極的に自分で調べることや質問をすることを推奨する。</li> <li>心理学研究法、心理学統計法が前提であり、PC操作の習熟が必要である。</li> </ul>			

## 授業概要

科目名	ソーシャルワーク特別演習Ⅱ	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	西園寺 弘久	宮路 雄大
学科コース	心理カウンセラーコース	学年	3年	授業の方法	演習	単位数	1 単位	総時間数 30 時間

【授業を通じての到達目標】

- ①ソーシャルワーク実習、心理実習への身構え心構えについて学び、各実習に繋げる
- ②ソーシャルワーカー、公認心理師に求められる視点や姿勢を養う
- ③一人ひとりがクラスの一員であること意識した行動がとれるようになる

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

担当教員は、精神科医療機関で精神保健福祉士としての勤務経験がある。本授業は、安心したクラスで、学習が取り組めるよう指導する。  
心理実習に向けての気構え心構えについて、一人一人が考え方意識し行動に移せるよう指導する

【使用教科書・教材・参考図書】

【授業時間外における学習】

ニュースや社会の動向に目を向ける

コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	<p>【授業単元】 ①オリエンテーション ②クラスのルール理解</p> <p>【到達目標】 本授業の内容、進め方を理解することができる。 在学生オリエンテーションの振り返り。クラスのルールを理解できる</p>	9	<p>【授業単元】 ①実習の気構え心構えについて ②実習における記録</p> <p>【到達目標】 実習における態度や姿勢について学ぶ。 実習での記録について、状況と考察を分けてかけるようになる</p>
2	<p>【授業単元】 ①今年一年の目標</p> <p>【到達目標】 今年一年の目標を各自、ワークシートを用いて設定する。自身の目標を明確にし、クラスメイトと共に 自分の言葉で決意表明できる</p>	10	<p>【授業単元】 ①ソーシャルワーク実習、心理実習についての理解</p> <p>【到達目標】 各実習の概要を理解し、実習への意識を高める</p>
3	<p>【授業単元】 ①自分自身を知る ②自身に合う勉強方法を知る</p> <p>【到達目標】 mbt用いて自分の強みを知る。新し一面に気が付くことができる。自分に合う勉強方法は何か知る 自身の強みを周囲に発信できる</p>	11	<p>【授業単元】 心理実習について</p> <p>【到達目標】 心理実習についての準備を行い、実習前教育へつなげる</p>
4	<p>【授業単元】 ①精神保健福祉士国家試験について</p> <p>【到達目標】 精神保健福祉士国家試験の出題について、内容や合格基準などを理解できる</p>	12	<p>【授業単元】 心理実習について</p> <p>【到達目標】 心理実習についての準備を行い、実習前教育へつなげる</p>
5	<p>【授業単元】 ①精神保健福祉士国家試験対策</p> <p>【到達目標】 国家試験の問題にグループになり挑戦する。出題方法に慣れる。不正解になった問題は、なぜ間違ったのか調べ、訂正する。</p>	13	<p>【授業単元】 心理実習について</p> <p>【到達目標】 心理実習についての準備を行い、実習前教育へつなげる</p>
6	<p>【授業単元】 ①精神保健福祉士国家試験対策</p> <p>【到達目標】 国家試験の問題にグループになり挑戦する。出題方法に慣れる。不正解になった問題は、なぜ間違ったのか調べ、訂正する。</p>	14	<p>【授業単元】 心理実習について</p> <p>【到達目標】 心理実習についての準備を行い、実習前教育へつなげる</p>
7	<p>【授業単元】 ①精神保健福祉士国家試験 模擬問題</p> <p>【到達目標】 第5~6回目の授業を通して得た知識について、定着の度合いを確認する</p>	15	<p>【授業単元】 期末テスト 振り返り</p> <p>【到達目標】 レポート形式のテストを実施。自身の考察、意見を論じることができる</p>
8	<p>【授業単元】 中テスト</p> <p>【到達目標】 7回目に実施した模擬問題の振り返りシートを作成する</p>	<p>【成績評価の方法と基準】</p> <p>科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。</p>	
<p>【履修に当たっての心構え・留意点】</p> <p>グループワークを活用します。クラスメイトの意見を尊重する姿勢が重要です。</p>			

## 授業概要

## 授業概要

科目名	社会学と社会システム	必修選択の別	必修	開講区分	後期	担当教員	内藤 博幸		
学科コース	心理カウンセラーコース	学年	3年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間

### 【授業を通じての到達目標】

現実の社会が抱える問題を分析することによって、社会のシステム（制度・構造など）を理解する。詳細な到達目標は、社会変動と労働力の関係を説明できる。人口構造について我が国の特徴を理解する。都市化や過疎化など地域のあり方を概説できる。社会集団と組織を理解する。家族のあり方と機能について説明できる。生活様式とライフスタイルの変遷について考察する。人と社会との関係（役割、行為、ジレンマ）を理解する。さらに、具体的な社会問題（差別、貧困、社会的排除、ハラスメント、児童虐待、いじめなど）について解決策を提案することができるようになることである。

### 【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

10年以上の社会学そして社会保障制度に関する講義経験を持つ教員が、福祉的視野から社会というもののあり方、仕組（社会システム）自体を理解するための授業を行う。

### 【使用教科書・教材・参考図書】

「最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座  
3 社会学と社会システム」中央法規

コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	<p>【授業単元】 第1章 社会学の視点容 P2~6 第2章 第5節 社会変動(社会学の誕生) P77~79</p> <p>【到達目標】 ・社会学がなぜ必要なのかを理解する ・コント・マルクスの歴史観を解説できる ・社会学がなぜ学問として成立したのかを社会変動の視点で解説できる</p>	9	<p>【授業単元】 第5章 自己と他者</p> <p>【到達目標】 ・役割の意味を説明できる ・ミードの役割取得について解説できる ・ゴッフマンの印象操作を解説できる</p>
2	<p>【授業単元】 第4章 第1節 家族とジェンダー P154~169</p> <p>【到達目標】 ・家族の定義を言える ・我が国の家族のあり方の変容を解説できる ・家族の機能をオグバーンの理論を用いて説明できる ・家族機能とジェンダーについて考察することができる</p>	10	<p>【授業単元】 第2章 第2節 組織と集団 P49~59</p> <p>【到達目標】 ・ゲゼルシャфтとゲマインシャフトを説明出来る ・第一次集団と第二次集団を説明出来る ・コミュニティとアソシエーションの違いが言える ・準拠集団の説明ができる</p>
3	<p>【授業単元】 第2章 第6節 地域 P88~102</p> <p>【到達目標】 ・地域社会の過疎問題を説明できる ・ワースのアーバニズム論を語ることができる ・クラーセンの都市の発展段階論を解説できる ・日本の都市社会学に関する学説を語ることができる</p>	11	<p>【授業単元】 第2章 第7節 環境 P104~110 第3章 第4節 災害と復興 P146~152</p> <p>【到達目標】 ・ベックのリスク社会を解説できる ・地球環境問題を解説できる ・社会的ジレンマに関する理論を説明できる ・SDGsを説明できる</p>
4	<p>【授業単元】 第3章 市民社会と公共性 第1節 社会的格差 P112~122</p> <p>【到達目標】 ・我が国「格差」の現状を解説できる ・相対的貧困の定義ができる ・ブルデューの分化資本を解説できる ・ジニ係数等で格差の現状を解説できる</p>	12	<p>【授業単元】 第2章 第4節 グローバリゼーション P65~76</p> <p>【到達目標】 ・グローバリゼーションの影響を考察できる ・ウォーラス汀の世界システム論を解説できる ・在日外国人労働者の現状を語ることができる ・グローバル化の経済への影響を説明できる</p>
5	<p>【授業単元】 第3章 第2節 社会政策と社会問題 P123~145</p> <p>【到達目標】 ・マートンやベッカーの社会問題への考察視点を説明できる ・社会問題に対する社会政策の意味を説明できる ・労働運動と福祉国家成立の関連を解説できる ・福祉国家成立の歴史的意味を解説できる</p>	13	<p>【授業単元】 第2章 社会構造と変動 第1節 社会システム P28~38 第5節 社会変動 P77~87</p> <p>【到達目標】 ・コント・スペンサー・マルクスの社会変動を解説できる ・産業化を解説できる ・近代と前近代の説明ができる</p>
6	<p>【授業単元】 第3章 第3節 差別と偏見 P134~145 終章 社会関係資本と社会的連帯 P230~236</p> <p>【到達目標】 ・サムナーの内集団と外集団を解説できる ・リースマンの『孤独な群衆』の内容を説明できる ・アドルノの権威主義的パーソナリティを解説できる ・ラベリング理論についての解説ができる</p>	14	<p>【授業単元】 第1章 第2節 社会学の歴史 P13~27</p> <p>【到達目標】 ・社会学の歴史を説明できる ・脱工業化社会(第二の近代)とは何か、説明できる ・第三の情報革命(ブロックチェーン)を解説できる</p>
7	<p>【授業単元】 第4章 生活と人生 P183~206</p> <p>【到達目標】 ・ペティ＝クラークの法則を説明できる ・かつての日本型雇用の特徴をあげられる ・女性労働の課題をあげられる ・ワークライフバランスの背景を説明できる</p>	15	<p>【授業単元】 全ての講義の総復習として振り返り授業定期試験 60点</p> <p>【到達目標】 定期試験での6割以上の正答率を目指す</p>
8	<p>【授業単元】 第2章 第3節 人口 P51~63 中テスト15点満点</p> <p>【到達目標】 ・リースマンの人口理論を説明できる ・我が国の少子化に關の原因と政府の対策を解説できる ・高齢化的現状とその問題点を指摘できる ・少子高齢化が社会経済に及ぼす影響を指摘することができる</p>		<p>【成績評価の方法と基準】</p> <p>科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。</p>
	<p>【履修に当たっての心構え・留意点】</p> <p>配布プリントに解答を書き込むだけでなく、気が付いたことや理解に役立つことと思ったら、どんどんメモを取っていくことです。</p>		

## 授業概要

科目名	社会福祉調査の基礎	必修選択の別	必修	開講区分	後期	担当教員	福田真清		
学科コース	心理カウンセラーコース	学年	3年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉調査の意義と目的、方法の概要を理解する。</li> <li>・統計法の概要、社会福祉調査における倫理や個人情報保護について理解する。</li> <li>・量的調査と質的調査の方法、ITを活用した社会福祉調査の方法を理解する。</li> </ul>									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
障害当事者やその家族を対象にした調査研究や福祉サービス事業所における管理者等で培った知識と経験を活用し、国家試験はもとより、実践現場でも応用可能な知識が習得できるよう、体系的なスマールステップで進めていく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編(2021)『社会福祉調査の基礎』中央法規					テキストと授業で配布するレジュメの復習を勧める。本科目の受講にあたっては各授業に1時間の自宅学習(予習・復習等)を必要とする。				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	【授業単元】 オリエンテーション、社会福祉調査の種類  【到達目標】 ・社会福祉調査の種類 が説明できる。	9	【授業単元】 質的調査方法論の主なアプローチ  【到達目標】 ・対象者の選定・質的調査の方法 が説明できる。						
2	【授業単元】 社会福祉調査の展開、統計法  【到達目標】 ・ソーシャルワーカーが社会福祉調査に取り組む意義 ・統計法の5つのポイント が説明できる。	10	【授業単元】 質的データの整理と分析  【到達目標】 ・データ分析のための基礎的作業の手順 ・データの分析方法の特徴 が説明できる。						
3	【授業単元】 社会福祉調査の倫理と個人情報保護  【到達目標】 ・社会福祉調査における倫理的配慮 ・OECD8原則と個人情報保護法のポイント が説明できる。	11	【授業単元】 プログラム評価、実践評価  【到達目標】 ・プログラム評価の種類 ・シングル・システム・デザインに基づく評価方法 が説明できる。						
4	【授業単元】 社会福祉調査のデザイン  【到達目標】 ・「演绎的」「帰納的」の違い ・量的調査の種類 が説明できる。	12	【授業単元】 振り返り①(社会福祉調査の基礎的知識)  【到達目標】 ・社会福祉調査に関する基礎的知識の定着を図る。						
5	【授業単元】 対象者の選定、測定  【到達目標】 ・対象者の選定 ・尺度4種類の特徴 が説明できる。	13	【授業単元】 振り返り②(量的調査)  【到達目標】 量的調査に関する基礎的知識の定着を図る。						
6	【授業単元】 データの収集方法  【到達目標】 ・質問紙の配布と回収の方法 ・質問紙を作成するときの留意点 が説明できる。	14	【授業単元】 振り返り③(質的調査)  【到達目標】 質的調査、ソーシャルワークにおける評価に関する基礎的知識の定着を図る。						
7	【授業単元】 量的データの整理と分析  【到達目標】 ・データ分析のための基礎的作業の手順 ・データの視覚化・基本的な検定方法の種類と特徴 が説明できる。	15	【授業単元】 社会福祉調査の展望、試験  【到達目標】 ・新しい調査手法 が説明できる。						
8	【授業単元】 質的調査の意義と目的  【到達目標】 ・質的調査の特徴と量的調査との違い が説明できる。		【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし中テストは15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。						
【履修に当たっての心構え・留意点】					それぞれの授業は連関し合っているため、わからない部分はそのままにせず、次回の授業までに必ず消化しておくこと。				

## 授業概要

科目名	地域福祉と包括的支援体制	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	吉成孝夫		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間

### 【授業を通じての到達目標】

- ①地域福祉の基本的考え方、展開、動向について理解する。
  - ②地域福祉を推進するための、福祉行政財政の実施体制と果たす役割について理解する。
  - ③地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的および展開について理解する。

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

現代社会と福祉、老人福祉論、社会理論と社会システム、福祉行財政と福祉計画等についての教員経験、ホームレス支援とうの社会福祉領域での経験を活かし、理論的枠組みを強固にしたうえで、住民主体の原則及び地方自治の本旨にのっとり、現実に生起する地域の課題を教材として学習を進める。

【使用教科書・教材・参考図書】

『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 6 地域福祉と包括

### 【授業時間外における学習】

シラバスに基づいて予習が望ましいが、小テスト等を中心に復習は絶対に必要。

コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	<p>【授業単元】 オリエンテーション「地域福祉と包括支援体制」で何をどう学ぶか</p> <p>【到達目標】            ①地域福祉と包括支援体制という科目的学習の内容と学習の意義を理解する。            ②日本国憲法の根本原理からの位置づけを理解する。(憲法25条と地域福祉)            ③地方自治及び及び「住民主体」原則からの位置づけの意義を理解する。</p>	9	<p>【授業単元】 都道府県と市町村の役割</p> <p>【到達目標】            ①地方公共団体とは何か理解する。            ②福祉行政における都道府県の役割を理解する。            ③福祉行政における市町村の役割を理解する。</p>
2	<p>【授業単元】 地域福祉の概念と理論</p> <p>【到達目標】            ①地域福祉の概念と理論の意義を理解する            ②地域福祉が注目されるようになった経済的・社会的・政治的背景を理解する            ③日本の主な地域福祉論の概要を理解する。</p>	10	<p>【授業単元】 福祉行政の組織及び専門職の役割</p> <p>【到達目標】            ①社会福祉の実施体制を理解する。            ②社会福祉における専門機関の役割を理解する。            ③社会福祉の専門職の役割を理解する。</p>
3	<p>地域福祉の歴史(欧米)</p> <p>【到達目標】            ①イギリス新教貧賤法の下での貧困者救済の実態を理解する。            ②イギリスにおける地域福祉の潮流＝セツルメント、COSの活動などについて理解する。            ③第二次世界大戦後におけるイギリスのコミュニティケアの変遷を理解する。</p>	11	<p>【授業単元】 福祉の財源</p> <p>【到達目標】            ①国の財源構成を理解する。            ②地方の財源について理解する            ③民間の主な財源について理解する。</p>
4	<p>【授業単元】 地域福祉の歴史(日本)</p> <p>【到達目標】            ①戦前の慈善事業家活動について理解する。            ②戦前における方面委員制度や大学セツルメント等について理解する            ③戦後の地域福祉政策の基本的流れを理解する。</p>	12	<p>【授業単元】 福祉計画の定義・目的・機能・歴史的展開</p> <p>【到達目標】            ①福祉計画の定義・目的・機能について理解する。            ②日本における福祉計画の歴史的展開を理解する。            ③福祉計画の種類と類型について理解する。</p>
5	<p>【授業単元】 ⑥地域福祉の推進主体①</p> <p>【到達目標】            ①自治体の意義と役割を理解する            ②社会福祉協議会の役割と意義を理解する。            ③民生委員・児童委員の役割と意義を理解する</p>	13	<p>【授業単元】 市町村地域福祉計画と都道府県地域福祉支援計画</p> <p>【到達目標】            ①社会福祉法における地域福祉計画の位置づけを理解する。            ②市町村地域福祉計画の内容を理解する。            ③都道府県地域福祉支援計画の内容を理解する</p>
6	<p>【授業単元】 地域福祉の推進主体②</p> <p>【到達目標】            ①保護司の役割を理解する            ②町内会の法的位置づけと現状を理解する。            ③NPO、社会的企業の意義と役割を理解する</p>	14	<p>【授業単元】 福祉計画</p> <p>【到達目標】            ①ニーズ把握の方法・技術を理解する。            ②福祉計画の策定過程と方法を理解する。            ③福祉計画における評価の方法・技術・留意点を理解する。</p>
7	<p>【授業単元】 住民の主体形成と福祉教育</p> <p>【到達目標】            ①地域における住民の主体形成の意義を理解する。            ②住民の主体形成の方法・道筋について理解する。            ③地域福祉の推進と福祉教育の意義について理解する。</p>	15	<p>【授業単元】 定期試験(振り返り)</p> <p>【到達目標】            ①定期試験を通じてこれまでの重要なポイントを再確認する。            ②定期試験の結果を受け学習の到達点を知り、今後の学習につなげる。</p>
	<p>【授業単元】 国の役割・国と地方の関係</p> <p>【到達目標】            ①国の福祉行政体制とその役割について理解する。            ②地方分権一括法について理解する。            ③法定受託事務と自治事務について理解する。</p>		<p>【成績評価の方法と基準】</p> <p>科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。            また、試験は筆記試験で行う。            毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。</p>
	<p>【履修に当たっての心構え・留意点】</p> <p>基本概念を確実に理解すること。時系列でかつ社会全体の中で位置づけること。            現実の動向に关心を寄せること。</p>		

## 授業概要

科目名	地域福祉と包括的支援体制	必修選択の別	必修	開講区分	通年(後期)	担当教員	吉成孝夫		
学科コース	心理カウンセラーコース	学年	3年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
①地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念と意義を理解する。 ②包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際にについて理解する。 ③地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 現代社会と福祉、老人福祉論、社会理論と社会システム、福祉行政財政と福祉計画等についての教員経験、ホームレス支援などの社会福祉領域での経験を活かし、理論的枠組みを強固にしたうえで、住民主体の原則及び地方自治の本旨にのっとり、現実に生じる地域の課題を教材として学習を進める。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座6 『地域福祉と包括的支援体制』中央法規出版。					シラバスに基づいて予習が望ましいが、小テスト等を中心に復習は絶対に必要。				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
	【授業単元】 地域社会の概念と理論		【授業単元】 地域を基盤としたソーシャルワークの展開						
1	【到達目標】 ①地域社会の概念とは何かを理解する。 ②地域社会の理論について社会学の達成を理解する。	9	【到達目標】 ①地域を基盤としたソーシャルワークの概念を理解する ②地域を基盤としたソーシャルワークが求められてきた背景を理解する ③住民の主体形成の方法を具体的な事例で理解する						
2	【授業単元】 地域社会の変化	10	【授業単元】 多職種連携						
3	【授業目標】 ①世帯規模の縮小による家族機能の低下等を理解する。 ②過疎地域の現状と問題点を理解する。 ③見えない貧困問題と地域社会の関連を理解する。 ④外国人住民の増加と地域福祉の関連を理解する。	11	【授業単元】 多様化・複雑化した地域生活課題の現状とニーズ	【到達目標】 ①保健・医療・福祉にかかる多職種連携について理解する。 ②生活支援全般に關わるネットワークについて理解する。 ③多職種連携等における個人情報保護の重要性と方法を理解する。					
4	【授業単元】 地域包括ケアシステム	12	【授業単元】 福祉以外の分野との協力	【到達目標】 ①社会的企業について理解する。 ②農福連携について理解する。 ③観光、商工労働との連携を理解する ④地方創成について理解する					
5	【授業目標】 ①生活困窮者自立支援の考え方 ②制度の概要を理解する。 ③自立支援相談機関の役割と支援過程を理解する。	13	【授業単元】 非常時や災害時における法制度	【到達目標】 ①災害対策基本法を理解する。 ②災害救助法について理解する ③各自治体等の避難計画の現状について理解する					
6	【授業単元】 地域共生社会と実現に向けた施策	14	【授業単元】 地域福祉ガバナンス	【到達目標】 ①ガバナンスの考え方を理解する。 ②多様化・複雑化した課題と多機関協働の必要性について再確認する。 ③住民の参加と協働について理解する					
7	【授業目標】 ①ガバナンスの考え方を理解する。 ②多様化・複雑化した課題と多機関協働の必要性を理解する ③社会における包括的・重層的支援体制づくりを理解する。 ④住民の参加と共同、住民自治の重要性を理解する	15	【授業単元】 定期試験(振り返り)	【到達目標】 定期試験を通じこれまでの学習の到達点を知り、知識を統合し重要な事項について理解を深める					
8	【授業目標】 ①総合相談・各種相談機関の連携を理解する。 ②地域ケア会議、地域包括支援センター運営協議会の活動について理解する。 ③児童分野、障害者分野の協議会について理解する		【成績評価の方法と基準】 科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。						
【履修に当たっての心構え・留意点】					全ての科目について言えるが、基本概念を確実に理解すること。時系列でかつ社会全体の中で位置づけること。現実の動向に关心を寄せること。				

## 授業概要

科目名	社会保障	必修選択の別	必修選択	開講区分	前期	担当教員	伊藤亮太		
学科コース	心理カウンセラーコース	学年	3年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
社会保障・福祉問題を正しく理解し、臨床において活躍できる人材養成を行う。また、社会福祉士国家取得対策としてその知識をまかんう。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)					【授業時間外における学習】				
大学院において、社会保障制度の研究を行い、その後年金・医療・介護・資金計画等で個人のライフプランニング設計等に携わっている。研究だけではなく、実務双方からの授業を行い、資格試験対策だけではなく、その後の実務でも生かせるよう工夫していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新・社会福祉士養成講座「社会保障」(中央法規)					授業終了後の復習を怠らないこと。社会保障に関するニュースなど日ごろから改正項目等には注目しておくこと。				
回	授業計画	回	授業計画						
1	【授業単元】 第1章現代社会と社会保障 第1節人口動態の変化、第2節経済環境の変化  【到達目標】 我が国における社会保障の定義を理解、説明することができる。人口動態および経済環境の変化、歴史的背景を学び、社会保障の変遷を理解する。	9	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系 第1節医療保険制度の概要②  【到達目標】 日本の医療保険制度の特徴を理解する。高額療養費制度など実際に活用できる仕組みを理解し、いざというときに活用できるようになる。						
2	【授業単元】 第1章の続き、第2章社会保障の概念や対象およびその理念 第1節社会保障の概念と範囲、第2節社会保障の役割と意義  【到達目標】 社会保険・公的扶助・社会手当の違いを理解し説明することができるようになる。 日本における社会保障制度構築の経緯と社会保障・社会福祉発展の流れを理解する。	10	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系 第2節介護保険制度の概要  【到達目標】 介護保険制度の概要と、実際適用できる施設など実務でも活かせる内容を理解し、説明することができる。 要介護度に応じて何が適用できるのか把握できる。						
3	【授業単元】 第2章の続き 第3節社会保障の理念、第4節社会保障の対象 第5節 社会保障制度の展開  【到達目標】 我が国の社会保障の流れを把握し、各年代においてどのような制度が策定されてきたか説明できるようになる。 社会保障の対象にはどのような制度があり、どのような役割を担っているか説明できるようになる。	11	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系、第3節年金制度の概要①  【到達目標】 年金制度の体系を理解する。老齢年金の受給要件を理解するほか、ご自身が今後加入するであろう年金制度にどんなものがあるのかわかるようになる。						
4	【授業単元】 第3章 第1節社会保障の財政、第2節社会保障給付費  【到達目標】 社会保障の財政状況の概要がつかめるようになる。 社会保障の財源を理解し、概要がつかめるようになる。	12	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系、第3節年金制度の概要②  【到達目標】 遺族年金および障害年金の概要を理解する。どういったケースの場合に遺族年金や障害年金を受け取ることができるのか、また誰が受け取れるのかを把握する。						
5	【授業単元】 第3章 続き 第3節国民負担率、第4節社会保障と経済 第4章 社会保険・社会扶助・民間保険の関係 第1節保険と扶助の考え方  【到達目標】 社会保障の統計について、数字で把握し、現状を説明できるようになる。 保険と扶助の考え方を理解し何が異なるのか説明できるようになる。	13	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系、第3節年金制度の概要③  【到達目標】 企業年金と個人年金の仕組みを理解する。公的年金の補完としてこれらの年金を活用できるようになる。						
6	【授業単元】 第4章の続き、第2節社会保険と社会扶助の考え方 第3節 社会保険と民間保険の現状  【到達目標】 社会保険と民間保険の違いを把握できるようになる。 具体的な民間保険の仕組みを学び、実際に加入時に活かせるようになる。	14	【授業単元】 ここまでまとめ  【到達目標】 問題演習により、ここまで内容を再確認していく。各項目における重要度の高い内容を再度理解する。						
7	【授業単元】 第4章の民間保険のまとめ  【到達目標】 様々な民間保険の仕組みを学び、社会保険の補完的な役割として活用できるようになる。 どういった場合にどんな保険に加入すべきか理解する。	15	【授業単元】 期末試験および期末試験の解答解説  【到達目標】 期末試験で合格点に到達する。解答解説を聞き、間違っていたところをなおすほか、その後の模試や本番の試験に活かすことができるようになる。						
8	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系 第1節医療保険制度の概要①  【到達目標】 健康保険制度の仕組みを理解し、ご自分がどの健康保険に加入しているのか、どういった場合に活用できそうなのか理解する。		【成績評価の方法と基準】 期末試験問題をもとに成績評価を行う。 問題は国家試験と同レベルとし、総合評点が 60~69点…D 70~79点…C 80~89点…B 90~100点…Aとする。 59点以下はFとし、出席不良はEとする。						
【履修に当たっての心構え・留意点】					日頃から社会保障に関心を持ち、新聞やニュース、雑誌などで改正点や最新情報を把握しておくこと。				

## 授業概要

科目名	社会保障	必修選択の別	必修選択	開講区分	後期	担当教員	伊藤亮太										
学科コース	心理カウンセラーコース	学年	3年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間								
<b>【授業を通じての到達目標】</b>																	
社会保障・福祉問題を正しく理解し、臨床において活躍できる人材養成を行う。また、社会福祉士国家取得対策としてその知識をまかなう。																	
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>																	
大学院において、社会保障制度の研究を行い、その後年金・医療・介護・資金計画等で個人のライフプランニング設計等に携わっている。研究だけではなく、実務双方からの授業を行い、資格試験対策だけではなく、その後の実務でも生かせるよう工夫していく。																	
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>												
最新・社会福祉士養成講座「社会保障」(中央法規)					授業終了後の復習を怠らないこと。社会保障に関するニュースなど日ごろから改正項目等には注目しておくこと。												
回	授業計画				回	授業計画											
16	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系、第3節年金制度の概要④  【到達目標】 年金制度のおさらいと、レジュメによる具体的な年金額の計算、事例を確認する。年金額がご自身で計算できるようになる。				24	【授業単元】 第6章諸外国における社会保障制度 第1節諸外国の社会保障  【到達目標】 諸外国と日本を比較して、社会保障制度の違いを理解、説明できるようになる。各国の年金、医療、介護がどのような仕組みなのか説明できるようになる。											
17	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系、第3節年金制度の概要⑤  【到達目標】 国民年金制度と厚生年金制度のおさらいと、レジュメによる具体的な年金額の計算、事例を確認する。年金額がご自身で計算できるようになる。				25	【授業単元】 第6章続き 第2節社会保障の国際比較、第3節社会保障の国際化、過去問題演習  【到達目標】 社会保障の国際化について各国との連携を説明できるようになる。過去問題をもとに、社会保障の仕組みを復習する。											
18	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系、第3節年金制度の概要⑥  【到達目標】 企業年金および個人年金のおさらいと、レジュメによる具体的な年金額の計算、事例を確認する。年金額がご自身で計算できるようになる。				26	【授業単元】 過去問題解説(一問一答形式)  【到達目標】 一問一答形式により、過去問題を解き、何が間違っているのか把握する。単純に問題を解くだけではなく、その後の実務に活かせるように、○×問題を解説していく。											
19	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系、第3節年金制度の概要⑦  【到達目標】 年金マスター問題をもとに、各自年金の計算や誰が受け取れるのかなど公的年金制度的一般的なQ&Aに応えられるようになる。				27	【授業単元】 過去問題解説(一問一答形式)  【到達目標】 一問一答形式により、過去問題を解き、何が間違っているのか把握する。単純に問題を解くだけではなく、その後の実務に活かせるように、○×問題を解説していく。											
20	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系、第4節労災保険制度と雇用保険制度の概要①  【到達目標】 労災保険の仕組みと実際の受給件数を確認し、労災状況を理解する。他の社会保険制度との違いを把握する。				28	【授業単元】 予想問題・過去問題による演習  【到達目標】 五肢択一式の問題をもとに、国家試験対策を行う。試験で解けるようになるのはもちろんのこと、その後の私生活、仕事においても活かせるような演習を行っていく。											
21	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系、第4節労災保険制度と雇用保険制度の概要②  【到達目標】 雇用保険制度の概要を学び、実際に利用できる制度にどのようなものがあるのか理解する。労働保険制度を取り巻く経済社会環境の変化について理解する。				29	【授業単元】 予想問題・過去問題による演習  【到達目標】 五肢択一式の問題をもとに、国家試験対策を行う。試験で解けるようになるのはもちろんのこと、その後の私生活、仕事においても活かせるような演習を行っていく。											
22	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系、第5節生活保護制度の概要、第6節社会手当制度の概要  【到達目標】 生活保護制度、社会手当制度の特徴および社会保障制度上の位置づけを理解する。				30	【授業単元】 期末試験および期末試験の解答解説  【到達目標】 期末試験で合格点に到達する。解答解説を聞き、間違っていたところをなおすほか、その後の模試や本番の試験に活かすことができるようになる。											
23	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系、第7節社会福祉制度の概要  【到達目標】 社会福祉制度の特徴および社会保障制度上の位置づけを理解する。  【履修に当たっての心構え・留意点】 日頃から社会保障に関心を持ち、新聞やニュース、雑誌などで改正点や最新情報を探してておくこと。				<p><b>【成績評価の方法と基準】</b></p> <p>期末試験問題をもとに成績評価を行う。 問題は国家試験と同レベルとし、総合評点が</p> <table border="0"> <tr><td>60~69点</td><td>…D</td></tr> <tr><td>70~79点</td><td>…C</td></tr> <tr><td>80~89点</td><td>…B</td></tr> <tr><td>90~100点</td><td>…Aとする。</td></tr> </table> <p>59点以下はFとし、出席不良はEとする。</p>					60~69点	…D	70~79点	…C	80~89点	…B	90~100点	…Aとする。
60~69点	…D																
70~79点	…C																
80~89点	…B																
90~100点	…Aとする。																

## 授業概要

科目名	心理学実験	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	福井 博一		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間

### 【授業を通じての到達目標】

- 次の2点を目標とする。  
①心理学実験が心理学研究ひいては臨床実践の基礎にあることについて理解し、説明することができる。  
②セキセキが心理学実験の方法と実際について理解し、説明することができる。

【学習内容】(ビ) 上のような実務経験、研究経験、教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する。

公認心理師・臨床心理士・精神保健福祉士の資格保有者である講師が、公認心理師として研究の基礎となり、ひいては、現場に通じる心理学実験に関する授業を行う。

【使用教科書・教材・参考図書】

教科書は特に指定しない。必要に応じて関連資料を配布する。また、適宜、参考文献を紹介する。

### 【授業時間外における学習】

配布資料をもとに授業の復習をしっかりと行うこと。参考文献を読んでさらに理解を深めること。

コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	<p>【授業単元】 ・オリエンテーション ・心理学実験の概要～その1～</p> <p>【到達目標】 ・心理学実験の授業の目的・予定・進め方について理解し、説明することができる。 ・心理学および公認心理師における心理学実験の位置づけについて理解し、説明することができる。 ・「ユラ…リヤー錯視」について理解し、説明することができる。</p>	9	<p>【授業単元】 ・心理学実験の実際～その1～</p> <p>【到達目標】 ・心理学実験を行い・レポートとしてまとめるための基本事項について理解し、説明することができる～その1～。 * 標準的レポートを授業中に作成して提出。</p>
2	<p>【授業単元】 ・心理学実験の概要～その2～</p> <p>【到達目標】 ・心理学研究における心理学実験の位置づけについて理解し、説明することができる。</p>	10	<p>【授業単元】 ・心理学実験の実際～その2～</p> <p>【到達目標】 ・心理学実験を行い・レポートとしてまとめるための基本事項について理解し、説明することができる～その2～。</p>
3	<p>【授業単元】 ・さまざまな心理学実験～その1～</p> <p>【到達目標】 ・動物を対象とした心理学実験について理解し、説明することができる。 ・「ラットのレバー押しの実験」について理解し、説明することができる。</p>	11	<p>【授業単元】 ・心理学実験の実際～その3～</p> <p>【到達目標】 ・心理学実験を行い・レポートとしてまとめるための基本事項について理解し、説明することができる～その3～。</p>
4	<p>【授業単元】 ・さまざまな心理学実験～その2～</p> <p>【到達目標】 ・学習に関する心理学実験について理解し、説明することができる。 ・「鏡映描写」について理解し、説明することができる。 * 標準的レポートを授業中に作成して提出。</p>	12	<p>【授業単元】 ・心理学実験の実際～その4～</p> <p>【到達目標】 ・心理学実験を行い・レポートとしてまとめるための基本事項について理解し、説明することができる～その4～。 * 標準的レポートを授業中に作成して提出。</p>
5	<p>【授業単元】 ・さまざまな心理学実験～その3～</p> <p>【到達目標】 ・感覚・知覚を対象とした心理学実験について理解し、説明することができる。 ・「触角の二点弁別」について理解し、説明することができる。 * 標準的レポートを授業中に作成して提出。</p>	13	<p>【授業単元】 ・心理学実験の実際～その5～</p> <p>【到達目標】 ・心理学実験を行い・レポートとしてまとめるための基本事項について理解し、説明することができる～その5～。 * 標準的レポートを授業中に作成して提出。</p>
6	<p>【授業単元】 ・さまざまな心理学実験～その4～</p> <p>【到達目標】 ・記憶を対象とした心理学実験について理解し、説明することができる。 ・「系列位置効果」について理解し、説明することができる。 * 標準的レポートを授業中に作成して提出。</p>	14	<p>【授業単元】 ・心理学実験の実際～その6～</p> <p>【到達目標】 ・心理学実験を行い・レポートとしてまとめるための基本事項について理解し、説明することができる～その6～。 * 標準的レポートを授業中に作成して提出。</p>
7	<p>【授業単元】 ・さまざまな心理学実験～その5～</p> <p>【到達目標】 ・感情を対象とした心理学実験について理解し、説明することができる。 ・「表情研究」について理解し、説明することができる。 * 標準的レポートを授業中に作成して提出。</p>	15	<p>【授業単元】 ・定期試験 振り返り</p> <p>【到達目標】 ・1～14回目の振り返りを行い、その内容を理解し、説明することができる。 ・定期試験を実施する。</p>
8	<p>【授業単元】 ・中テスト</p> <p>【到達目標】 ・1～7回目の振り返りを行い、その内容を理解し、説明することができる。</p>		<p>【成績評価の方法と基準】 ・定期試験60%、毎回授業の小テスト40%の配分で総合し、A～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1／2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。</p>
	【履修に当たっての心構え・留意点】 ひとつひとつの実験を研究にそして現場に、どのように活かすことができるのかをつねに意識しながら授業に臨むこと。随時、グループワークを行うので積極的に参加すること。		

## 授業概要

科目名	知覚・認知心理学	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	望月勇希		
学科コース	心理カウンセラー科	学年	3年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間

### 【授業を通じての到達目標】

人の感覚や知覚などについてやその機序や障害、人の認知や思考などについてやその機序や障害について説明できる。

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

臨床心理士・公認心理師として医療、福祉、教育、企業などの多領域で臨床経験のある講師がその実務経験を活かし、心理学の知識が心理学的支援にどのようにつながるかについても交え授業を行う。

【使用教科書・教材・参考図書】 公認心理師の基礎と実践(7)【第7巻】 知覚・認知心理学 箱田裕司編 遠見書房		【授業時間外における学習】 ニュースやSNSなどでは様々な出来事や現象が発信されています。日ごろからアンテナを立てて心理学の視点と結びつけて考えてみましょう。	
コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	<p>【授業単元】 オリエンテーション 知覚・認知心理学を学ぶ前に</p> <p>【到達目標】 知覚や認知の定義について説明できる。</p>	9	<p>【授業単元】 第7章 記憶</p> <p>【到達目標】 記憶の構造やワーキングメモリー、長期記憶や忘却、建材記憶と洗剤記憶について説明できる。</p>
2	<p>【授業単元】 第1章 知覚・認知心理学とは</p> <p>【到達目標】 知覚・認知心理学の歴史や研究法について説明できる。</p>	10	<p>【授業単元】 第8章 知識の表象と構造</p> <p>【到達目標】 宣言的記憶と手続き的記憶、スキーマとスクリプト、概念とカテゴリーについて説明できる。</p>
3	<p>【授業単元】 第2章 感覚</p> <p>【到達目標】 感覚の種類や構造、特性について説明できる。</p>	11	<p>【授業単元】 第9章 イメージの性質と機能</p> <p>【到達目標】 イメージについてやその性質や機能について説明できる。</p>
4	<p>【授業単元】 第3章 視知覚</p> <p>【到達目標】 明るさや色の知覚運動や奥行きの知覚について説明できる。</p>	12	<p>【授業単元】 第10章 問題解決・推論・意思決定</p> <p>【到達目標】 問題解決や推論、判断と意思決定について心理学的に説明できる。</p>
5	<p>【授業単元】 第4章 聴知覚</p> <p>【到達目標】 音の性質や聴覚の仕組み、音声知覚について説明できる。</p>	13	<p>【授業単元】 第11章 認知の個人差</p> <p>【到達目標】 認知の個人差、IQとEQ、全体処理と部分処理の個人差について説明できる。</p>
6	<p>【授業単元】 第5章 感性</p> <p>【到達目標】 感性についてや快、不快、感性と創造の関係について説明できる。</p>	14	<p>【授業単元】 第12章 知覚・認知の障害</p> <p>【到達目標】 視知覚や記憶の障害について説明できる。</p>
7	<p>【授業単元】 第6章 注意</p> <p>【到達目標】 注意についてや注意の仕組みや機序について説明できる。</p>	15	<p>【授業単元】 科目まとめ・振り返り 定期試験・試験解答解説</p> <p>【到達目標】 ・科目の重要なポイントが確認できる。 ・自己学習に必要な課題を把握することができる。</p>
8	<p>【授業単元】 これまでの振り返り 中テストと中テストの解説</p> <p>【到達目標】 総復習によって1回から7回までの臨床心理学の基礎を系統的に説明できる。中テストによってそれを確認し解説することで知識の整理と定着をはかることができる。</p>	<p>【成績評価の方法と基準】 科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。</p>	
<p>【履修に当たっての心構え・留意点】 グループや個人、ペアなどの体験を通して学ぶワークがあります。お互いの違いを認め尊重し合う姿勢をもって取り組みましょう。</p>			

## 授業概要

科目名	神経・生理心理学	必修選択の別	必修選択	開講区分	前期	担当教員	阿相周一		
学科コース	心理カウンセラー科	学年	3年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
神経・生理心理学では、神経科学・脳科学の側面から、“心”的正体を探り、精神疾患を含む疾患のメカニズムの理解を目指す。具体的には、神経系およびニューロンの構造と機能、神経伝達物質とホルモンの機能、向精神薬含む薬物のメカニズム、本科目に関連する精神疾患含む疾患の理解を到達目標とする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
担当教員は、臨床心理士・公認心理師として、医療(特に依存症／アディクションを専門)や教育、治験等の分野で臨床活動に携わっている。授業では、アディクション臨床の知見を取り入れ、将来の臨床活動や日々の日常生活に役立つ実践的な知識を提供する。また、ディスカッションやグループワークも取り入れ、担当教員と生徒、生徒どうしといったように双方向のコミュニケーションを重視し、学習内容の理解を深める。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
使用教科書：公認心理師の基礎と実践 神経・生理心理学 遠見書房 参考図書：脳神経科学がわかる、好きになる 櫻井武 羊土社 など					本科目に関する図書・論文などは、使用教科書以外にも多数あります。授業で紹介する参考図書・論文などを、ぜひ読み比べてみてください。				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	【授業単元】 科目オリエンテーション～“心”とは何か～	9	【授業単元】 記憶と情動						
	【到達目標】 “心”とは何かという問いを通して、本科目を学ぶ意義を理解、説明することができる		【到達目標】 ・記憶のメカニズムを説明することができる ・情動のメカニズムを説明することができる ・記憶と情動に関連する障害を説明することができる						
2	【授業単元】 神経・脳の基礎講座①	10	【授業単元】 注意と知能～天才とは何か～						
	【到達目標】 ・本科目で扱う基礎知識を概観し、全体像を把握、理解、説明することができる		【到達目標】 ・注意機能を説明することができる ・知能を説明することができる ・注意機能と知能に関連する障害を説明することができる						
3	【授業単元】 自律神経系とホルモン～愛は観察可能か～	11	【授業単元】 遺伝と遺伝疾患						
	【到達目標】 ・自律神経系(交感神経、副交感神経)を説明することができる ・ホルモンの機能を説明することができる ・ストレスのメカニズムを説明することができる		【到達目標】 ・遺伝のメカニズムを説明することができる ・遺伝疾患を説明することができる						
4	【授業単元】 神経・脳の基礎講座②～脳の構造と機能～	12	【授業単元】 老いと死						
	【到達目標】 ・脳の構造を説明できる ・各脳領域の機能を説明することができる ・脳損傷で生じる障害を説明することができる		【到達目標】 ・認知症を説明することができる ・脳死を説明することができる						
5	【授業単元】 人はなぜ快樂を求めるのか～酒、ドラッグ、ギャンブルに“ハマる”メカニズム～	13	【授業単元】 意識と無意識、夢						
	【到達目標】 ・脳内報酬系のメカニズムを説明することができる ・薬物のメカニズムを説明することができる ・アディクション(依存症)を説明することができる		【到達目標】 ・意識を説明することができる ・脳波を説明することができる ・睡眠を説明することができる						
6	【授業単元】 闇と光の脳科学	14	【授業単元】 バイオハザードのリスクビンビ～臨床						
	【到達目標】 ・神経科学・脳科学の歴史を説明することができる ・最先端の神経科学・脳科学を説明することができる		【到達目標】 ・脳に影響を及ぼす感染症を説明することができる ・これまでの授業で学んだ知識をもとに、“ゾンビ”症状のメカニズムを、神経・脳科学の観点から説明することができる						
7	【授業単元】 精神疾患と向精神薬・睡眠薬	15	【授業単元】 これまでの授業の振り返り 定期テスト実施 定期テストの解答解説						
	【到達目標】 ・精神疾患(うつ病、統合失調症、不安障害)と脳との関連を説明することができる ・神経伝達物質のメカニズムを説明することができる ・薬の副作用・運動障害を説明することができる		【到達目標】 第1回から第14回までの学習内容を取得できている						
8	【授業単元】 これまでの授業の振り返り 中テスト実施 中テストの解答解説		【成績評価の方法と基準】 科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。						
	【到達目標】 第1回から第7回までの学習内容を取得できている								
【履修に当たっての心構え・留意点】					-「なぜ」という疑問、好奇心、興味関心を大切にしてください				

## 授業概要

科目名	社会・集団・家族心理学	必修選択の別	必修	開講区分	後期	担当教員	本郷 裕理		
学科コース	心理カウンセラー科	学年	3年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間

### 【授業を通じての到達目標】

- 対人関係並びに集団において、人の意識及び行動に影響を与える心理の過程について学ぶ
  - 人の態度及び行動の関連について説明できる
  - 家族・集団・及び文化が個人に及ぼす行動について説明できる

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

精神保健福祉相談、女性相談、ひきこもり相談、自殺防止相談の現場で相談支援に携わってきた経験を活かして、支援の現場における事例を交えながら、習った知識がどのような形で現場に寄与するかを提示し、現場感覚を養える授業を行います。

【使用教科書・教材・参考図書】		【授業時間外における学習】	
教科書:社会・集団・家族心理学(遠見書房)		パラレル読みを通して、知識を自分のものにし、かつ、その過程で持った疑問等を授業で提示してほしい	
コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	<p>【授業単元】 社会・集団・家族心理学とは何か</p> <p>【到達目標】 ・社会的行為について説明ができる ・レビンの行動図式について説明ができる</p>	9	<p>【授業単元】 社会的相互作用</p> <p>【到達目標】 ・囚人のジレンマについて説明ができる ・共有地の悲劇について説明ができる</p>
2	<p>【授業単元】 対人認知</p> <p>【到達目標】 ・対人認知とはどういうことかについて説明できる ・アッシュの中心特性・特性推論・暗黙の性格理論について説明できる</p>	10	<p>【授業単元】 対人関係の形成と発展</p> <p>【到達目標】 ・対人魅力に関する2つの理論について説明できる ・対人関係の初期から中期にかけて重要な対人魅力の規定因について説明できる ・対人関係の中期から後期にかけて重要な対人魅力の規定因について説明できる</p>
3	<p>【授業単元】 態度と行動</p> <p>【到達目標】 ・態度の定義について説明できる ・態度の測定方法について説明できる ・認知的不協和について説明できる</p>	11	<p>【授業単元】 家族の人間関係</p> <p>【到達目標】 ・家族ライフサイクルについて説明できる ・家庭内でおこる暴力のメカニズムについて説明できる</p>
4	<p>【授業単元】 ステレオタイプと偏見</p> <p>【到達目標】 ・ステレオタイプと偏見の定義について説明できる ・確認バイアスについて説明できる ・ステレオタイプ活性と分離モデルについて説明できる</p>	12	<p>【授業単元】 ソーシャル・サポート</p> <p>【到達目標】 ・ソーシャルサポートのストレス緩和効果と直接効果について説明できる ・親密な関係のネガティブな効果について説明できる ・家族のソーシャルサポートが制限される要因について説明できる</p>
5	<p>【授業単元】 向社会的行動と反社会的行動</p> <p>【到達目標】 ・援助行動と攻撃行動、向社会的行動と反社会的行動の定義について説明できる ・援助行動の意思決定に与える要因と、意思決定のプロセスについて説明できる ・攻撃行動に与える要因と、攻撃行動の2つの種類について説明できる</p>	13	<p>【授業単元】 文化と社会心理</p> <p>【到達目標】 ・個人主義と集団主義について差異を説明できる ・文化間を移動する際に経験する心理的な反応について説明できる</p>
6	<p>【授業単元】 社会的促進と社会的抑制</p> <p>【到達目標】 ・社会的促進、社会的抑制・社会的手抜きについて説明できる ・社会的促進において行い者の動因を喚起する要因を挙げることができる ・社会的手抜きを防止する方法について説明できる</p>	14	<p>【授業単元】 集団行動とマスコミュニケーション</p> <p>【到達目標】 ・集会と集団の違いについて説明できる ・集会行動に影響する心理過程を説明できる ・マスコミュニケーションと集団行動の関連について説明できる</p>
7	<p>【授業単元】 社会的影響</p> <p>【到達目標】 ・同調に関する2つの実験の概要について説明できる ・服从実験が提起した倫理的な問題について説明できる ・説得の主たる4つの方法について説明できる</p>	15	<p>【授業単元】 定期試験(60点) 振り返り</p> <p>【到達目標】 第14回目までの授業内容を理解できている</p>
8	<p>【授業単元】 集団過程 【中テスト】</p> <p>【到達目標】 ・内集団バイアスと外集団へのステレオタイプの認知が発生するプロセスを説明できる ・リーダーシップの概念と、リーダーシップがもつ影響力について説明ができる ・集団極性化を起こす要因と対処法を説明できる</p>	【成績評価の方法と基準】	
【履修に当たっての心構え・留意点】		科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。	
社会で起きているできごとや、自分の身近で起きている現象のなかに、学んだことを関連付け、疑問をもつことを習慣づけていただきたい			

## 授業概要

### 【授業を通じての到達目標】

**身体障害・知的障害及び精神障害の概念と実態を理解できる。**  
**障害者・障害児の具体的な支援の方法について理解できる。**  
**障害者・障害児を支援するための法律を理解できる。**

## 【学习内容】

精神科医療や教育現場（スクールカウンセラー・教育相談）の中で、認知行動療法をベースにした関わりをしてきた教員が、公認心理師を目指すために、具体的な取り組みを紹介しながら、障害者(児)の理解と支援方法を獲得する授業を行う。さらに、グループワークを通して、障害者の支援のあの方を振り返り、今、どのような支援が必要か、自らの考えを理解を深め、心理師として多角的な視点と専門的な知識を併せ持つスペシャリストを目指して欲しい。講義は、パワーポイントを用いて行い、必要に応じて、グループワークを引き入れ、DVDなどの映像や技術の実技を取り入れた授業を行います。

【使用教科書・教材・参考図書】		【授業時間外における学習】	
使用図書:障害者・障害児心理学 遠見書房		授業で習ったことを自分なりにまとめ、使用図書で確認すること。	
コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	<p>【授業単元】 オリエンテーション、この授業の目的、障害を取り巻く法律、障害者心理が役立つ領域、近年の障害者・児を取り巻く状況や支援を巡る状況について理解する。</p> <p>【到達目標】 障害者・障害児心理学の目的と貢献について理解する。 障害者・障害児心理学の射程と目的について理解する。 近年の障害者・障害児を取り巻く状況や支援を巡る状況について理解する。</p>	9	<p>【授業単元】 身体障害者・知的障害を取り巻く心理社会的課題について理解する。</p> <p>【到達目標】 障害受容とプロセスについて理解する。合理的配慮に関する課題について理解する。 障害の心理社会的特徴について理解する。 障害者のアセスメントと支援の概要について理解する。</p>
2	<p>【授業単元】 身体障害者(肢体不自由・視覚障害者)・知的障害の概要について理解する。(グループ発表)</p> <p>【到達目標】 身体障害・知的障害の概要と心理状態が理解できる。 公認心理師としてどのような支援が期待されているか理解できる。</p>	10	<p>【授業単元】 精神障害者を取り巻く心理社会的課題について理解する。</p> <p>【到達目標】 精神障害と心理社会的課題の関係性について理解する。 発達段階と生活領域で抱く心理社会的課題について理解する。 精神障害の心理アセスメントと心理的支援について理解する。</p>
3	<p>【授業単元】 精神障害の概要について理解する。(グループ発表)</p> <p>【到達目標】 精神医学アセスメントの方法を理解する。 従来診断と操作的診断基準の長所と短所を理解する。 どのような精神症状があるか理解する。</p>	11	<p>【授業単元】 発達障害を取り巻く心理社会的課題について理解する。</p> <p>【到達目標】 発達障害の基本的な特徴と支援について理解する。 特別支援教室の取り組みについて理解する。 二次な問題や二次障害の課題と支援について理解する。</p>
4	<p>【授業単元】 発達障害の概要について理解する。(グループ発表)</p> <p>【到達目標】 自閉症スペクトラム障害、限局性学習症、注意欠如・多動症の症状と心理状態が理解できる。 自閉症スペクトラム障害、限局性学習症、注意欠如・多動症の診断基準（ICD-10及びDSM-5）を説明できる。心理師として、果たすべき役割を説明できる。</p>	12	<p>【授業単元】 心理的支援(支持的心理療法・洞察的心理療法)の方法について理解する。</p> <p>【到達目標】 支持的心理療法の概要と手立てを理解する。</p>
5	<p>【授業単元】 情緒障害(不登校)の心理とその支援について理解する。(グループ発表)</p> <p>【到達目標】 不登校の現状について説明できる。 不登校の対応について説明できる。 心理師として、果たすべき役割を説明できる。</p>	13	<p>【授業単元】 心理的支援(芸術療法)の方法について理解する。</p> <p>【到達目標】 芸術療法の概要と手立てを理解する。</p>
6	<p>【授業単元】 ゲストスピーカーとの対話 (肢体不自由の障害を持つ方が生活中でどういった困難さがあるかを知る)</p> <p>【到達目標】 当事者からの話を聞き、これまでの困難さ、そして今の困難さを知ることができる。 当事者からの話を聞き、心理師として果たすべき役割を説明できる。</p>	14	<p>【授業単元】 心理的支援(認知行動療法)の方法について理解する。</p> <p>【到達目標】 認知行動療法の概要と手立てを理解する。</p>
7	<p>【授業単元】 心理アセスメントと様々な精神障害</p> <p>【到達目標】 心理アセスメントについて説明ができる。 どういった対応がより良いかを検討し、具体的な支援方法を説明できる。 様々な精神障害について説明ができる。心理師として、果たすべき役割を考える。</p>	15	<p>【授業単元】 これから公認心理師としてのあり方 定期試験</p> <p>【到達目標】 これまで習った内容を説明できる。 これまで習ったことをどのように活かすことができるか自分の考えを説明できる。</p>
8	<p>【授業単元】 中テスト(15満点)、医療・教育・福祉の心理師としての役割について理解する。</p> <p>【到達目標】 前半で講義の内容を総括する。 各分野での心理師として、果たすべき役割を説明できる。</p>	<p>【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験は筆記試験で行う。</li> <li>・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。</li> </ul>	
【履修に当たっての心構え・留意点】			

## 授業概要

科目名	心理的アセスメント	必修選択の別	必修	開講区分	通年	担当教員	福井 博一		
学科コース	心理カウンセラーコース	学年	3年	授業の方法	講義	単位数	4 単位	総時間数	60 時間

### 【授業を通じての到達目標】

次の2点を目標とする。

- ①心理的アセスメントの目的と意義について理解し、説明することができる。  
②心理的アセスメントの方法と実際について理解し、説明することができる。

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

公認心理師・臨床心理士・精神保健福祉士として、あらゆる年代の人々の、さまざまな相談に応じながら心理的アセスメントを行ってきた講師が、患者や利用者とかかわるために必要とされる、心理的アセスメントに関する授業を行う。

【使用教科書・教材・参考図書】

教科書は特に指定しない。必要に応じて関連資料を配布する。また、適宜、参考文献を紹介する。

## 【授業時間外における学習】

配布資料をもとに授業の復習をしっかりと行うこと。参考文献を読んでさらに理解を深めること。

コマ	授業計画	コマ	授業計画
1・2	<p>【授業単元】            ・オリエンテーション            ・心理的アセスメント総論～その1～            ・心理的アセスメント総論～その2～</p> <p>【到達目標】            ・本科目の目標・予定・進め方について理解し、説明することができる。            ・心理的アセスメントの目的・対象・内容・方法の概要について理解し、説明することができる。            ・心理的アセスメントのプロセスについて理解し、説明することができる。</p>	17・18	<p>【授業単元】            ・検査法の実際と事例～その7～            ・検査法の実際と事例～その8～</p> <p>【到達目標】            ・投映法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる～パウム・テスト～。            ・投映法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる～HTP他～。</p>
3・4	<p>【授業単元】            ・心理的アセスメント総論～その3～            ・心理的アセスメント総論～その4～</p> <p>【到達目標】            ・心理的アセスメントと精神医学的診断の異同について理解し、説明することができる。            ・心理的アセスメントと病理水準の関連について理解し、説明することができる。</p>	19・20	<p>【授業単元】            ・検査法の実際と事例～その9～            ・検査法の実際と事例～その10～</p> <p>【到達目標】            ・投映法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる            ～ロールシャッハ・テスト①②～。</p>
5・6	<p>【授業単元】            ・心理的アセスメント総論～その5～            ・心理的アセスメント総論～その6～</p> <p>【到達目標】            ・行動観察法と面接法について理解し、説明することができる①。            ・行動観察法と面接法について理解し、説明することができる②。</p>	21・22	<p>【授業単元】            ・検査法の実際と事例～その11～            ・検査法の実際と事例～その12～</p> <p>【到達目標】            ・投映法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる            ～ロールシャッハ・テスト③④～。</p>
7・8	<p>【授業単元】            ・心理的アセスメント総論～その7～            ・心理的アセスメント総論～その8～</p> <p>【到達目標】            ・認知行動療法における心理的アセスメントについて理解し、説明することができる①。            ・認知行動療法における心理的アセスメントについて理解し、説明することができる②。</p>	23・24	<p>【授業単元】            ・検査法の実際と事例～その13～            ・検査法の実際と事例～その14～</p> <p>【到達目標】            ・投映法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる～TAT・PFスタディ～。            ・投映法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる～SCT～。</p>
9・10	<p>【授業単元】            ・心理的アセスメント総論～その9～            ・心理的アセスメント総論～その10～</p> <p>【到達目標】            ・心理的アセスメントにおける検査法とその分類について理解し、説明することができる。            ・テスト・バッテリーについて理解し、説明することができる。</p>	25・26	<p>【授業単元】            ・検査法の実際と事例～その15～            ・検査法の実際と事例～その16～</p> <p>【到達目標】            ・知能検査の具体的方法と事例について理解し、説明することができる            ～ウェクスター法①②～。</p>
11・12	<p>【授業単元】            ・検査法の実際と事例～その1～            ・検査法の実際と事例～その2～</p> <p>【到達目標】            ・質問紙法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる～MMPI～。            ・質問紙法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる～CMI他～。</p>	27・28	<p>【授業単元】            ・検査法の実際と事例～その17～            ・検査法の実際と事例～その18～</p> <p>【到達目標】            ・知能検査の具体的方法と事例について理解し、説明することができる            ～ウェクスター法③④～。</p>
13・14	<p>【授業単元】            ・検査法の実際と事例～その3～            ・検査法の実際と事例～その4～</p> <p>【到達目標】            ・質問紙法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる～SDS他～。            ・質問紙法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる～MMSE他～。</p>	29・30	<p>【授業単元】            ・17回目～28回目までの振り返り            ・定期試験</p> <p>【到達目標】            ・17回目～28回目までの振り返りを行い、その内容を理解し、説明することができる。            ・定期試験を実施する。</p>
15・16	<p>【授業単元】            ・検査法の実際と事例～その5～            ・前半15回の振り返り</p> <p>【到達目標】            ・作業検査法の具体的方法と事例について理解し、説明することができる～内田クレベリン～。            ・前半15回の振り返りを行い、その内容を理解し、説明することができる。</p>		<p>【成績評価の方法と基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験60%、毎回授業の小テスト40%の配分で総合し、A～Fの6段階で評価する。</li> <li>試験は筆記試験で行う。</li> <li>毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1／2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。</li> </ul>
	<p>【履修に当たっての心構え・留意点】</p> <p>授業内容を現場にどのように活かすことができるのかをつねに意識しながら臨むこと。また、随時、グループワークやロールプレイを実施するので積極的に参加すること。</p>		

## 授業概要

科目名	健康・医療心理学	必修選択の別	必修	開講区分	後期	担当教員	久保田 廉文		
学科コース	心理カウンセラー科	学年	3年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間

### 【授業を通じての到達目標】

- 1 ストレスと心身の疾病との関係について理解できる。
  - 2 医療現場における心理社会的課題及び必要な支援について理解できる。
  - 3 保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援について理解できる。
  - 4 災害時等に必要な心理に関する支援について理解できる。

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

精神科医療や教育現場（スクールカウンセラー、教育相談）の中で、認知行動療法をベースにした関わりをしてきた教員が、公認心理師を目指すために、具体的な取り組みを紹介しながら、障害者(児)の理解と支援方法を習得する授業を行う。さらに、グループでの発表やグループワークを通して、障害の支援のあり方を振り返り、今、どのような支援が必要か、自らの考え方を理解を深め、心理師として多角的な視点と専門的な知識を併せ持つスペシャリストを目指して欲しい。講義は、パワーポイントを用いて行い、必要に応じて、発表やグループワークを取り入れ、DVDなどの映像や技術の実技を取り入れた授業を行う。

【使用教科書・教材・参考図書】

## 【授業時間外における学習】

使用図書: 健康医療心理学 遠見書房		授業を通じて「理解」「考え」「体験」し、そしてそれらをより深めるための自主的な学習そして体験が、現場で役立つものとなるでしょう。自らの学びの中で疑問点などを積極的に質問してより学びを深めてください。	
コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	<p><b>【授業単元】</b> オリエンテーション、健康心理学の概論</p> <p><b>【到達目標】</b> カリキュラムの中での、健康心理学の位置付けを説明できる。 健康心理学で学ぶ4つの目標を説明できる。 健康心理学の基本となる理念について説明できる。</p>	9	<p><b>【授業単元】</b> 総合病院のチーム医療における公認心理師の活動(グループ発表)</p> <p><b>【到達目標】</b> 患者が抱える多様な心理的特徴や問題についてのアセスメントについて説明できる。 総合病院における心理的支援・介入・心理療法について説明できる。 身体疾患患者のメンタルケアの重要性について説明できる。</p>
2	<p><b>【授業単元】</b> ストレスと生理学</p> <p><b>【到達目標】</b> ストレスと生理性の現象について説明できる。 心理社会的なストレス理論への展開について説明できる。 ストレスと健康について説明できる。</p>	10	<p><b>【授業単元】</b> 高齢者医療における公認心理師の活動(グループ発表)</p> <p><b>【到達目標】</b> 認知症の中後期状況やADL(行動と心理の圧迫)について説明できる。 七年静かぞき(介在型失禁障害とストレス対応)について説明できる。 認知症の性向や年齢につれ、せん妄について説明できる。 看護者に対して神経心理学的検査の目的と検査、そして心理教育や心理療法について説明できる。</p>
3	<p><b>【授業単元】</b> ストレスによる心身の疾病と行動医学</p> <p><b>【到達目標】</b> ストレスと心身の疾病について説明できる。 心身症について説明できる。 行動医学、予防医学、ストレスチェックテスト制度について説明できる</p>	11	<p><b>【授業単元】</b> 医療観察法指定医療機関における公認心理師の活動(グループ発表)</p> <p><b>【到達目標】</b> 医療観察法の目的を説明できる。 医療観察法の対象者について説明できる。 多職種チーム・アプローチについて説明できる。</p>
4	<p><b>【授業単元】</b> 健康心理学とポジティブ心理学</p> <p><b>【到達目標】</b> ポジティブ心理学の主要な3つのテーマについて説明できる。 ポジティブ感情の増強-形而上学説明について説明できる。 24種類の品目の個別の分野について説明できる。 心理的ウェルビーイングの6大元について説明できる。</p>	12	<p><b>【授業単元】</b> 健康支援活動における心理学的支援(薬物依存)</p> <p><b>【到達目標】</b> 薬物依存による健康への影響について説明できる。 薬物依存患者の心理的背景について説明できる。 薬物依存患者への心理学的支援法について説明できる。</p>
5	<p><b>【授業単元】</b> 精神科における公認心理師の活動(グループ発表)</p> <p><b>【到達目標】</b> 精神科の患者の心理的特徴について説明できる。 精神科チーム医療におけるアセスメントと公認心理師の役割を説明できる。 精神科の心理的介入における基本的な考え方について説明できる。</p>	13	<p><b>【授業単元】</b> 自殺対策</p> <p><b>【到達目標】</b> 日本の自殺の現状と対策について説明できる。 自殺の心理的背景を説明できる。 自殺対策に主体的に関わることが重要であることを説明できる。</p>
6	<p><b>【授業単元】</b> 心身医学(心療内科など)における公認心理師の活動(グループ発表)</p> <p><b>【到達目標】</b> 心身医学について説明できる。 心療内科チーム医療について説明できる。 精神科の診断について説明できる。 心療内科で使われる心理療法、心理検査について説明できる。</p>	14	<p><b>【授業単元】</b> 災害被災者の心理と支援</p> <p><b>【到達目標】</b> 被災後に生じる主な心理学的問題について説明できる。 災害後の心理プロセスについて説明できる。 災害直後の被災者支援(サイコロジカル・ファーストエイド)について説明できる。</p>
7	<p><b>【授業単元】</b> 小児医療・母子保健領域における公認心理師の活動(グループ発表)</p> <p><b>【到達目標】</b> 小児医療で求められている心理師の役割について説明できる。 小児医療での診療報酬上の位置づけについて説明できる。 小児医療及び母子保健領域の課題について説明できる。</p>	15	<p><b>【授業単元】</b> これまでの公認心理師としてのあり方 定期試験</p> <p><b>【到達目標】</b> これまで習った内容を説明できる。 これまで習ったことをどのように活かすことができるか自分の考えを説明できる。</p>
8	<p><b>【授業単元】</b> 中テスト(15満点)、脳神経内科・リハビリテーション領域における公認心理師の活動(グループ発表)</p> <p><b>【到達目標】</b> 精神内科学・リハビリテーション領域における主要疾患について説明できる。 高次機能障害について神経心理学的アセスメントの重要性を説明できる。 主要疾患の発育・行動の特徴について説明できる。 主要疾患の心理支援やリハビリテーションについて説明できる。</p>	<p><b>【成績評価の方法と基準】</b></p> <p>科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。</p> <p>毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。</p>	
<p><b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b></p> <p>心理師の多くは医療分野で働いています。つまり、医療分野の理解は不可欠です。自分なりに知識を深め、積極的に質問をしてください。グループ発表やロールプレーなどもしていきますので欠席や遅刻がないようにしてください。</p>			

## 授業概要

科目名	司法・犯罪心理学	必修選択の別	必修	開講区分	後期	担当教員	阿相周一		
学科コース	心理カウンセラーコース	学年	3年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
司法・犯罪心理学を概観し、基礎的・包括的な知識、理解を目指す。具体的には、以下の通りである。 罪と罰、司法制度、再犯防止活動を理解し、説明することができることを到達目標とする。									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
担当教員は、臨床心理士・公認心理師として医療(特に盗儀や痴漢、窃盗、違法薬物などの再犯防止プログラムの実施)や教育、SNS相談等の分野で臨床活動に携わっている。授業では、再犯防止プログラムの知見を取り入れ、将来の臨床活動や日常生活に役立つような実践的な知識を提供する。また、ディスカッションやグループワークも取り入れ、担当教員と学生、学生同士というように双方向のコミュニケーションを重視し、学習内容の理解を深める。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
使用教科書: 公認心理師の基礎と実践 司法・犯罪心理学第2版 遠見書房 参考図書: 各授業で適宜紹介					本科目に関する図書は、使用教科書以外にも数多くあります。授業で紹介する参考図書を、ぜひ読み比べてみてください。				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	【授業単元】 科目オリエンテーション  【到達目標】 犯罪心理学を学ぶ意義を説明することができる	9	【授業単元】 犯罪プロファイリング  【到達目標】 犯罪プロファイリングを説明することができる						
2	【授業単元】 罪と罰、そして正義  【到達目標】 罪と罰、正義を説明することができる	10	【授業単元】 犯罪に関する法律と制度 桃太郎事件1  【到達目標】 犯罪に関する法律と制度を説明することができる						
3	【授業単元】 日本社会の犯罪動向  【到達目標】 犯罪の動向を説明することができる	11	【授業単元】 犯罪に関する法律と制度 桃太郎事件2  【到達目標】 犯罪に関する法律と制度を説明することができる						
4	【授業単元】 なぜ人は、罪を犯すのか ~映画からみる犯罪心理~  【到達目標】 罪を犯すメカニズムを説明することができる	12	【授業単元】 犯罪被害者への心理支援  【到達目標】 犯罪被害者への心理支援を説明することができる						
5	【授業単元】 なぜ人は、罪を犯すのか ~アニメからみる犯罪心理~  【到達目標】 罪を犯すメカニズムを説明することができる	13	【授業単元】 犯罪加害者への再犯防止活動  【到達目標】 犯罪加害者への再犯防止活動を説明することができる						
6	【授業単元】 サイコパスの正体を探る  【到達目標】 ダークトライアドを説明することができる	14	【授業単元】 なぜ人は、罪を犯すのか ~そして真犯人は?~  【到達目標】 これまで学習した知識をもとに、事例における犯人を推理し その犯行メカニズムを説明することができる						
7	【授業単元】 犯罪・非行の心理アセスメント  【到達目標】 犯罪・非行の心理アセスメントを説明することができる	15	【授業単元】 これまでの授業の振り返り 定期テスト 定期テストの解答解説  【到達目標】 第1回から第14回までの学習内容を取得できている						
8	【授業単元】 これまでの授業の振り返り 中テスト 中テストの解答解説  【到達目標】 第1回から第7回までの学習内容を取得できている		<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。						
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>					<b>【「なぜ」という疑問、好奇心、興味関心を大切にしてください】</b>				

## 授業概要

## 授業概要

科目名	心理演習	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	山岸 有里		
学科コース	心理カウンセラーコース	学年	3年	授業の方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
①具体的な場面を想定し、心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能の習得(心理検査、心理面接) ②心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握、支援計画の作成及び地域の現場にて支援の実践を行う									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
臨床心理士として、20年カウンセリングを行いながら教員として心理系科目を担当。心理師を目指す学生に、職業倫理及び義務の理解と、心理的支援とは何かを、理解できるように指導していきたい。意識や自覚をしっかり持って、技術や知識が使える人材を育てます。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
毎回の配布資料(チームスの授業ファイルで共有) デバイス(パソコン、タブレット等)を準備 技術の習得に関しては、ループリック評価を使用					次回の授業で行う、発表の準備、提出物の作成。 知識、技術習得のための練習 外部で演習を行うため、時間外でのグループの打ち合わせ。				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1 ・ 2	【授業単元】 心理面接の技法を確認し、事例を基にロールプレイで実践。 ループリック評価内容を確認し、評価項目の意味をグループワークを通して理解する。  【到達目標】 ループリック評価を、学生がお互いに付け合う。(5点) 基本的技法の実施として、「主訴を捉えられている」を目指す。	17 ・ 18	【授業単元】 ①知能検査のグループ ②人格検査のグループに分かれて中テスト(15点)を実施 *グループでのループリック評価を使用。  【到達目標】 ①検査の説明 ②検査の準備 ③検査の実施 ④検査の結果を記録 ⑤検査の分析までをグループ(3~4名)全員が到達目標できる。						
3 ・ 4	【授業単元】 心理面接の技法を確認し、事例を基にロールプレイで実践。 ループリック評価内容を確認し、評価項目の意味をグループワークを通して理解する。  【到達目標】 ループリック評価を、学生がお互いに評価し合う。(5点) 基本的技法の実施として、「主訴を捉えられている」「共感する」を目指す。	19 ・ 20	【授業単元】 各グループ計画に従い、学び合いながら検査が実施できるようになる。 ①知能検査のグループ ②人格検査のグループを前回と交代してグループ学習を行う。  【到達目標】 検査のループリック評価を基に、お互いに評価し合う。(5点) ①検査の説明 ②検査の準備 ③検査の実施 ④検査の結果を記録 ⑤検査の分析までをグループ(3~4名)全員が到達目標をクリアできる。						
5 ・ 6	【授業単元】 心理面接の技法を確認し、事例を基にロールプレイで実践。ループリック評価内容を確認し、評価項目でお互いに評価し合う。事例のケースの支援計画を作成、グループで検討。  【到達目標】 ループリック評価を、学生がお互いに評価し合う。(5点) 基本的技法の実施として、「主訴を捉えられている」「共感する」を目指す。 支援計画を、グループで検討し、個人で作成。	21 ・ 22	【授業単元】 各グループ計画に従い、学び合いながら検査が実施できるようになる。 ①知能検査のグループ ②人格検査のグループでグループ学習を継続して行う。  【到達目標】 検査のループリック評価を基に、お互いに評価し合う。(5点) ①検査の説明 ②検査の準備 ③検査の実施 ④検査の結果を記録 ⑤検査の分析までをグループ(3~4名)全員が到達目標をクリアできる。						
7 ・ 8	【授業単元】 心理面接の技法を確認し、事例を基にロールプレイで実践。ループリック評価内容を確認し、評価項目でお互いに評価し合う。事例のケースの支援計画を作成、グループで検討。  【到達目標】 ループリック評価をもとに、基本的技法の評価テスト(5点)を実施。 「主訴を捉えられている」「共感する」を目指す。 支援計画を、グループで検討し、個人で作成。	23 ・ 24	【授業単元】 各グループ計画に従い、学び合いながら検査が実施できるようになる。 ①知能検査のグループ ②人格検査のグループでグループ学習を継続して行う。  【到達目標】 検査のループリック評価を基に、お互いに評価し合う。(5点) ①検査の説明 ②検査の準備 ③検査の実施 ④検査の結果を記録 ⑤検査の分析までをグループ(3~4名)全員が到達目標をクリアできる。						
9 ・ 10	【授業単元】 各グループ計画に従い、学び合いながら検査が実施できるようになる。 ①知能検査のグループ ②人格検査のグループに分かれてグループ学習を行う。  【到達目標】 検査のループリック評価を基に、お互いに評価し合う。(5点) ①検査の説明 ②検査の準備 ③検査の実施 ④検査の結果を記録 ⑤検査の分析までをグループ(3~4名)全員が到達目標をクリアできる。	25 ・ 26	【授業単元】 各グループ計画に従い、学び合いながら検査が実施できるようになる。 ①知能検査のグループ ②人格検査のグループでグループ学習を継続して行う。  【到達目標】 検査のループリック評価を基に、お互いに評価し合う。(5点) ①検査の説明 ②検査の準備 ③検査の実施 ④検査の結果を記録 ⑤検査の分析までをグループ(3~4名)全員が到達目標をクリアできる。						
11 ・ 12	【授業単元】 各グループ計画に従い、学び合いながら検査が実施できるようになる。 ①知能検査のグループ ②人格検査のグループに分かれてグループ学習を行う。  【到達目標】 検査のループリック評価を基に、お互いに評価し合う。(5点) ①検査の説明 ②検査の準備 ③検査の実施 ④検査の結果を記録 ⑤検査の分析までをグループ(3~4名)全員が到達目標をクリアできる。	27 ・ 28	【授業単元】 各グループ計画に従い、学び合いながら検査が実施できるようになる。 ①知能検査のグループ ②人格検査のグループでグループ学習を継続して行う。  【到達目標】 検査のループリック評価を基に、お互いに評価し合う。(5点) ①検査の説明 ②検査の準備 ③検査の実施 ④検査の結果を記録 ⑤検査の分析までをグループ(3~4名)全員が到達目標をクリアできる。						
13 ・ 14	【授業単元】 ①知能検査のグループ ②人格検査のグループに分かれてグループ学習を行う。 *グループ分けと各グループのスケジュール作成。  【到達目標】 検査のループリック評価、目標までの学ぶべき手順を理解できている。(5点) ①検査の説明 ②検査の準備 ③検査の実施 ④検査の結果を記録 ⑤検査の分析までをグループ(3~4名)全員が到達目標をクリアできる目標を立てる。	29 ・ 30	【授業単元】 【定期試験】事例を基に、①知能検査の結果 ②人格検査の結果を合わせて、所見を提出結果のフィードバックを実技で行い、それを評価する。  【到達目標】 所見、ロールプレイをループリック評価に従い、60点満点で評価を行う						
15 ・ 16	【授業単元】 ①知能検査のグループ ②人格検査のグループに分かれて中テストを実施 *グループでのループリック評価を使用。  【到達目標】 ①検査の説明 ②検査の準備 ③検査の実施 ④検査の結果を記録 ⑤検査の分析までをグループ(3~4名)全員が到達目標できる。(5点)		【成績評価の方法と基準】 定期試験:筆記試験形式、実技はループリック評価を使用 小テスト、中間テスト:実技、提出物にて評価する 合計点数 GP A評価 100~90点 4.0 <評価不良> B評価 89~80点 3.0 E:出席不良 C評価 79~70点 2.0 F:成績不良(59点以下) D評価 69~60点 1.0 *E,F評価 59点以下又は出席不良は、不合格						
【履修に当たっての心構え・留意点】									
技術の習得は、時間外の練習も不可欠となるため、主体的に学ぶと共に、仲間と協同する姿勢を持つこと。									

## 授業概要

科目名	心理実習	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年	担当 教員	関根 大介・山岸 有里・宮路 雄大
学科 コース	心理カウンセラーコース	学年	3年	授業の 方法	実習	単位数	1 単位 総時間数 80 時間

【授業を通じての到達目標】

保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野における見学等による実習を通して、①心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、②多職種や地域連携、③支援に際する職業倫理や法的義務についての理解する。

【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）

各実習先において、心理に関する実務経験（法第2条各号に掲げる行為の業務に5年以上従事）のある実習指導者が、心理演習担当教員および学科教員と連携し、見学および実習先事業所における心理的支援に関する講義や説明・支援対象者とのコミュニケーション・支援対象者の事例に基づく支援方法の検討・学びの振り返りや学生同士のディスカッションのファシリテート等を通して指導を行う。

【使用教科書・教材・参考図書】

実習要項  
公認心理師指定科目 各教科書

【授業時間外における学習】

実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に活かしていく姿勢が必要である。

授業計画

○現場実習

- ・保健医療分野（精神科病院・診療所等）、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の領域

※医療機関については必須

○実習事前・事後指導を受けることとする。

各現場実習先においては、到達目標の達成のために各実習先の実情に応じて以下について機会を提供および指導を行う。

①心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ

- ・事業省における面接や日常場面についての観察
- ・対象者に対する支援者の対応についての観察やミーティング等の見学
- ・事業所における支援の事例についての理解

②多職種連携及び地域連携

- ・事業所で働く他の専門職の連携の実際についての講義や業務の見学
- ・事業所においてチームで取り組んでいる事例についての理解

③公認心理師としての職業倫理及び法的義務

- ・心理的支援場面における職業倫理の実際についての学び
- ・心理的支援場面に関連する法的義務の実際について学び

なお、事業所の見学と合わせて以下を行うことにより、各学生の理解を促進する。

- ・可能な範囲での対象者とのコミュニケーション

【履修に当たっての心構え・留意点】

心理師としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢で取り組むことが求められる。

【成績評価の方法と基準】

・実習指導者による評価（実習施設ごと）、自己評価（実習施設ごと）、演習担当教員による評価（実習全体を通して）を換算し、A～Fの6段階で評価する。

## 授業概要

科目名	卒業研究Ⅱ	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	丸山 亮光		
学科コース	心理カウンセラー科	学年	4年	授業の方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間

### 【授業を通じての到達目標】

公認心理師及び精神保健福祉士をはじめとした対人支援職の「研究者-実践家モデル」として求められる「研究者」の実践として、以下の内容の集大成として、全体への卒業研究発表が達成できることを目指とする。

①心理学における実証的研究法(量的研究及び質的研究)の計画並びに実施ができる。②データを収集して実証的に結果を集積し、発表できる。

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

臨床心理士及び公認心理師である教員が、卒業研究を全体に発表する上で必要となる観点や手法について解説し、研究内容を実際の支援に活用する上で必要となる要点から支援職としての生涯学習への姿勢につながるような内容を展開していく。

【使用教科書・教材・参考図書】

- Excelで今すぐはじめる心理統計 簡単ツールHADで基本を身につける(小宮あすか他)、【参考】改訂新版: 心理学論文の書き方(松井豊)  
※教科書よりもスライドなどが中心となる。必要に応じて資料は配付予定。

### 【授業時間外における学習】

本授業は前年度の「卒業研究Ⅰ」の内容を踏まえ、前年度の調査研究や実践研究が前提となる。授業外で取り組む内容もあり、「支援職としての姿勢」や「生涯学習」につながる内容となるため、主体性に基づく学習を支援する。

コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	<p>【授業単元】 オリエンテーションと各組のディスカッション</p> <p>【到達目標】 前年度までの卒業研究の流れを振り返り、全体発表に向けての課題を整理することができる。</p>	9	<p>【授業単元】 研究分野習熟(1)乳幼児～児童期・療育に関する研究分野と支援</p> <p>【到達目標】 乳幼児～児童期や療育の研究分野に関する内容の検討を行い、そこで求められる研究的視点や人材としての姿勢を説明できる。</p>
2	<p>【授業単元】 資料構成(1)レジュメの要約</p> <p>【到達目標】 卒業研究で作成したレジュメの要約を作成することができる。</p>	10	<p>【授業単元】 研究分野習熟(2)青年期・教育に関する研究分野と支援</p> <p>【到達目標】 青年期と教育における研究分野に関する内容の検討を行い、そこで求められる研究的視点や人材としての姿勢を説明できる。</p>
3	<p>【授業単元】 資料構成(2)スライドとプレゼンテーション</p> <p>【到達目標】 全体発表におけるプレゼンテーションで用いるスライドのポイントについて説明し、一般水準に向けた構成を検討することができる。</p>	11	<p>【授業単元】 研究分野習熟(3)成人期・産業に関する研究分野と支援</p> <p>【到達目標】 成人期・産業における研究分野に関する内容の検討を行い、そこで求められる研究的視点や人材としての姿勢を説明できる。</p>
4	<p>【授業単元】 資料構成(3)研究課題と今後の展望</p> <p>【到達目標】 卒業研究でまとめた研究課題と今後の展望について、実践する場合の研究概要をまとめることができる。</p>	12	<p>【授業単元】 研究分野習熟(4)老年期・医療に関する研究分野と支援</p> <p>【到達目標】 老年期・医療における研究分野に関する内容の検討を行い、そこで求められる研究的視点や人材としての姿勢を説明できる。</p>
5	<p>【授業単元】 議題検討(1)研究場面と現場場面</p> <p>【到達目標】 研究として実施された結果から得られた妥当性と、実際の支援場面においての差異について説明することができる。</p>	13	<p>【授業単元】 最終発表に向けて(1)</p> <p>【到達目標】 最終発表に向けて必要な資料の整理と質疑応答における対応について説明し、実践することができる。</p>
6	<p>【授業単元】 議題検討(2)研究活用としての支援</p> <p>【到達目標】 卒業研究並びに先行研究から得られた知見において、支援職として抑えておくべき現場課題を整理できる。</p>	14	<p>【授業単元】 最終発表に向けて(2)</p> <p>【到達目標】 発表を展開するにあたって全体での役割を担い、対応を準備することができる。</p>
7	<p>【授業単元】 議題検討(3)生涯学習と研究的視点</p> <p>【到達目標】 研究的な視点を保つことが支援職としての生涯学習にどのように寄与するのかを説明することができる。</p>	15	<p>【授業単元】 最終発表準備+最終発表本番</p> <p>【到達目標】 卒業研究を総括し、全体発表として内容を展開することができる。 また、発表日に向けて資料の最終調整を行い、備えることができる。</p>
8	<p>【授業単元】 中間課題と卒業研究校正</p> <p>【到達目標】 卒業研究にまつわる内容の校正を行うと共に、研究にまつわる場面事例に対して適切な回答ができる。</p>	【成績評価の方法と基準】	
【履修に当たっての心構え・留意点】		<p>科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。</p> <p>試験はレポート、発表形式(作成物、プレゼンテーション)の評価で行う。</p> <p>毎回の小テスト課題は各回5点満点とし、中テスト課題(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り捨て)を小テスト・中テストの課題合計点とする。</p> <p>7月末にある最終発表においては、基本的に受講者全員が発表者であり、進行する役割を担当する場合があるため、注意しておくこと。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本授業は「応用」が主軸となるため、実際の支援場面の想定が重要となる。</li> <li>・卒業研究の校正を並行して実施するため、個々で作業を進めていくこと。</li> <li>・授業終了後は対応できないため、質問などは効率的に行なうことを推奨する。</li> </ul>			

## 授業概要

## 授業概要

## 授業概要

科目名	ソーシャルワーク特別演習Ⅲ	必修選択の別	必修	開講区分	後期	担当教員	安部 直美		
学科コース	心理カウンセラー科	学年	4年	授業の方法	演習	単位数	13 単位	総時間数	390 時間

【授業を通じての到達目標】

国家試験対策だけではなく、1年後の専門職として働くことができるよう心構えや気構え、姿勢といった点を現場で働くOB/OGの話を聞くことにより考え、身に着ける。

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

国家試験対策においては、過去の国家試験および模擬試験等を活用し、実施していく。個の学習のみではなくTAを活用した学習を行っていく。進学・就職関連においては、大学院や医療機関等で活躍するOB/OGをゲスト講師として招き講話してもらう。

【使用教科書・教材・参考図書】

各教員から適宜資料及びレジュメ等を配布する。

【授業時間外における学習】

学習計画表や模範解説等のツールを活用し、学ぶこと。

コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	【授業単元】受験対策 【到達目標】共通科目および精神保健福祉士専門科目	9	【授業単元】受験対策 【到達目標】直前対策
2	【授業単元】受験対策 【到達目標】共通科目および精神保健福祉士専門科目	10	【授業単元】受験対策 【到達目標】直前対策
3	【授業単元】模擬試験② 【到達目標】赤マル模試	11	【授業単元】受験対策 【到達目標】直前対策
4	【授業単元】模擬試験フィードバック(個別面談) 【到達目標】滋慶模試フィードバック	12	【授業単元】受験対策 【到達目標】直前対策
5	【授業単元】模擬試験③ 【到達目標】滋慶模試②	13	【授業単元】受験対策 【到達目標】直前対策
6	【授業単元】模擬試験フィードバック(個別面談) 【到達目標】滋慶模試フィードバック	14	【授業単元】受験対策 【到達目標】直前対策
7	【授業単元】模擬試験④ 【到達目標】ソ教連模試	15	【授業単元】受験対策 【到達目標】直前対策
8	【授業単元】模擬試験フィードバック(個別面談) 【到達目標】滋慶模試フィードバック	<b>【成績評価の方法と基準】</b> 模擬試験等における結果をもとに、復習した内容の提出および面談をもって評価する。 評価基準においては、以下を参考にすること。 ① 解説の丸写しになっていないか ② 今の状況に対して、自己で振り返ることができ自己評価ができているか 上記内容を60点とし、授業出席(授業態度等)を40点にし、計100点での評価とする。	
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b> 受け身になりすぎずに、主体的に、学びたい内容や聴講したい分野を提案していくようにしていってください。			

## 授業概要

科目名	地域福祉応用実習指導	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	学科教員			
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	4年	授業の 方法	演習	単位数	3	単位	総時間数	90 時間

【授業を通じての到達目標】

- ・応用実習の意義について理解する。
- ・応用実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術を体得する。
- ・ソーシャルワーカーとして求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
- ・具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。

【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）

精神保健福祉士もしくは社会福祉士としての実務経験が5年以上もしくは実習教員講習会を修了した教員が、集団および個別指導にて実習先における事前理解や実習終了後の現場体験を踏まえた総括等をおこなう。

【使用教科書・教材・参考図書】

【授業時間外における学習】

実習要項

実習オリエンテーションに参加するとともに、実習先についての事前学習等、実習に向けた各自の学習が必要である。

授業計画

実習開始前と実習終了後に下記の内容にて実施する

- ・ 応用実習と応用実習指導における個別指導及び集団指導の意義
- ・ 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解
- ・ 実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解
- ・ 現場体験学習及び見学実習（実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験等を含む。）
- ・ 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解
- ・ 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解（個人情報保護法の理解を含む。）
- ・ 「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解
- ・ 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成
- ・ 巡回指導
- ・ 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成
- ・ 実習の評価全体総括会

【履修に当たっての心構え・留意点】

【成績評価の方法と基準】

ソーシャルワーカーとしてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むための心がまえが求められる。

実習前試験(100点満点)の結果をふまえ、A～Fの6段階で評価する。

## 授業概要

科目名	地域福祉応用実習	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	前・後期	担当 教員	学科教員			
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	4年	授業の 方法	実習	単位数	4	単位	総時間数	210 時間

【授業を通じての到達目標】

- ・応用実習を通して、相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。
- ・応用実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。
- ・相談職として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
- ・総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）

実務経験がある学科教員が、実習中の取り組みについてフィードバックとスーパービジョンを行うなかで、実践を通して学んだ知識や経験を理論としてまとめる能力の涵養を行う。

【使用教科書・教材・参考図書】

【授業時間外における学習】

実習要項

実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。

授業計画

以下の内容について、学生が考えた実習計画書に沿って、実習指導者による指導を受け理解を図る。

★地域の障害福祉サービス事業を行う施設等

次に掲げる事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。

- ・利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成
- ・利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成
- ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との支援関係の形成
- ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワーメントを含む。）とその評価
- ・精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際
- ・精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解
- ・施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解
- ・施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実際
- ・当該実習先が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解

【履修に当たっての心構え・留意点】

【成績評価の方法と基準】

ソーシャルワーカーとしてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。

学科教員による評価、自己評価を換算し、A～Fの6段階で評価する。

## 授業概要

科目名	権利擁護を支える法制度	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	上本昌昭			
学科コース	心理カウンセラーコース	学年	4年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間	
【授業を通じての到達目標】										
・意思決定支援とは何か、意思決定支援を行う上で遵守すべき事項について理解している。 ・成年後見制度の利用手続きと後見人等の権限の違いについて説明できる。 ・行政不服審査制度と行政事件訴訟との違いと、その違いに基づく具体的な利用手続きについて説明できる。 ・消費者保護における消費者契約法と特定商取引法との違いを説明できる。										
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)										
大学などで基礎法学の教育に携わり、権利保障や紛争処理の仕組みについて研究する教員が、成年後見制度、相談援助に必要な法制度の知識など、要支援者の権利を擁護できる力を身につけるための授業を行う。										
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】					
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編(中央法規) 『最新・社会福祉士養成講座9 権利擁護を支える法制度』					法律は表現が回りくどく理解しづらいので、言葉や表現の理解に努める。また、授業で解いた問題は復習し、確実に解答できるようになっておく。					
コマ	授業計画	コマ	授業計画							
1	【授業単元】  科目ガイダンス／意思決定支援とは何か	9	【授業単元】  権利擁護にかかる組織や団体および専門職の役割							
	【到達目標】 ・なぜ権利擁護や権利救済の知識が必要なのかを理解する。 ・「支援付き意思決定」と「代理代行決定」の違いを説明できる。 ・意思決定支援に関する各種指針(ガイドライン)の内容を理解する。		【到達目標】 ・「家事調停」「家事審判」「人事訴訟」の対象事項を判別できる。 ・家庭裁判所、法務局などの組織の役割を説明できる。 ・弁護士、司法書士、社会福祉士などの専門職の役割を説明できる。							
2	【授業単元】  要支援者の権利(=支援者の義務)	10	【授業単元】  ソーシャルワークと法のかかわり②－行政法①							
	【到達目標】 ・憲法の「個人の尊重」原理と人格権について説明できる。 ・憲法が保障する各種の自由と、それに関連する判例を想起できる。 ・意思決定支援を行う際に課される義務を説明できる。		【到達目標】 ・行政行為とは何か説明できる。 ・裁量行為と司法審査の関係について理解する。 ・行政救済制度の全体像を理解する。							
3	【授業単元】  ソーシャルワークと法のかかわり①－憲法	11	【授業単元】  ソーシャルワークと法のかかわり③－行政法②							
	【到達目標】 ・生存権の意義、社会保障制度との関連について説明できる。 ・朝日訴訟と堀木訴訟の違いと最高裁判決の内容を説明できる。 ・「権利能力」「意思能力」「行為能力」の違いを説明できる。		【到達目標】 ・審査請求とは何か説明できる。 ・不服申立前置主義による行政救済手続きの違いを説明できる。 ・行政事件訴訟の訴訟類型を説明できる。							
4	【授業単元】  成年後見制度①	12	【授業単元】  ソーシャルワークと法のかかわり④－民法①							
	【到達目標】 ・法定後見と任意後見の相違点について説明できる。 ・成年後見人、保佐人、補助人が有する権限の違いを説明できる。 ・後見人等の「事務」と「義務」の内容について説明できる。		【到達目標】 ・契約の成立要件を理解し、各種の典型契約の特徴を列挙できる。 ・消費者契約法と特定商取引法による救済方法を説明できる。 ・債務不履行、不法行為、国家賠償の各種責任を説明できる。							
5	【授業単元】  成年後見制度②	13	【授業単元】  ソーシャルワークと法のかかわり⑤－民法②							
	【到達目標】 ・法定後見の「申立権者」について列挙できる。 ・後見人等の「辞任」と「解任」の各手続きについて説明できる。		【到達目標】 ・婚姻、離婚、実子関係、養子縁組などの制度を理解する。 ・扶養義務の範囲と強度の違いを理解する。 ・遺産の法定相続分を計算できる。							
6	【授業単元】  成年後見制度③	14	【授業単元】  権利擁護を支える仕組み							
	【到達目標】 ・任意後見が開始されるまでの手続きについて説明できる。 ・任意後見受任者、任意後見人、任意後見監督人を説明できる。		【到達目標】 ・行政救済、民事救済の各種方法と苦情解決の仕組みを想起できる。 ・虐待や暴力を防止する各種法律の概要を説明できる。 ・差別を防止する各種法律の概要を説明できる。							
7	【授業単元】  成年後見制度④	15	【授業単元】  定期試験・振り返り							
	【到達目標】 ・成年後見制度の今日的課題を列挙できる。 ・『成年後見関係事件の概況』の内容を想起できる。 ・成年後見制度全体を復習し理解を深める。		【到達目標】 ・知識が不足している部分、自分が弱い事項を確認する。 ・定期試験の解答解説を通じて、これまでの学習内容を振り返る。							
8	【授業単元】  日常生活自立支援事業と成年後見制度利用支援事業		【成績評価の方法と基準】							
	【到達目標】 ・日常生活自立支援事業の利用手続きと事業内容を説明できる。 ・日常生活自立支援事業と成年後見制度の異同を説明できる。 ・成年後見制度利用支援事業の内容を説明できる。		科目的評価は、筆記試験で行う。筆記試験は、授業内で扱った内容の理解や定着を確認するものである。							
【履修に当たっての心構え・留意点】					各回の授業で5点満点の小テストを実施する(第8回のみは15点満点)。その上で、成績は、小テストの合計点に1/2を乗じた点数(40点満点: 小数点以下は切り上げ)と定期試験(60点満点)を合算した100点満点で、AからFの6段階で評価を行う。					
授業では、ノートはしっかりとおり、また、配布したプリントは整理して、後から見直せるようにしておくこと。分からないところは放置せず、理解することを諦めない。										

## 授業概要

科目名	精神医学と精神医療	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	梅崎宏樹		
学科コース	心理カウンセラーコース	学年	4年	授業の方法	講義	単位数	4 単位	総時間数	60 時間

【授業を通じての到達目標】

精神医学と疾患分類、診断、そして治療に関し、精神保健福祉士として必要な知識を習得することを目指します。主に代表的な精神疾患と疾患ごとの薬物療法及び非薬物療法、リハビリテーションに関する講義を行います。

【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

授業は「精神医学と精神医療」をテキストを中心に講義しますが、自験例や架空の事例などを呈示しながら精神疾患を抱えて生きる方々への理解が深められる授業にしたいと思っています。

【使用教科書・教材・参考図書】

- 最新精神保健福祉士養成講座『精神医学と精神医療』(2023年、中央法規)
- もっと理解を深めたい方へ: 中井久夫・山口直彦著『看護のための精神医学 第2版』(2004年、医学書院)

コマ	授業計画	コマ	授業計画		
1	【授業単元】 講義のオリエンテーション	17	【授業単元】 神経症性障害		
2	【到達目標】 精神の病は古代ギリシャ時代より記述されてきました。四体液学説から始まり、中世の魔女狩りを経て、やがて現代的な精神医学が生まれます。精神医学の歴史を概観しながら、「精神が病む」とはどういうことなのか、皆さんに問い合わせながら一緒に考えてもらいたいと思います。	18	【到達目標】 ストレスや心理的葛藤などを原因とした精神疾患の解説、治療に関して講義します。また、これらの治療や解明に影響を与えた精神療法についても詳細に解説します。各疾患の把握、薬物療法および非薬物療法の理解を目標とします。		
3	【授業単元】 心のありか、脳の構造、精神病理学、ICDとDSMについて	19	【授業単元】 摂食障害、睡眠障害、パーソナリティ障害、性行動の障害		
4	【到達目標】 心は目にみませんが、心の成立させているのはおそらく脳という臓器だと考えられます。脳の機能や情報処理の構造などを理解しながら、精神疾患がなぜ生じるのか一緒に考えてもらいたいと思います。	20	【到達目標】 摂食障害は大変しつこく、治療が長期に及ぶ場合がある精神疾患です。摂食障害への理解、治療、ケアなどについて講義します。睡眠障害、パーソナリティ障害等についての解説も行います。これら講義した精神疾患への理解を目標とします。		
5	【授業単元】 器質性精神障害	21	【授業単元】 精神遅滞(知的障害)、発達障害		
6	【到達目標】 脳の器質的な変性や障害を原因とした精神疾患について講義します。特に認知症に関し、認知症の分類、認知症検査、薬物療法およびリハビリテーションへの理解を目標とします。	22	【到達目標】 精神遅滞と発達障害に関する講義を行います。特にこれらの疾患は就学前や義務教育の段階で自立、医療や福祉につながります。薬物療法という手腕は得意とするところではなく、療育することが大切です。精神遅滞と発達障害に関する理解、療育についての理解を目標とします。		
7	【授業単元】 物質使用による精神障害	23	【授業単元】 精神科薬物療法		
8	【到達目標】 アルコールや違法薬物の摂取による依存症について講義します。アルコール依存症や薬物依存に関する治療、リハビリテーションに関する理解を目標とします。	24	【到達目標】 各疾患単位で薬物療法について解説ましたが、精神科で処方される抗精神病薬や抗うつ薬などについて改めて理解することを目標とします。		
9	【授業単元】 統合失調症と妄想性障害	25	【授業単元】 非薬物療法(リハビリテーションや精神療法)		
10	【到達目標】 近代精神医学は統合失調症の解明と治療を中核に置いてきた歴史がありますが、未だ謎の多い精神疾患です。統合失調症の分類、薬物療法、非薬物療法としてのリハビリテーション、精神療法に関する理解を目標とします。	26	【到達目標】 非薬物療法として精神科におけるリハビリテーションと精神療法について解説します。特に私自身は公認心理師として精神科などで精神療法を担当してきました。さまざまな精神療法がありますので、理解を目指してください。		
11	【授業単元】 統合失調症と妄想性障害	27	【授業単元】 精神科医療の制度		
12	【到達目標】 急性精神病、妄想性障害、思春期妄想症などの統合失調症に類似する精神疾患の解説や治療に関する理解を目標とします。	28	【到達目標】 精神科医療には入院や外来があり、その他にも精神科訪問看護や訪問リハビリテーションなどのサービス、精神科デイケアがあります。精神医療制度の把握を目標とします。今現在私が注目しているフィンランドの精神医療制度としてオーブンダイアローグの取り組みについてもご紹介します。		
13	【授業単元】 気分障害(うつ病)	29	【授業単元】 期末テスト、地域の精神医療・精神保健		
14	【到達目標】 気分障害のうち、うつ病に関する講義を行います。うつ病の症状や分類、薬物療法および非薬物療法に関する理解を目標とします。	30	【到達目標】 これまで扱った内容を範囲として定期試験を行います。最終回は、精神医療は入院治療中心から地域への移行、外来通院治療へシフトし、入院や地域移行、社会復帰など様々な場面でPSWの方は関わっています。精神科医療における連携について理解することを目標とします。		
15	【授業単元】 気分障害(双極性障害)・中間テスト	【成績評価の方法と基準】			
16	【到達目標】 15回目は中間テストを行います。これまで講義で扱った内容を範囲とします。 16回目は気分障害のうち双極性障害の分類、精神症状、薬物療法および非薬物療法に関する理解を目標とします。	科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。また、試験はTeamsで行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。			
【履修に当たっての心構え・留意点】					
授業でやったことを知識として習得するだけでなく、精神科実習などを通し、患者さんの体験を大切にし、体験をした主体を尊重することを目指してください。					

## 授業概要

## 授業概要

科目名	ソーシャルワーク実習指導（精神）	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	前・後期	担当 教員	学科教員			
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	4年	授業の 方法	演習	単位数	3	単位	総時間数	90 時間

【授業を通じての到達目標】

- ・精神保健福祉援助実習の意義について理解する。
- ・精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。
- ・精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。
- ・精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
- ・具体的な体験や援助活動を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）

精神保健福祉士としての実務経験が5年以上もしくは実習教員講習会を修了した教員が、集団および個別指導にて実習先における事前理解や実習終了後の現場体験を踏まえた総括等をおこなう。

【使用教科書・教材・参考図書】

実習要項  
精神保健福祉士指定科目 各教科書

【授業時間外における学習】

実習オリエンテーションに参加するとともに、実習先についての事前学習等、実習に向けた各自の学習が必要である。

授業計画

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

実習開始前と実習終了後に下記の内容にて実施する

- ・精神保健福祉援助実習と精神保健福祉援助実習指導における個別指導及び集団指導の意義
- ・精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む）に関する基本的な理解
- ・実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的な理解
- ・現場体験学習及び見学実習
- ・実習先で必要とされる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解
- ・精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解
- ・実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解（個人情報保護法の理解を含む）
- ・「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解
- ・実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成
- ・巡回指導（訪問指導、スーパービジョン）
- ・実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成
- ・実習の評価全体総括会

【履修に当たっての心構え・留意点】

ソーシャルワーカーとしてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むための心がまえが求められる。

【成績評価の方法と基準】

実習前試験の結果をふまえ、A～Fの6段階で評価する。

## 授業概要

科目名	ソーシャルワーク実習（精神）	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	前・後期	担当 教員	学科教員			
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	4年	授業の 方法	実習	単位数	4	単位	総時間数	210 時間

【授業を通じての到達目標】

- ・精神保健福祉援助実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。
- ・精神保健福祉援助実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。
- ・精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
- ・総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）

精神保健福祉士としての実務経験が3年以上かつ実習指導者講習会を修了した実習担当者が、相談援助実習担当教員の巡回指導と合わせ、実習中の取り組みについてフィードバックとスーパービジョンを行うなかで、実践を通して学んだ知識や経験を理論としてまとめる能力の涵養を行う。

【使用教科書・教材・参考図書】

実習要項

精神保健福祉士指定科目 各教科書

【授業時間外における学習】

実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。

授業計画

以下の内容について、各実習施設における実習計画書に沿って、実習指導者による指導を受ける。

1. 精神科病院等の病院

患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。

- ・入院時又は急性期の患者及びその家族への相談援助
- ・退院又は地域移行・地域支援に向けた、患者及びその家族への相談援助
- ・多職種や病院外の関係機関との連携を通じた援助

2. 精神科診療所

患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。

- ・治療中の患者及びその家族への相談援助
- ・日常生活や社会生活上の問題に関する、患者及びその家族への相談援助
- ・地域の精神科病院や関係機関との連携を通じた援助

3. 地域の障害福祉サービス事業を行う施設等・精神科病院等の医療機関

次に掲げる事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。

- ・利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成
- ・利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成
- ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との支援関係の形成
- ・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワーメントを含む。）とその評価
- ・精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際
- ・精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解
- ・施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解
- ・施設・機関・事業者・団体等の終業やサービスの管理運営の実際

【履修に当たっての心構え・留意点】

ソーシャルワーカーとしてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。

【成績評価の方法と基準】

実習指導者による評価、実習巡回教員による評価、自己評価を換算し、A～Fの6段階で評価する。

## 授業概要

科目名	産業・組織心理学	必修選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	阿相周一		
学科コース	心理カウンセラー科	学年	4年	授業の方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
産業・組織心理学を概観し、基礎的・包括的な知識の獲得と理解を目指す。具体的には、以下の通りである。 産業・組織の構造、労働関連法、産業保健を理解し、説明することができる到達目標とする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
担当教員は、臨床心理士・公認心理師として医療(特に依存症/アディクションを専門)や教育、SNS相談等の分野で臨床活動に携わっている。授業では、過去にEAPや精神科リワークデイケア(復職デイケア)、働く人の相談窓口等で働いていた見聞を取り入れ、将来の臨床活動や日常生活に役立つような実践的な知識を提供する。また、ディスカッションやグループワークも取り入れ、担当教員と生徒、生徒どうしというように双方向のコミュニケーションを重視し、学習内容の理解を深める。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
参考図書:各授業で適宜紹介					本科目に関する図書は、数多くあります。授業で紹介する参考図書を、ぜひ読み比べてみてください。				
コマ	授業計画	コマ	授業計画						
1	【授業単元】 科目オリエンテーション  【到達目標】 産業・組織心理学を学ぶ意義を説明することができる	9	【授業単元】 ストレスチェック制度  【到達目標】 ストレスチェック制度を説明することができる						
2	【授業単元】 産業組織とは  【到達目標】 産業・組織の構造を説明することができる	10	【授業単元】 EAP(従業員支援プログラム)における支援  【到達目標】 EAP(従業員支援プログラム)を説明することができる						
3	【授業単元】 仕事へのモチベーションとリーダーシップ  【到達目標】 仕事へのモチベーションとリーダーシップを説明することができる	11	【授業単元】 リワークデイケア(復職デイケア)における支援  【到達目標】 リワークデイケア(復職デイケア)を説明することができる						
4	【授業単元】 ワーク・ライフ・バランスとキャリア形成  【到達目標】 ワーク・ライフ・バランスとキャリア形成を説明することができる	12	【授業単元】 産業心理臨床における心理療法1 認知行動療法  【到達目標】 産業心理臨床における心理療法を説明することができる						
5	【授業単元】 職場のメンタルヘルス問題とケア  【到達目標】 職場で生じるメンタルヘルス問題とケアを説明することができる	13	【授業単元】 産業心理臨床における心理療法2 ACT  【到達目標】 産業心理臨床における心理療法を説明することができる						
6	【授業単元】 労働・産業分野の法 1  【到達目標】 労働・産業に関連する法を説明することができる	14	【授業単元】 経営と消費者心理  【到達目標】 経営と消費者心理を説明することができる						
7	【授業単元】 労働・産業分野の法 2  【到達目標】 労働・産業に関連する法を説明することができる	15	【授業単元】 これまでの授業の振り返り 定期テスト 定期テストの解答解説  【到達目標】 第1回から第14回までの学習内容を取得できている						
8	【授業単元】 これまでの授業の振り返り 中テスト 中テストの解答解説  【到達目標】 第1回から第7回までの学習内容を取得できている		【成績評価の方法と基準】 科目的評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。						
	【履修に当たっての心構え・留意点】 ・「なぜ」という疑問、好奇心、興味関心を大切にしてください								

## 授業概要